

# ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type -VN4 • User's Manual

## オフィスシリーズ Type -VN4

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。  
必ずお読みください。  
標準装備されている装置や機能と、  
取り付け可能な装置について説明しています。  
添付されているソフトウェアの使用方法や  
インストール方法について説明しています。



## ご使用前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

## 安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

**注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

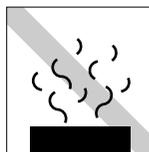
### 警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

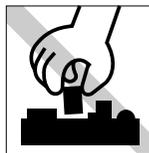
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



表示されている電源（交流100V）以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



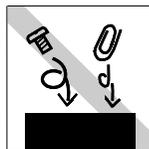
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

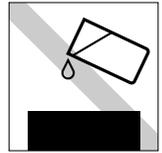
感電・火災の原因となります。



## 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。  
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

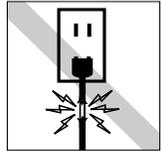


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

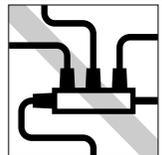
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

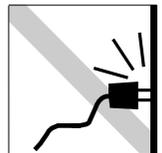
家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



本体や付属のバッテリーパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。

破裂などで火傷の原因となります。



バッテリーパックの端子をショートさせないでください。

火傷の原因となります。

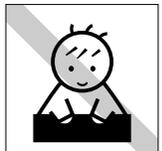


付属のACアダプタやバッテリーパックを分解しないでください。

火傷や、化学物質による被害の原因となります。



小さなお子さまの手の届く場所にバッテリーパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

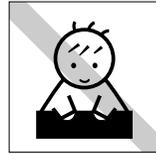


電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリーパックを装着したまま分解しないでください。感電や火傷の原因となります。

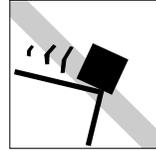


## ⚠ 注意

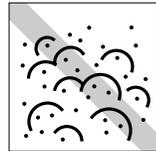
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

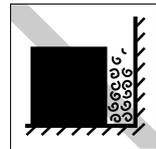


湿気やほこりの多い場所に置かないでください。  
感電・火災の危険があります。

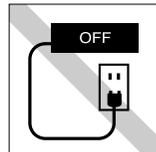


本製品の通風孔をふさがないでください。  
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。  
次のような場所には設置しないでください。

- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・ じゅうたんや布団の上
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



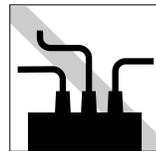
連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリーパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。  
配線を誤ると、火災の危険があります。



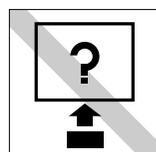
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



バッテリーパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。  
火傷や、化学物質による被害の原因となります。

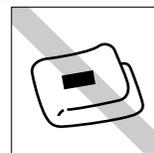


ACアダプタやバッテリーパックは、指定のコンピュータ以外には使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。

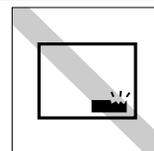


## ⚠ 注意

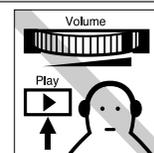
ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。  
火傷・火災の危険があります。



破損したACアダプタやバッテリーパックを使用しないでください。  
火傷・火災の危険があります。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。  
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。  
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。



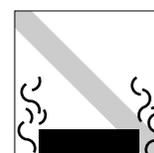
バッテリーパックやメモリの交換などは本製品の内部が高温時には行わないでください。内部が高温になるため火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。  
火傷や化学物質による被害の原因となります。  
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。



ひざの上で長時間使用しないでください。本体底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。





---

## コンピュータが届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方 / 切り方などについて説明します。

---

## 使ってみましょう

本製品の各部の名称や使い方について説明します。

---

## システムを拡張する

コンピュータに接続できる装置についての説明や取り付け方法について説明します。

---

## BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

---

## ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

---

## こんなときは

困ったときに

警告メッセージが表示されたら

---

## 付録

お手入れ方法、HDD領域の変更方法、仕様などについて説明します。

---

# 目次

マニュアル中の記号の意味	(10)
--------------	------

製品保護上の注意	(12)
----------	------

使用・保管時の注意 ..... (12)

記録メディア ..... (13)

## コンピュータが届いたら

ご使用の前に	2
--------	---

コンピュータを使い始めるまでの手順 ... 2

本機の特長 ..... 3

添付ソフトウェアの概要 ..... 4

各部の名称と働き	6
----------	---

正面・右側面 ..... 6

左側面 ..... 8

底面 ..... 8

背面 ..... 9

ハードウェアをセットアップしましょう	10
--------------------	----

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	14
-----------------------	----

電源を入れる前に ..... 14

電源の入れ方とWindowsの起動 ..... 16

セットアップ終了後の確認事項 ..... 17

Windows98インストールモデルのセットアップ	19
---------------------------	----

Windows98のセットアップ ..... 19

バックアップディスクの作成 ..... 21

Windows98起動ディスクの作成 ..... 22

WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ	23
------------------------------	----

WindowsNT4.0のセットアップ ..... 23

バックアップディスクの作成 ..... 26

Windows2000インストールモデルのセットアップ	27
-----------------------------	----

Windows2000のセットアップ ..... 27

バックアップディスクの作成 ..... 30

セットアップディスクの作成 ..... 31

電源の切り方	33
--------	----

Windows98の終了と電源の切り方 ..... 33

WindowsNT4.0の終了と電源の切り方 ... 34

Windows2000の終了と電源の切り方 .... 34

リセット ..... 35

## 使ってみましょう

ACアダプタ/バッテリーパックを使う	38
--------------------	----

バッテリーパックを使う ..... 39

バッテリー残量の確認 ..... 40

バッテリー残量が少なくなったら ..... 41

バッテリーの充電 ..... 43

バッテリー残量が正しく

表示されないときは ..... 44

バッテリーの交換 ..... 45

バッテリー保管上の注意 ..... 47

タッチパッドを使う	48
-----------	----

タッチパッドの操作 ..... 48

タッチパッドドライバ&

ユーティリティを使う ..... 50

マウスの接続 ..... 51

キーボードを使う	52
----------	----

入力キー ..... 52

外付けキーボードの接続 ..... 55

ホットキーを設定する ..... 56

FDD (フロッピーディスクドライブ)を使う	58
------------------------	----

FDのセットと取り出し ..... 59

コンピュータ持ち運び時の注意 ..... 59

FDのフォーマット ..... 60

データのバックアップ ..... 61

ライトプロテクト (書き込み禁止) 61

1.25MBのFDを使用する ..... 61

<b>HDD (ハードディスクドライブ) を使う</b>	62
データのバックアップ .....	62
HDDのフォーマット .....	63
購入時のHDD領域について .....	63
<b>CD-ROMドライブを使う</b>	64
CD-ROMのセットと取り出し .....	64
強制的なメディアの取り出し .....	66
<b>PCカードを使う</b>	67
PCカードのセットと取り外し .....	68
<b>赤外線通信を使う</b>	71
通信モードの設定 .....	71
赤外線デバイスの設定 .....	72
赤外線通信の実行 .....	73
<b>表示装置を使う</b>	75
LCDユニット .....	75
CRTディスプレイ .....	76
テレビ .....	79
<b>解像度や表示色を変更する</b>	80
Windows98の場合 .....	80
WindowsNT4.0の場合 .....	82
Windows2000の場合 .....	83
<b>サウンド機能を使う</b>	85
<b>FAXモデムを使う</b>	87
お使いになる前に .....	87
<b>インターネットに接続するには</b>	89
ダイヤルするための準備 .....	91
オンラインでプロバイダと契約する ..	93
手でダイヤルアップ接続の設定をする	94
インターネットへの接続と切断 .....	97
<b>インターネットエクスプローラと Outlook Expressの使い方</b>	99

インターネットエクスプローラの 使い方 .....	99
Outlook Expressの使い方 .....	101

---

## 省電力機能を使う 103

省電力機能の種類 .....	103
サスペンドモード .....	103
省電力機能の設定と実行 .....	105
レジューム方法 .....	108

---

## そのほかの機能 109

ネットワーク機能を使う .....	109
パラレルコネクタを使う .....	109
シリアルコネクタを使う .....	109
USBコネクタを使う .....	110
コンピュータウィルスの検索・駆除 ..	110

## システムを拡張する

---

### 拡張できる装置 112

---

### メモリモジュールの増設 113

作業時の注意 .....	113
SODIMMの増設 .....	114

---

### 外付け可能な周辺機器 118

## BIOSの設定

---

### BIOSの設定を始める前に 120

---

### BIOS Setupユーティリティの操作 121

BIOS Setupユーティリティの起動 ..	121
BIOS Setupユーティリティの操作 ..	121
設定をもとに戻すには .....	123
BIOS Setupユーティリティの終了 ..	124

---

## BIOS Setupユーティリティの設定項目 125

Mainメニュー画面 .....	125
Advancedメニュー画面 .....	126
Securityメニュー画面 .....	128
Powerメニュー画面 .....	131
Bootメニュー画面 .....	132
Exitメニュー画面 .....	133
BIOS Setupユーティリティの設定値 ...	134

## ソフトウェアの再インストール

---

### Windows98を使う場合 138

インストールの準備 .....	138
インストールの順番 .....	139
インストール時の注意 .....	140
基本MS-DOS領域のフォーマット..	142
Windows98のインストール .....	143
ディスプレイドライバのインストール ...	145
DirectX7のインストール .....	146
サウンドドライバのインストール..	147
3モードFDDドライバのインストール... 148	
スピードステップドライバの インストール .....	149
ホットキーユーティリティの インストール .....	150
タッチパッドドライバのインストール ..	150
ネットワークドライバのインストール ..	151
赤外線デバイス (FIR) の設定 .....	152
各種ドライバのインストール .....	152
STD領域の作成 .....	153

---

### WindowsNT4.0を使う場合 155

インストールの準備 .....	155
インストールの順番 .....	156
インストール時の注意 .....	157
基本MS-DOS領域のフォーマット	158
WindowsNT4.0のインストール.....	160
ネットワークドライバのインストール... 162	
WindowsNT4.0のアップデート .....	163

ディスプレイドライバのインストール ...	165
サウンドドライバのインストール ...	166
3モードFDDドライバのインストール... 167	
スピードステップドライバの インストール .....	167
ホットキーユーティリティの インストール .....	168
タッチパッドドライバのインストール ...	168
各種ドライバのインストール .....	169

---

### Windows2000を使う場合 170

インストールの準備 .....	170
インストールの順番 .....	171
インストール時の注意 .....	172
基本MS-DOS領域のフォーマット..	173
Windows2000のインストール .....	174
DMA転送の設定 .....	176
ディスプレイドライバのインストール ...	177
サウンドドライバのインストール..	179
3モードFDDドライバのインストール... 180	
スピードステップドライバの インストール .....	181
ネットワークドライバのインストール ..	182
赤外線デバイス (FIR) の設定 .....	183
各種ドライバのインストール .....	183

## こんなときは

---

### 困ったときに 186

起動時の不具合 .....	186
バッテリーバック使用時の不具合 ....	189
キーボードの不具合 .....	190
タッチパッドの不具合 .....	191
LCDの不具合 .....	191
FDDの不具合 .....	193
HDDの不具合 .....	194
CD-ROMドライブの不具合 .....	195
アプリケーションソフトの不具合 ....	196
メモリの不具合 .....	197
PCカードの不具合 .....	197

省電力機能に関する不具合 .....	198
プリンタの不具合 .....	198
スピーカの不具合 .....	199
FAXモデムの不具合 .....	199
そのほかの不具合 .....	202

---

<b>警告メッセージが表示されたら</b>	<b>203</b>
-----------------------	------------

## 付録

---

<b>お手入れ</b>	<b>206</b>
本機のお手入れ .....	206

---

<b>リチウム電池の交換</b>	<b>207</b>
------------------	------------

---

<b>ATコマンドの使用</b>	<b>208</b>
------------------	------------

---

<b>HDD領域の変更</b>	<b>209</b>
MS-DOS領域の種類 .....	209
HDD領域の変更 .....	210
既存領域の削除 .....	211
MS-DOS領域の作成 .....	214
MS-DOS領域のフォーマット .....	217

---

<b>コネクタ仕様</b>	<b>218</b>
---------------	------------

---

<b>機能仕様一覧</b>	<b>220</b>
機能仕様一覧 .....	220

---

<b>用語集</b>	<b>221</b>
------------	------------

# マニュアル中の記号の意味

本書では次のような記号を使用しています。

## 安全に関する記号



警告



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 一般情報に関する記号



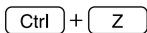
制限



参考



1 2



制限事項です。  
機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。  
覚えておくと便利なことを記載してあります。

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  
はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。  
この例では、 を押したまま  を押します。

## 名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

## オペレーションシステムに関する表記

本書ではオペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 98

Microsoft® Windows98® Operating system

Windows NT 4.0

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system  
Version 4.0

Windows 2000

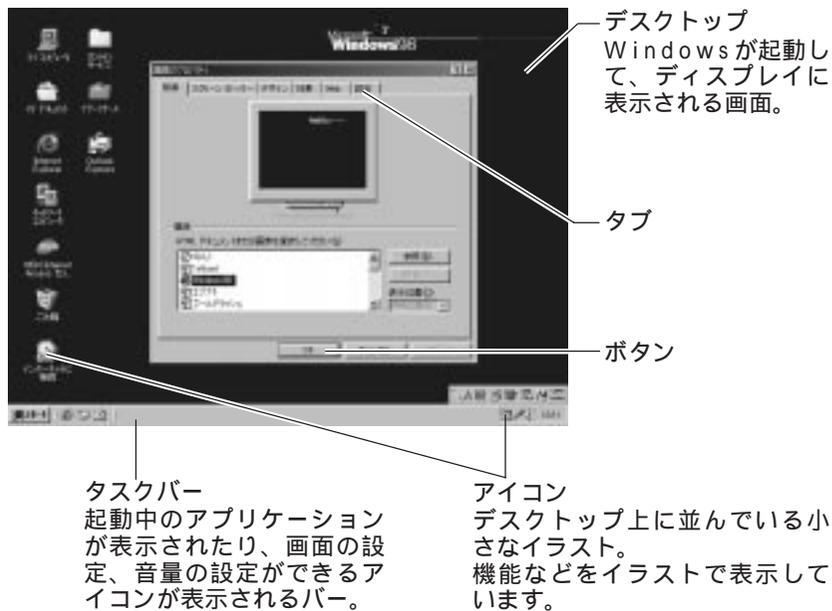
Microsoft® Windows® 2000 Professional

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

## Windowsの画面表示に関する記述

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記述します。



## Windows画面操作の記述方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を簡略化して記述しています。

記載例 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ①「スタート」をクリックします。

② 現れたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

記載例 : [OK]

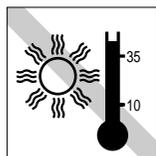
実際の操作 :



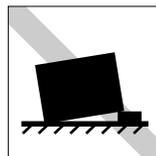
# 製品保護上の注意

## 使用・保管時の注意

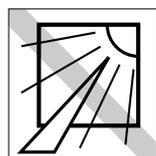
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



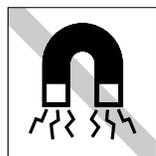
不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



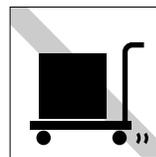
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するもの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



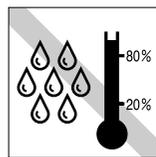
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



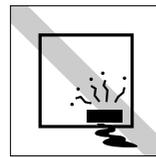
電源ケーブルが抜けやすい所(ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリーパックの状態により、電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



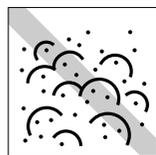
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



湿度が高すぎる所や、湿度が低すぎる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20% ~ 80%です。



本製品を長期間使わないときは、バッテリーパックを本機にセットしたままにしないでください。液もれを起こすことがあります。



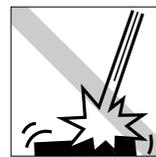
ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。重圧により、LCDやバックライトが割れることがあります。



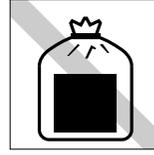
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。



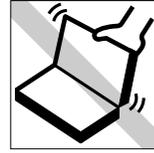
ACアダプタはケーブルを持って抜き差ししないでください。ケーブルの断線や接触不良の原因となります。



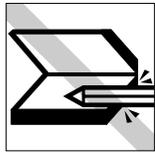
コンピュータ・バッテリーパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



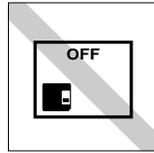
カバーを強く押さえないでください。カバーの中には、液晶ディスプレイ用の蛍光灯があります。部分的に強く力を加えると、この蛍光灯が破損することがあります。また、液晶ディスプレイのガラスが破損したり表示不良になることがあります。



カバーを持って移動しないでください。本製品のカバー(液晶ディスプレイ)を開けた状態で、カバー部分を持って移動しないでください。



キーボードの上などに、物(ボールペンその他)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。



本製品を持ち運ぶときはFDを抜いてください。FDDイジェクトボタンに無理な力がかかり破損の原因になります。

## 記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

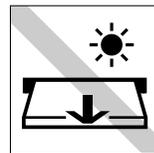
フロッピーディスク **FD**

CD-ROM・DVD-ROMなど **CD**

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



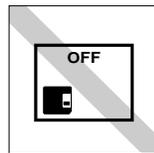
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスLEDが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



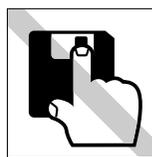
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



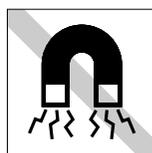
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。**FD**



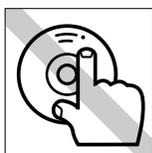
磁性面にホコリや水を付けしないでください。  
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD**



何度も読み書きしたフロッピーディスクは使わないでください。磨耗したフロッピーディスクを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。**FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。**CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**



レコードのように回転させて拭かないでください。  
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**



シールを貼らないでください。**CD**

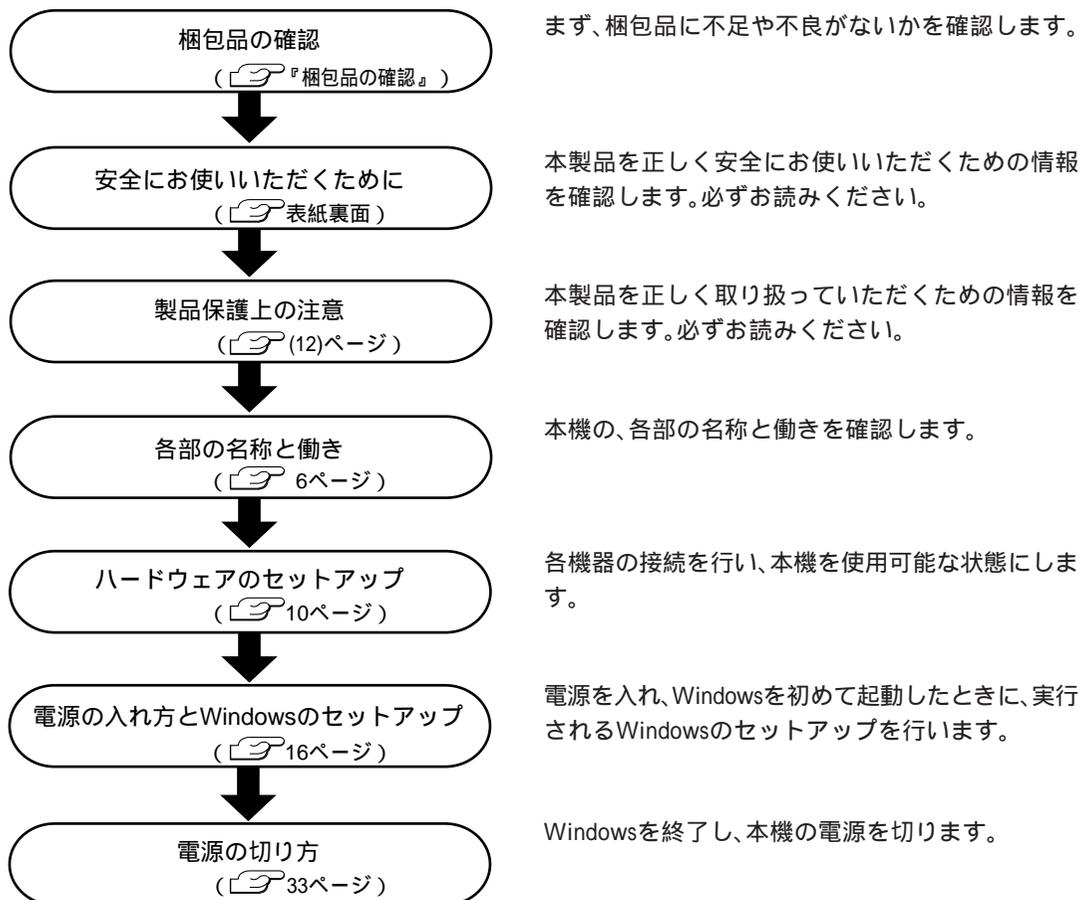
# コンピュータが 届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の  
入れ方/切り方などについて説明してい  
ます。

# ご使用前に

## コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



## 本機の特長

### メモリ容量

メインボードに64MBを標準搭載しています。SODIMMを装着して、最大320MBまで増設が可能です。

### CPU性能

Mobile Intel CeleronプロセッサまたはMobile Pentium III プロセッサを搭載しています。

### 表示装置

14.1型TFT XGAフルカラー 液晶ディスプレイを搭載しています。CRTディスプレイやテレビにも接続できます。

### 電源

ACアダプタ、またはバッテリーパックを使用します。

### PCカードスロット

PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを2本装備しています。Type II × 2枚またはType III × 1枚のPCカードを装着できます。

### HDD

IDE対応HDDを内蔵しています。

### CD-ROMドライブ

ATAPI 24倍速CD-ROMドライブを装備しています。CD-ROMドライブのかわりにCD-R/RWドライブまたはDVD-ROMドライブが装備されたモデルもあります。

### オペレーティングシステム

Windows 98、Windows NT4.0またはWindows 2000をインストール済みです。

### FDD

3.5型FDDを内蔵しています。

ポインティングデバイス  
タッチパッドを搭載しています。人差し指1本でマウスと同じ操作ができます。

### その他

- ・ 高速赤外線通信ポートを装備しています。
- ・ SoundBlaster互換、サウンド機能を搭載しています。
- ・ モデム機能を搭載しています。  
(FAXモデム機能内蔵モデルのみ)
- ・ ネットワーク機能を搭載しています。  
(ネットワーク機能内蔵モデルのみ)
- ・ スピードステップ対応  
(Pentium III 600MHz以上のみ)



## 添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。

記号の見方	
<b>インストール状態</b>  : 内蔵HDDにプレインストールされています。  : インストールされていません。必要に応じてWindowsのセットアップ後にインストールしてください。  : インストールされていません。必要時にディスクを使用してください。	<b>ソフトウェア添付形態</b>   : ディスクが添付されています。  : バックアップディスクの作成が必要です。 ☞ p.14「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

ソフトウェア	添付状態	インストール状態		
		Windows98 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
Windows98 Windows98は最新のものがインストールされています。 ☞『Windows98ファーストステップガイド』	 *1		×	×
WindowsNT4.0 WindowsNT4.0は最新のものがインストールされています。 ☞『WindowNT4.0ファーストステップガイド』	 *1	×		×
Windows2000 Windows2000は最新のものがインストールされています。 ☞『Window2000クイックスタートガイド』	 *1	×	×	
Windows起動用プログラム Windowsの再インストール時に使用します。	 *2	—	—	—
タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのデバイスドライバです。	 *3			×
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。	 *3			
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。	 *3			
3モードFDDドライバ 1.25MBフォーマットのコピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。	 *3			
スピードステップドライバ(PentiumIII 600Hz以上搭載モデル) 使用電源をチェックして、CPUの最適速度でコンピュータを動作させるためのユーティリティです。	 *3			

ソフトウェア	添付状態	インストール状態		
		Windows98 インストールモデル	WindowsNT4.0 インストールモデル	Windows2000 インストールモデル
ホットキーユーティリティ ホットキーを割り当てるためのユーティリティ です。	 *3			×
DirectX7 ゲームなどのマルチメディアアプリケーション を快適に使うためのソフトウェアです。	 *3		×	×
FAXモデムドライバ( FAXモデム機能内蔵モデル ) FAXモデム機能を使用するためのドライバです。 サウンドドライバに含まれています。	 *3			
ネットワークドライバ( ネットワーク機能内蔵モデル ) ネットワーク機能を使用するためのデバイス ドライバです。	 *4			
PHDISKユーティリティ Save to Diskモードでサスペンド時の状態を保存 する領域を作成するためのユーティリティです。	 *5		×	×
VirusScan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除も できる高性能なウイルス対策プログラムです。  『VirusScan for Windowsユーザーズガイド( 電 子マニュアル )』	 *6			
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類 のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDF ファイルの表示やプリントができるソフトウェ アです。	 *6			
ユーザーズマニュアル( PDFファイル ) 「ユーザーズマニュアルファイル( 本書 )が、コン ピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化 されています。	 *7			

\* 各ソフトウェアは次のディスクに登録されています。

\*1「Windows98 CD-ROM」、「WindowsNT4.0 CD-ROM」または「Windows2000リカバリCD-ROM」

\*2「CD-ROMセットアップ起動ディスク」

\*3「EPSONドライバCD」

\*4「ネットワークドライバディスク」

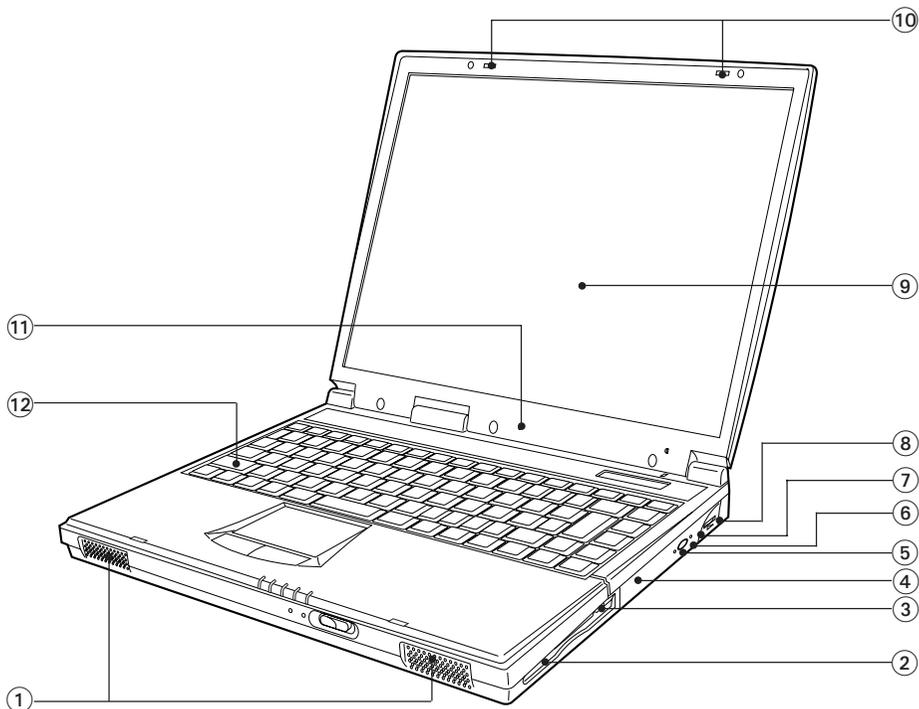
\*5「ユーティリティFD(バックアップFD作成時の名称)」

\*6「ユーティリティCD」

\*7「マニュアルディスク(バックアップFD作成時の名称)」

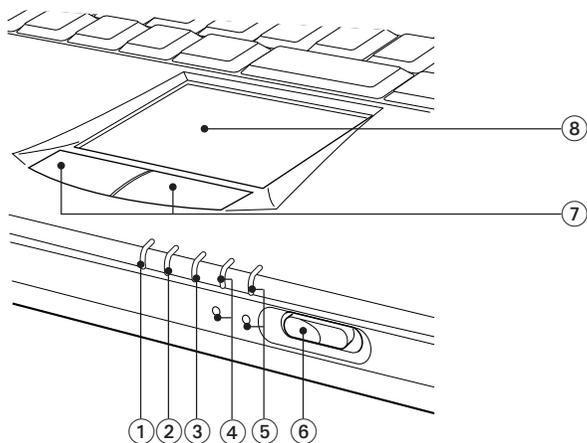
# 各部の名称と働き

## 正面・右側面



- ① 内蔵ステレオスピーカ  
警告音や音声などを鳴らします。
- ② 3.5型フロッピーディスクドライブ ㊦  
3.5型フロッピーディスクの読み出し、書き込みを行います。
- ③ FDDイジェクトボタン  
FDDにセットしたフロッピーディスクを取り出すときに押します。
- ④ CD-ROMドライブ (CD-ROMドライブモデルのみ)  
24倍速CD-ROMドライブが内蔵されています。
- ⑤ CD-ROMアクセスランプ  
データのアクセス中やオーディオCD再生中に点灯します。
- ⑥ CD-ROMイジェクトボタン  
ディスクトレイの開閉を行います。
- ⑦ CD-ROMイジェクトホール  
ディスクトレイが開かなくなったときに使用します。
- ⑧ ボリューム調節ダイヤル ◀  
スピーカの音量を調節します。
- ⑨ LCD画面  
入力した文字や、作業内容を表示します。
- ⑩ LCDラッチ  
LCDユニットを閉じたときに固定します。
- ⑪ 内蔵マイク 🎤  
音声をコンピュータに取り込むときに使用します。
- ⑫ キーボード  
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

## タッチパッド ステータスLED



### ① Caps Lock LED

Caps Lockキーのロック状態を表示します。緑色に点灯しているときは、**Shift** キーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

### ② NumLock LED

NumLockキーのロック状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードにロックされています。

### ③ アクセスLED

FDD、HDDおよびCD-ROMドライブにアクセス中に緑色に点灯します。

### ④ バッテリー充電LED

バッテリーの充電状態を示します。

橙点滅	要充電
橙点灯	充電中
消 灯	満充電

### ⑤ 電源LED

電源状態を示します。

緑点灯	通常モード
緑点滅	サスペンドモード(Save to RAM)*
消 灯	電源オフまたはサスペンドモード(Save to Disk)*

\*WindowsNT4.0では機能しません。

### ⑥ 電源スイッチ

コンピュータの電源の入/切を行います。また、サスペンドモードからの復帰に使用する場合もあります。

### ⑦ クリックボタン

マウスの左右ボタンに相当します。

### ⑧ タッチパッド

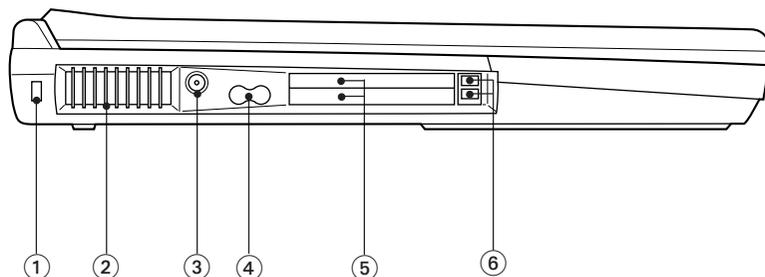
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。



制限

アクセスLEDが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータをリセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。

## 左側面



① ケンジントンロック 

ケンジントン社製セキュリティキーを差し込みます。(盗難防止用)

② 排気口

コンピュータ内部で発生する熱を逃がしたり、冷ましたりします。

③ ACアダプタコネクタ DC IN

付属のACアダプタを接続します。

④ 赤外線ポート 

赤外線通信を行うときに赤外線を送受信を行います。

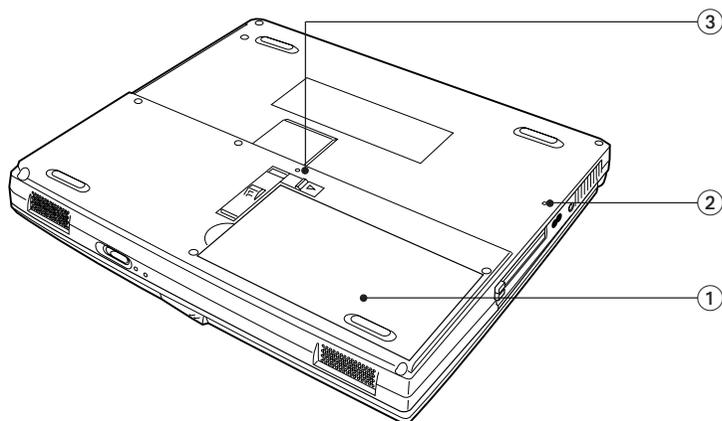
⑤ PCカードスロット 

PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

⑥ PCカードイジェクトボタン

PCカードを取り出すときに押します。

## 底面



① バッテリーパック 

バッテリーパックが装着されています。

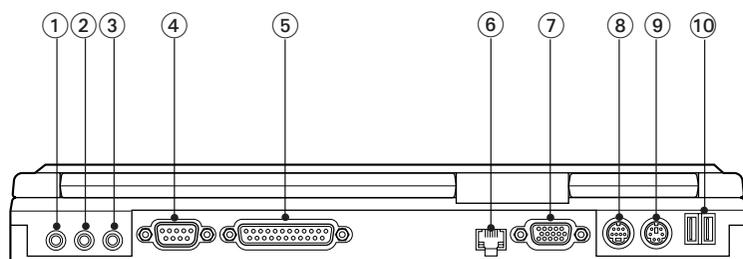
② リセットホール 

コンピュータのリセットを行います。

③ バッテリーパワーLED

バッテリーのみで使用しているときに点灯します。

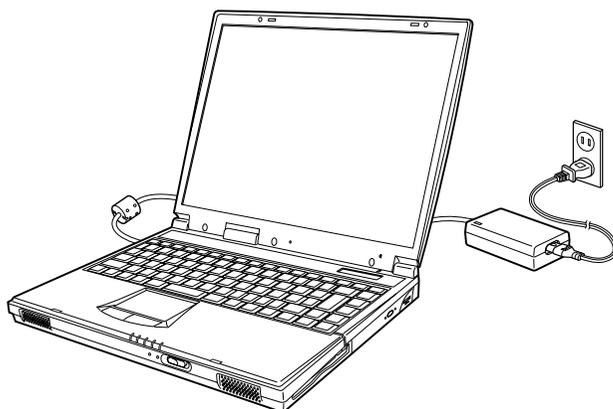
## 背面



- ① ヘッドフォン出力コネクタ   
スピーカーを接続します。
- ② ライン入力コネクタ   
カセットデッキなどのオーディオ機器のライン出力端子と接続します。
- ③ マイク入力コネクタ   
マイクを接続します。
- ④ シリアルコネクタ   
モデムなどのRS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。
- ⑤ パラレルコネクタ   
プリンタやスキャナなどを接続します。
- ⑥ モデム・LANコンボジャック   
(FAXモデム機能内蔵モデル/ネットワーク機能内蔵モデル)  
電話回線またはネットワークと接続します。
- ⑦ VGAコネクタ   
CRTディスプレイなど外付けディスプレイを接続します。
- ⑧ ビデオ出力ジャック   
テレビのS端子と接続します。
- ⑨ キーボード/マウスコネクタ   
PS/2の外付けキーボードやマウスを接続します。
- ⑩ USBコネクタ   
USB対応機器を接続します。

# ハードウェアをセットアップしましょう

本製品を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に周辺機器のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。



## 設置における注意



注意

本機の底面は熱くなるため、ひざの上に置いて長時間使用しないでください。熱によるやけどの危険があります。

不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがをする危険があります。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。

- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・ 絨毯や布団の上。
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

## 各種コードやバッテリーパック装着時の注意



警告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。

家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。

電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグは、ほこりなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

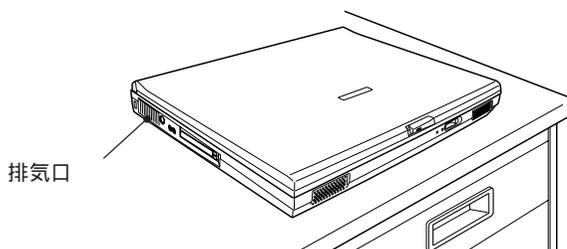


注意

各コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

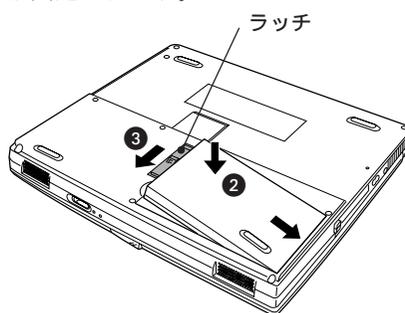
設置する

- 1** コンピュータを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。  
左側の排気口をふさがないようにしてください。



バッテリーパックを装着する

- 2** バッテリーパックを装着します。
- ① コンピュータの底面部を上にして置きます。
  - ② バッテリーと本体の背面側を合わせてからコネクタ側を押し込みます。
  - ③ ラッチを矢印方向にカチッと音がするまでスライドさせます。バッテリーが固定されます。



本機はバッテリーパックだけで使用できます。ただし、出荷時にバッテリーパックは満充電状態ではありません。バッテリーパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

 p.38「ACアダプタ/バッテリーパックを使う」

### ネットワーク/電話回線への接続をする

(ネットワーク機能内蔵モデル・FAXモデム機能内蔵モデル)

#### 3 モデム・LANコンボジャックにネットワークまたは電話回線を接続します。

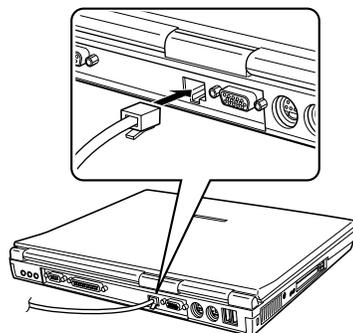
##### ネットワーク：

ネットワークモジュラコードでネットワークと接続します。

##### モデム：

添付のモジュラコードで電話回線と接続します。

\* 使用している回線や電話機によっては接続ができないことがあります。p.87「お使いになる前に」をご覧ください。

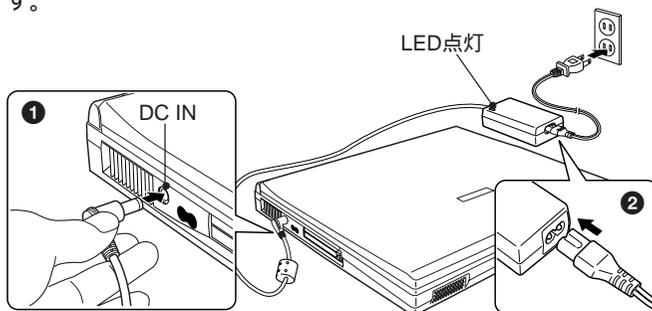


### ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

#### 4 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

- 1 ACアダプタのプラグ部を本体左側面のACアダプタコネクタ DC IN に接続します。
- 2 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

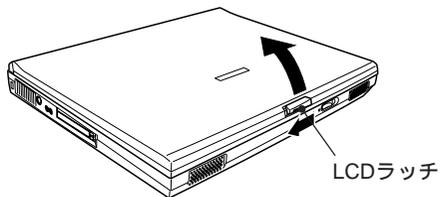


ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリーパックをセットした状態で使ってください。

## LCDユニットを開ける

- 5 前面のLCDラッチを矢印方向にスライドさせて、LCDユニットを開けます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。



これでハードウェアのセットアップは終了です。

# 電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

## 電源を入れる前に

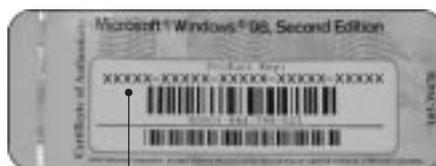
### Windowsの セットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsの起動後、自動的に「Windowsセットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

### COAラベル

購入時のコンピュータ本体には、『Windows Certificate of Authenticityラベル(以降COAラベル)』が貼付されています。『COAラベル』に記載されている「Product Key (Product ID)」は、Windowsの再インストール時に必要です。

COAラベル



Product Key( Product ID )



コンピュータから『COAラベル』を絶対にはがさないようにしてください。万一紛失された場合、『COAラベル』の再発行はできません。

フロッピーディスク Windowsのセットアップ時に作成する、「バックアップディスク」用にフォーマット済みのFDが必要です。後述の「バックアップディスクの作成」を参照してあらかじめFDを必要枚数用意してください。なお、すぐにFDを用意できない場合は、セットアップ終了後にバックアップディスクの作成を行うことができます。

- Windows98インストールモデル  p.21「バックアップディスクの作成」
- WindowsNT4.0インストールモデル  p.26「バックアップディスクの作成」
- Windows2000インストールモデル  p.30「バックアップディスクの作成」



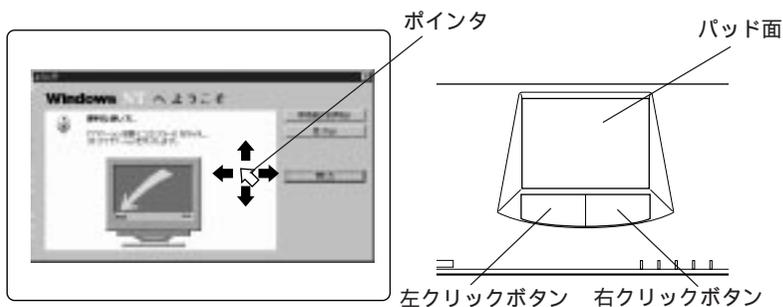
Windowsセットアップを行う前や、バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

## タッチパッドの 使い方

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。Windowsのセットアップは、タッチパッドで行います。セットアップの作業に必要なタッチパッドの基本操作を説明します。

1

Windowsの画面では、次のようにポインタが表示されます。タッチパッドのパッド面で前後左右に動かすと、動かした方向にポインタが移動します。



2

画面に操作を選択するボタンが表示されています。上図では  や  です。

これから行いたい操作のボタン上にポインタの先端を合わせます。ポインタを合わせたらタッチパッドの左クリックボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左クリックボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

 p.48「タッチパッドを使う」

## 電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は次のとおりです。

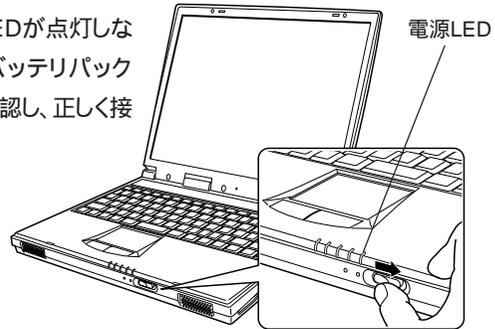
はじめて  
電源を入れる

1

本体の電源を入れます。電源LEDが点灯します。

電源スイッチを約1秒押します。

電源を入れたときに、電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリーパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。



2

画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

購入後初めて電源を入れたときはWindowsのセットアップを行います。

 p.19/p.23/p.27「Windowsのセットアップ」

次の調節をして画面を見やすくします。

角度                    LCDパネルを前後に動かします。

画面の明るさ     +  : 明るくなります。

 +  : 暗くなります。

2回目以降に  
電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源ボタンを押す。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりでコンピュータを切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 109「省電力機能」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてからスイッチを押す。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

## セットアップ終了後の確認事項

セットアップ作業が終了するとWindowsが使用できる状態になります。また、次回より電源を入れるとWindows起動後すぐにWindowsが使用できるようになります。Windowsの使用方法はWindowsに添付の『ファーストステップガイド』(Windows2000は『クイックスタートガイド』)や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。セットアップ終了後の確認事項や設定事項は次のとおりです。

### 音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

ボリューム調節ダイヤル

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

スピーカアイコン

画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

スピーカアイコン



### 省電力機能

Windows98/Windows2000インストールモデルでは一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合キーボードの操作でもとに戻ります。

 p.103「省電力機能を使う」

### デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows CD-ROM(リカバリCD)」をセットせずに、次のフォルダ名を指定してください。

Windows98インストールモデルの場合 : C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS

WindowsNT4.0インストールモデルの場合 : C:\¥1386 IIはアルファベット)

Windows2000インストールモデルの場合 : C:\¥1386 IIはアルファベット)

上記フォルダは、工場出荷時には、Cドライブに保存されています。

これらのフォルダはデバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。Windowsの再インストール時にMS-DOS領域のフォーマットを行って削除する場合以外は、絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について 購入時のHDDは次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域 (Cドライブ)	FAT 32
WindowsNT4.0	最初の2GB (Cドライブ) 残りの領域	FAT 16 未設定

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GBに基本MS-DOS領域 (Cドライブ)を作成しWindowsをインストールしてあります。

WindowsNT4.0の未設定領域はこのままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」



CDドライブがデータでいっぱいになったら

WindowsNT4.0インストールモデルのCDドライブ(2GB)がデータでいっぱいになり容量不足になったときは、CDドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブまたはそれ以降のドライブに移動すると空き領域を作成できます。

# Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルの電源を初めて入れた後に行うセットアップ方法について説明します。

## Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

### ようこそ

日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

### 情報の収集

ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。  
名前を入力後 **Tab** を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

### モデムの接続

FAXモデム機能内蔵モデルでは、この画面が表示されます。ここでは接続を行いませんので[スキップ]を選択します。

### 使用許諾契約への同意

画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

### インストールの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了] をクリックし、セットアップを続けてください。



## 日付と時刻の設定

「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。

## お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

## バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.21「バックアップディスクの作成」

2 セットアップが終了し、Windows 98が起動すると、Windows 98のデスクトップが表示されます。

3 Windowsのセットアップ終了後に、次の作業が必要です。

ネットワークへの接続(ネットワーク機能内蔵モデル)

ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定(FAXモデム機能内蔵モデル)

 p.89「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」はインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールをします。

 『VirusScan for Windowsをご使用前に』

ホットキーユーティリティのインストール

本機のHDDには、「ホットキーユーティリティ」はインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

 p.150「ホットキーユーティリティのインストール」

 p.56「ホットキーを設定する」

Windows98起動ディスクの作成

 p.22「Windows98起動ディスクの作成」

## バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は「EPSONドライバCD」に登録されていません。これらのソフトウェアはバックアップを作成する必要があります。バックアップは「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうとバックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意します。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
ユーティリティFD	1枚
マニュアルディスク	3枚

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもディスクの作成が必要です。バックアップFD作成ユーティリティの画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。



参考

バックアップディスクをあとで作成するには

Windows98のセットアップ作業中に、ディスクを作成しない場合は、バックアップFD作成ユーティリティで[キャンセル]をクリックします。あとから作成するには、「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。画面の説明に従ってバックアップディスクを作成します。
- 3 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。  
 p.61「ライトプロテクト」

## Windows 98 起動ディスクの作成

起動ディスクを作成します。Windows98起動ディスクは、次のような場合に使用します。

- MS-DOS領域をフォーマットする場合。
- Windows98がHDDから起動しなくなった場合。
- HDDの領域変更をする場合。



Windows98起動ディスクを作成しないと、Windows98を再インストールすることができません。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめFDを2枚用意しておきます。

- 1 コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」の「起動ディスク」タブをクリックします。
- 2 FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。
- 3 画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。
- 4 「Windows 98 起動ディスク1」、「Windows 98 起動ディスク2」と書いたラベルをそれぞれ貼り、ライトプロテクトをして保管します。  
 p.61「ライトプロテクト」

# WindowsNT4.0インストールモデルのセットアップ

本章では、WindowsNT4.0インストールモデルの電源を初めて入れた後に行うセットアップ方法について説明します。

## WindowsNT4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくするとWindowsNT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。
- 2 WindowsNT4.0が起動すると、自動的に「WindowsNTセットアップ」が実行されます。  
セットアップの流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

### ソフトウェア使用許諾契約への同意

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

### 情報の収集

ユーザー情報として、次の項目を入力します。

- ① 名前・組織名
- ② Product ID ... 『COAラベル』に記載されている「Product ID」を入力します。
- ③ コンピュータ名  
[Tab] を押すと次の欄にポインタが移動します。

### WindowsNT4.0のアップデート

「Service Pack6aのセットアップ」が行われ、Windows NT4.0が更新されます。

「Windows NT4.0は正常にインストールされました。」と表示されたら、Windowsを再起動します。再起動時のオペレーティングシステムの選択では、[ WindowsNT Workstation Version 4.00 ]を選択します。

さらに「Windows Update:Internet Explorerとインターネットツール」画面で、Windowsが自動的に再起動します。

## NTにログオンする

ここで **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されます。ユーザー名、パスワードには次のように入力して **[OK]** をクリックします。

ユーザー名: administrator

パスワード: (何も入力しません。)

これらの設定は、「スタート」プログラム「管理ツール」  
「ユーザーマネージャ」または「WindowsNTのヘルプ」から  
変更できます。

- 3 ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。

これでWindowsNT4.0インストールモデルのセットアップは終了です。



- 4 WindowsNT4.0セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

ネットワークドライバのインストール(ネットワーク機能内蔵モデル)  
本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。

☞ p.162「ネットワークドライバのインストール」

インストール時には、ネットワークに関するさまざまな情報が必要になります。ネットワーク管理者の指示に従って作業を行ってください。

ネットワークドライバのインストール後に「再起動しますか?」と表示された場合は、**[いいえ]**を選択し、「Service Pack6a」をインストールしてください。

☞ p.25「WindowsNT4.0 Service Pack6aのインストール」

FAXモデムの設定( FAXモデム機能内蔵モデル)

☞ p.89「インターネットに接続するには」

### VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」は、インストールされていません。「VirusScan for Windows」のインストールを行います。

 『VirusScan for Windowsをご使用の前に』

### ホットキーユーティリティのインストール

本機のHDDには、「ホットキーユーティリティ」はインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

 p.168「ホットキーユーティリティのインストール」

 p.56「ホットキーを設定する」

### WindowsNT4.0 Service Pack6aのインストール

本機にネットワークドライバをインストールした場合や、新しくデバイスドライバを追加した場合には、インストール後に「Service Pack6a」をインストールする必要があります。

Service Pack6aのインストールは、次の手順で行います。

- ① [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- ② 「名前」に「C:¥SP6¥SP6I386」と入力して[OK]をクリックします。  
(¥SP6I386のIはアルファベット)
- ③ 画面の指示に従ってインストールを行います。  
「WindowsNT4.0 Service Packセットアップ」画面では、「同意する」にチェックを付け、「後で Service Pack をアンインストールできるように...」のチェックを外します。
- ④ 「インストールは完了しました」と表示されたら[OK]をクリックして、WindowsNT4.0を再起動します。

### バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。

 p.26「バックアップディスクの作成」

### WindowsNT4.0 Option Packのインストール

必要に応じて、「WindowsNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。

### HDDの領域設定

HDDの未設定領域を使用できるように設定します。

 p.18「購入時のHDD領域の設定について」

## バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は「EPSONドライバCD」に登録されていません。これらのソフトウェアはバックアップを作成する必要があります。バックアップは「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうとバックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意します。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
マニュアルディスク	3枚

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもディスクの作成が必要です。「バックアップFD作成ユーティリティ」の画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート] をクリックして「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ] をクリックします。画面の説明に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

 p.61「ライトプロテクト」

# Windows2000 インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows2000インストールモデルの電源を初めて入れたあとに行うセットアップの方法について説明します。

## Windows2000のセットアップ

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

### Windows2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[ 次へ ] をクリックします。

### ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

### ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を入力します。  
名前を入力後 [ Tab ] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

### コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」をネットワーク管理者の指示に従って入力します。

## 日付と時刻の設定

「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

## Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。これでWindows2000のセットアップは終了です。



### 3 Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

ネットワークへの接続(ネットワーク機能内蔵モデル)

ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定(FAXモデム機能内蔵モデル)

 p.89「インターネットに接続するには」

赤外線デバイスの設定

赤外線通信を使用するための設定を行います。

 p.72「赤外線デバイスの設定」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」が、インストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

 『VirusScan for Windowsご使用の前に』

バックアップディスクの作成

「EPSONドライバCD」に登録されていないソフトウェア類のバックアップディスクを作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.30「バックアップディスクの作成」

セットアップブートディスクの作成

回復コンソールを実行する場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.31「セットアップブートディスクの作成」

## バックアップディスクの作成

本機のHDDに登録されている各種ソフトウェアの一部は、「EPSONドライバCD」などに登録されていません。これらのソフトウェアは、バックアップを作成する必要があります。バックアップは、「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

未フォーマットFDをフォーマットする場合には、Windows2000のフォーマットユーティリティを起動したまま、2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、p.60「FDのフォーマット」をご覧ください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
マニュアルディスク	3枚

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもバックアップディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、「次へ」をクリックします。画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。  
 p.61「ライトプロテクト」

## セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、回復コンソール\*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

\* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。

このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。



未フォーマットFDをフォーマットする場合には、Windows2000のフォーマットユーティリティを起動したまま、2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、p.60「FDのフォーマット」をご覧ください。



セットアップブートディスクの作成は、次の手順で行います。フォーマット済みのFDが4枚必要です。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 コマンドプロンプトが「C:¥>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。  
CD ¥BOOTDISK ( ¥ は、スペースを意味します。)  
「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
  - ①「C:」と入力して  を押します。
  - ②「CD ¥」と入力して  を押します。
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のように入力して  を押します。  
MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。
- 6 1枚目のディスクの作成が終わったら、同様に次のディスクを作成します。作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。  
 p.61「ライトプロテクト」

# 電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



制限

電源をオフにしてからオンにする場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

アクセスLED点灯中に電源をオフにすると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は電源をオフにしても、バッテリーパックが装着されていたり、コンセントに接続されていたりすると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリーパックを取り外してください。

## Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]をクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 2 「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源をオフにします。



参考

そのほかの電源の切り方

Windows98では、電源スイッチを押したり、LCDユニットを閉じたりすると自動的にWindowsを終了して、電源を切るように設定できます。

初期設定は次のとおりです。

LCDユニットを閉じる : バックライトを消す。

電源スイッチを押す : 電源を切る。

 p.107「サスペンド・レジューム機能」

## Windows NT 4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows NT 4.0を終了させてから電源を切ります。

- 1 [ スタート ] をクリックし、「シャットダウン」 をクリックします。
- 2 「シャットダウン」画面で「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で[ はい ] をクリックします。
- 3 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源スイッチを押してオフにします。  
電源スイッチは約2秒押すとオフになります。
- 4 接続している周辺機器の電源をオフにします。

## Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [ スタート ] - 「シャットダウン」 をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[ OK ] をクリックします。
- 3 Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 接続している周辺機器の電源をオフにします。



### 参考

そのほかの電源の切り方

Windows 2000では、電源スイッチを押したり、LCDユニットを閉じたりすると自動的にWindowsを終了して、電源を切るように設定できます。

初期設定は次のとおりです。

LCDユニットを閉じる : バックライトを消す。

電源スイッチを押す : 電源を切る。

p.107 「サスペンド・レジューム機能」

## リセット

コンピュータの電源がオンになっている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合。

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合。

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。万一データを消失してしまった場合に備えて、日頃からデータをHDDなどに保存しておくことをお勧めします。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、電源をオフにしてください。

### Windowsの リセット方法

リセット方法には、次の2種類があります。

「電源の切り方」を参照して、[スタート]からWindows上でリセットする。

(プログラムハングアップ時は、使用できません。)

キーボードの **[Ctrl] + [Alt] + [Delete]** を押し、画面の指示に従ってリセットする(プログラムハングアップ時に使用します。)

### リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、リセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

**[Ctrl] + [Alt] + [Delete]** を押してリセットする

↓ コンピュータをリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す

↓ コンピュータの電源が切れないときは...

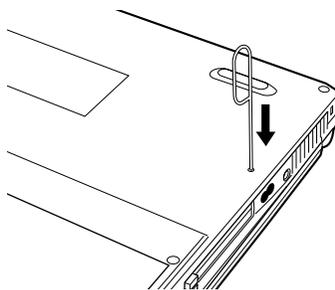
コンピュータの電源を5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

## リセットホール でのリセット

本体底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホールに丈夫な先の  
細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

リセットホールはプログラムがハングアップして **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押  
してもリセットできないとき以外は使わないでください。



# 使ってみましょう

本製品の各部の名称や使い方について  
説明します。

# ACアダプタ/バッテリーパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリーパックを使って使用することができます。



警告

ACアダプタや、バッテリーパックを分解しないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリーパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。バッテリーパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。



注意

連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリーパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。ACアダプタやバッテリーパックは指定のコンピュータ以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。破損したACアダプタやバッテリーパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。

ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリーパックの熱で本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

バッテリーパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。



制限

ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリーパックを装着して本機を使用してください。

バッテリーパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。

ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。

ACアダプタの接続方法は、p.10「ハードウェアのセットアップ」をご覧ください。

スピードステップ機能  
(CPU Pentium III  
600 MHz以上搭載  
モデル)

周波数の高いCPUは処理が速い分、消費電力が多く、バッテリーパックでの使用可能時間が短くなります。この機能を使用すると、使用電源に合わせてCPUの速度を調整します。バッテリーパック使用時はCPU速度を遅くして、使用時間を延ばします。また、ACアダプタ使用時はCPU速度を速くして、複雑な処理を短時間でこなすことができます。

この速度の設定はタスクバーのスピードステップアイコンをダブルクリックして行います。



## バッテリーパックを使う

バッテリーパック(以降バッテリー)は着脱可能な充電式の電池です。バッテリーを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン(Li-Ion)バッテリーを使用します。

### 使用可能時間

バッテリーだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間	連続約1.5～2.5時間(満充電の場合)
--------	----------------------

バッテリーだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力機能(Windows98/Windows2000)の使用や、バックライトの明るさの調整などで消費電力を抑えると使用可能時間を延ばすことができます。

 p.103「省電力機能を使う」

 p.75「LCDユニット」

### バッテリー使用時の注意

サスペンドモード(Save to RAM)のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。サスペンドモード(Save to RAM)に入っているときも電力が消費されています。 p.103「サスペンドモード」

バッテリーは本機の電源を切つてあるときでも自然放電によって電力が消費されています。長期間使用しない場合は、バッテリーが完全放電している可能性があります。バッテリーだけで使用するときは必ず充電してから使用してください。バッテリーは温度が10～30の環境で使用すると性能が向上し、使用時間や寿命を延ばすことができます。10以下の場所に放置していたバッテリーは10～30の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。バッテリーの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリーが急に終わって困らないようにバッテリー使用後は常に充電をすることをおすすめします。

本体底面のバッテリーパワーLEDが点灯している間はバッテリーを外さないください。データを失う可能性があります。

## バッテリー残量の確認

Windows98/Windows2000では残量の確認を次の方法で行うことができます。



WindowsNT4.0では低バッテリー状態を知らせる警告音は鳴りますが、残量確認はできません。

バッテリーの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

 p.44「バッテリー残量が正しく表示されないときは」

### 確認方法

タスクバーのバッテリーアイコンをポイントする。



バッテリーアイコン

「コントロールパネル」-「電源管理(Windows2000では「電源オプション」)」-「電源メーター」タブを開いて確認する。



Windows98の画面

## バッテリー残量が少なくなったら

### 低バッテリーの通知

残量が少なくなると本機は次のように通知(警告)します。ただちに下記の対処方法を実行してください。完全放電してシャットダウン(電源オフ)してしまうと、保存されていないデータはすべて失われます。

Windows98/Windows2000の場合

バッテリー残量が約10%になるとバッテリー充電LED(  )が点滅し、バッテリー低下メッセージが表示されます。



そのまま放置すると、残量約3%\*でサスペンドモード( Save to RAM\* )に入ります(ローバッテリーサスペンド)。サスペンドモード( Save to RAM )中も電力を消費しています。シャットダウンしないように気を付けてください。

\* この設定は次ページの「バッテリーアラームの設定」で変更することができます。

WindowsNT4.0の場合

バッテリー残量が約10%になるとバッテリー充電LED(  )が点滅し、警告音が鳴ります。

### 対処方法

バッテリー残量の低下が通知されたら、ただちに次のいずれかの処置を行ってください。

ACアダプタを接続する

電源を入れたままACアダプタを接続します。警告音が止まり、バッテリー充電LED(  )が点灯します。

電源を切る

作業中のデータをHDDや、FDに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと本機の電源を切ります。

交換用のバッテリーがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリーを交換します。

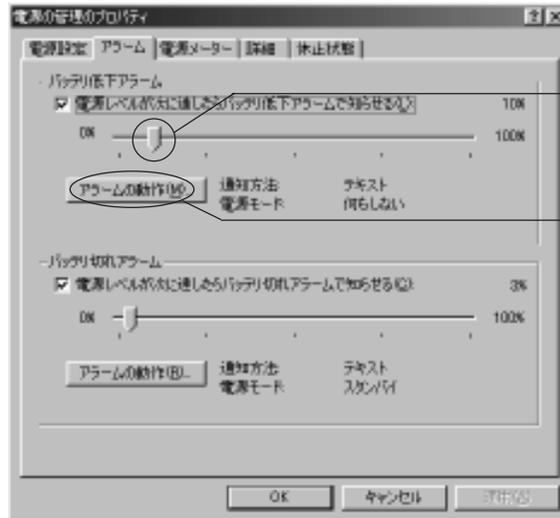


制限

シャットダウンしてしまうと、保存されていないデータは全て失われます。ACアダプタを接続しない場合は、ただちに作業中のデータを保存してください。

バッテリーアラームの設定  
(Windows98/  
Windows2000)

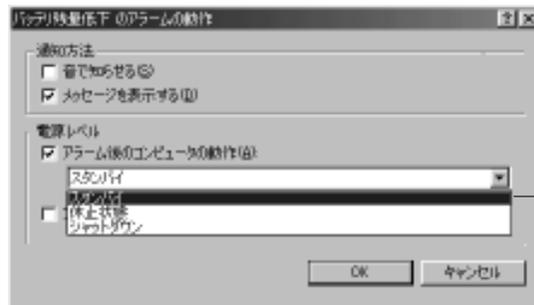
バッテリー残量が低下したときの通知方法を変更できます。  
「コントロールパネル」-「電源管理(Windows2000では「電源オプション」)」-「アラーム」タブで行います。



通知を行うバッテリー残量を設定します。

クリックすると「アラームの動作」画面が表示されます。

Windows98の画面



「スタンバイ」はサスペンドモード(Save to RAM)「休止状態」はサスペンドモード(Save to Disk)を意味します。  
☞ p.103「省電力機能を使う」

## バッテリーの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源がオン/オフどちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリー充電LED(  )の表示と、低バッテリー状態からバッテリーの充電完了までの時間は、次のとおりです。

### バッテリー充電LED( )の表示

充電状態	LEDの表示
要充電	橙点滅
充電中	橙点灯
満充電	消灯

### 充電時間

コンピュータの動作状態	充電時間
電源オフ/サスペンドモード( Save to Disk )	約2.5時間
電源オン( 通常モード )	約4.5時間( 使用状態により差があります。 )

バッテリーは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

温度が10～30 の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

### 充電後の処理

バッテリーが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

## ■ バッテリー残量が正しく表示されないときは

バッテリーの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。

満充電にしてもバッテリー容量がすぐに低下したり、バッテリー充電LEDがすぐに点滅(要充電)するような場合は、次の手順を数回繰り返してみてください。

- 1 ACアダプタが接続されていないことを確認します。
- 2 BIOSセットアップユーティリティを起動します。  
 『ユーザーズマニュアル』 「BIOSセットアップユーティリティの操作」
- 3 Powerメニュー画面の「Smart Battery Refreshing」を選択して、 を押します。
- 4 「Please make sure your AC adapter...」と表示されたら、そのまま放置します。  
途中で中止したい場合は、電源スイッチを4秒以上押してコンピュータの電源を切ります。
- 5 完全に放電して電源が切れたら、ACアダプタを接続して満充電にします。  
自動的に電源が入りWindowsが起動します。使用しない場合は、コンピュータの電源を切ります。

### バッテリーの寿命

バッテリーパックは消耗品です。次の場合はバッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください。

上記の操作を行ってもバッテリー容量がすぐに低下する。

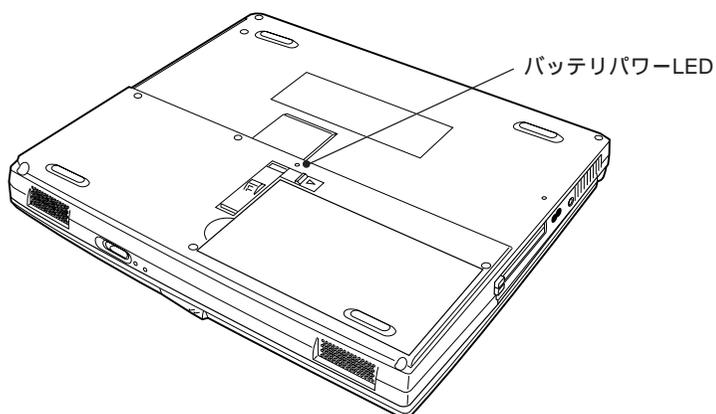
バッテリー充電LEDが早い点滅をする。

## バッテリーの交換

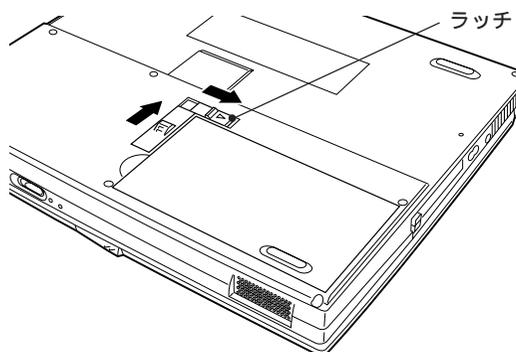
バッテリーを複数使用して長時間使用する場合や、バッテリーが寿命に達した場合は、バッテリーを交換します。

バッテリーの交換は次の手順で行います。

- 1 コンピュータの電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。
- 2 コンピュータの底面部を上にして置きます。
- 3 バッテリーパワーLEDが点灯していないことを確認します。



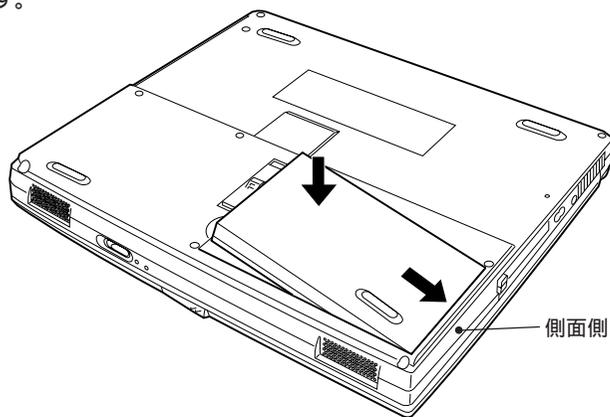
- 4 のラッチを矢印の方向にスライドさせると、 のラッチの固定が外れます。



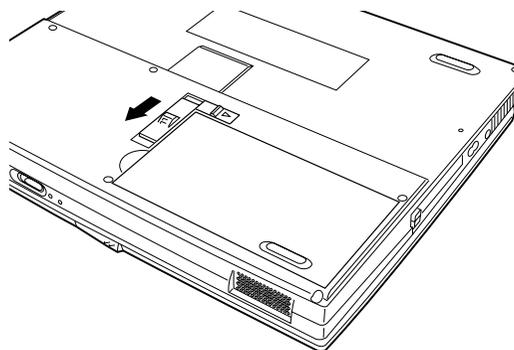
- 5 のラッチを矢印の方向に動かなくなるまでスライドさせます。

6 バッテリーパックが本体から浮き上がったら、バッテリーを取り外します。

7 新しいバッテリーをセットします。本体の側面側を合わせてからコネクタ側を押しこみます。



8 のラッチを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせます。バッテリーが固定されます。



制限

不要となったバッテリーを燃やしたり、埋めたり、一般ゴミと混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。バッテリーは回収業者に依頼するか、自治体の条例または規制に従って適切に処分してください。

## バッテリー保管上の注意



小さなお子様手の届く場所にバッテリーパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリーを保管するときは、必ずコンピュータ本体から取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリーが液もれしたり、バッテリーと本体の接点が腐食することがあります。

保管時はバッテリーの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリーは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。

# タッチパッドを使う

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

## タッチパッドの操作

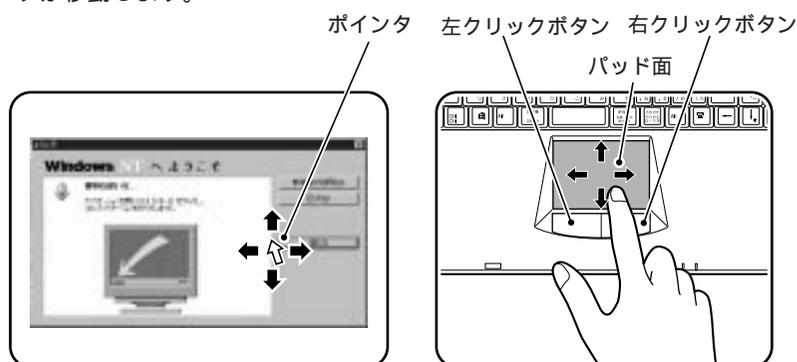
タッチパッドは、パッド面と2つのボタンから構成されています。

パッド面は、ポインタを移動させる働きと共に、マウスの左ボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

タッチパッドは、次のように操作します。

### ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。



制限

パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。また、1本指で操作してください。

手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。

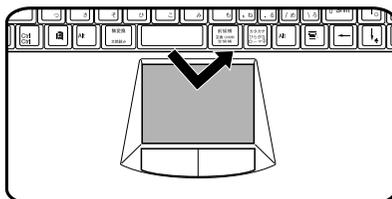
キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。

起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。

電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。

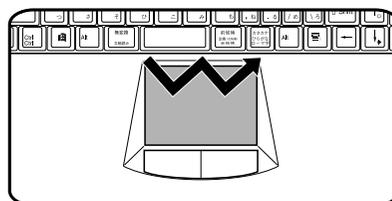
## クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



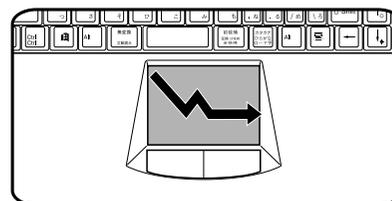
## ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



## ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。左クリックボタンを押したままの状態でもポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



## タッチパッドドライバ&ユーティリティを使う

(Windows98/WindowsNT4.0)

タッチパッドドライバは、タッチパッドをより使いやすくするためのドライバです。タッチパッドドライバがインストールされていると、タッチパッドユーティリティで、タッチパッドの各種設定を行うことができます。タッチパッドドライバは購入時にインストールされています。



Windows2000ではタッチパッドドライバ&ユーティリティは使用できません。タッチパッドドライバをインストールしないでください。タッチパッドドライバがインストールされていなくても、タッチパッドは使用できます。

タッチパッドユーティリティは「コントロールパネル」-「マウス」で実行します。



## 設定内容の概要

「マウスのプロパティ」の各タブでは次のような設定ができます。

タブ	設定できる内容
ボタン	ダブルクリックの速度など
ポインタ	ポインタのデザインなど
動作	ポインタの速度や軌跡の有無など
タッチ	複数回数タップの機能やタップの強さなど
エッジモーション	エッジモーション(エッジを押したとき)の機能や速度など
スクロール	スクロール機能や速度など
ボタンの動作	タップゾーン(タッチパッドの4隅)をタップしたときの機能や左右ボタンの機能など
その他の機能	ポインタの動作や速度

詳しい設定の方法は、タッチパッドユーティリティのオンラインヘルプをご覧ください。

使  
っ  
て  
み  
ま  
し  
よ  
う

## マウスの接続

本機背面のキーボード/マウスコネクタ()にPS/2マウスを接続できます。PS/2マウスの接続は本機の電源を切ってから行ってください。

PS/2マウスと、タッチパッドは同時に利用できません。PS/2マウスを使用する場合は、BIOS Setupユーティリティの「Advancedメニュー画面」「Internal Pointing Device」の設定を[Disabled]にしてください。「Advancedメニュー画面」

本機のタッチパッドは、タッチパッドユーティリティの「その他の機能」の「外部PS/2ポート」での設定はサポートしていません。

# キーボードを使う

本機のキーボードは、OADG準拠日本語対応89キーボードです。

## 入力キー

89個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく4つのグループに分けられます。

**機能キー**  
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。  
F1 から F12 はファンクションキーと呼ばれます。ファンクションキーの役割はソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

**制御キー**  
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

**数値キー**  
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します。Fn + Num Lock キーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

**文字キー**  
英数字、記号の入力や日本語入力プログラムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

**Fn** キーと  
組み合わせて  
使うキー

キートップに橙色で印字されている機能キーの機能は **Fn** キーと組み合わせて実行します。

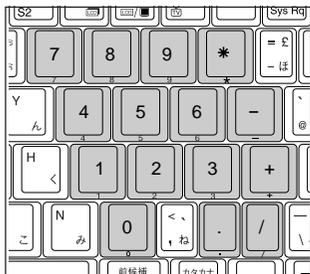
キーの組み合わせ	機 能
<b>Fn</b> + <b>F1</b> Suspend	Save to RAMでサスペンドします( WindowsNT4.0を除く )。 ☞ p.103「サスペンド・レジューム機能」
<b>Fn</b> + <b>F7</b> LCD	LCD画面のバックライトのON/OFFを切り替えます。 ☞ p.75「LCDユニット」
<b>Fn</b> + <b>F8</b> LCD/■	表示装置を[ LCD ONLY ] [ LCD画面のみ表示 )-[ CRT ONLY ] [ CRT画面のみ表示 )-[ SIMUL ] [ LCDとCRTに表示 )の順に切り替えます。☞ p.76「CRTディスプレイ」
<b>Fn</b> + <b>F9</b> TV	TVへの表示/非表示を切り替えます。☞ p.79「テレビ」
<b>Fn</b> + ↑ ☀	LCD画面を明るくします。☞ p.75「LCDユニット」
<b>Fn</b> + ↓ ☀	LCD画面を暗くします。☞ p.75「LCDユニット」

「ホットキーユーティリティ」を使用すると、上記のキーのほかにも機能を割り付けることができます。☞ p.56「ホットキーを設定する」

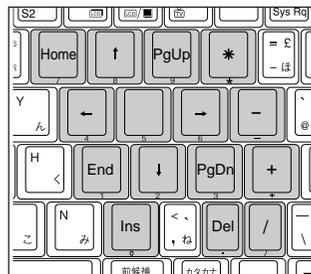
数値キーモード

**Fn** + **Num Lock** を押すと、NumLock LED  が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに **Shift** を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード



**Shift** を押したとき



アルファベット  
入力モード

**Shift** + **Caps Lock** を押すと、CapsLock LED  が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。小文字で入力するには **Shift** を押しながら入力します。

## 日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や£、¢、¥などの特殊の記号の入力には、日本語入力プログラムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。

日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『ファーストステップガイド』(Windows2000は、『クイックスタートガイド』)または「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。

## 記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します。(日本語変換プログラムをOFFにした状態)

入力記号	入力方法
( コロン )	
( セミコロン )	
( ハイフン )	
( スラッシュ )	
@( アットマーク )	
( チルダ )	
( アンダーバー )	

## Windowsキーと組み合わせて使うキー

2つのWindowsキーは次の働きをします。

Windowsキー	機能
	画面左下の[スタート]ボタンをクリックするのと同じ働きをします。
	右クリックと同じ働きをします。

Windowsキーとほかのキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機能
 + 	Windowsのヘルプが表示されます。
 + 	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + 	「検索:条件=すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 +  + 	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + 	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
 +  + 	最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。
 + 	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + 	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

## 外付けキーボードの接続

本体背面のキーボード/マウスコネクタ(/)に、PS/2互換のフルキーボードを接続することができます。接続は、電源を切ってください。

## ホットキーを設定する(Windows98/WindowsNT4.0)

ホットキーユーティリティを使用すると、制御キーと組み合わせたキーに「プログラムを起動する」「Windowsを終了させる」などの機能を割り付けることができます。ホットキーユーティリティは購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。☞ p.150、p168「ホットキーユーティリティのインストール」



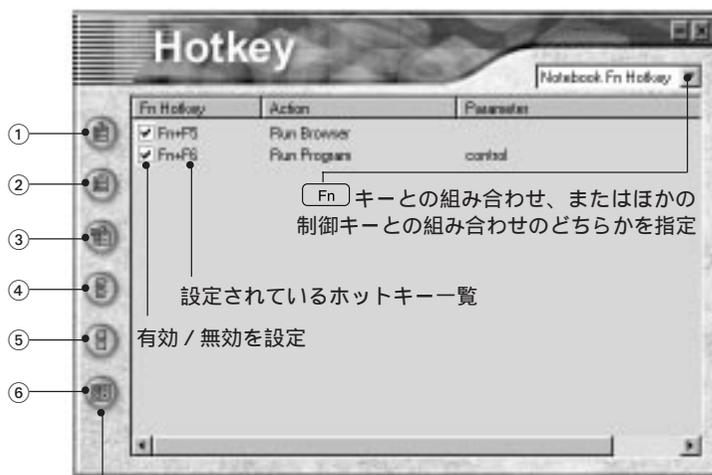
Windows2000ではホットキーユーティリティは使用できません。ホットキーユーティリティをインストールしないでください。

いくつかのキーの組み合わせは、Windowsやアプリケーションソフトですでに機能が割り付けられています。ホットキーを設定する前に、機能が割り付けられていないことを確認してください。

### ホットキーの設定方法

画面右下のタスクバーの「ホットキー」アイコンをクリックするとホットキー設定画面が表示されます。

タスクバーに「ホットキー」アイコンが表示されていないときは、設定したホットキーは使用できません。アイコンを表示するには[スタート]「プログラム」「EPSON-HOTKEY」をクリックします。



ボタンの機能: ① [追加]、② [削除]、③ [編集]、④ [すべて有効]、  
⑤ [すべて無効]、⑥ [すべて削除]

[Fn] キーとの組み合わせでは、次の組み合わせが初期値で設定されています。

[Fn] + [F5] : インターネットエクスプローラの起動。

[Fn] + [F6] : コントロールパネルを開く。

追加または  
編集するには

ここでは **[Fn]** キーと組み合わせたホットキーを登録する方法を記載しています。

- 1 ホットキー設定画面で[追加]ボタンをクリック、または編集するホットキーを選択してから[編集]ボタンをクリックします。
  - 2 「HotKey」欄でカーソルが点滅している状態で登録したいキーを直接押します。  
**[Fn]** キーは押す必要がありません。
- 
- 3 「Hotkey Action」から機能を選択します。  
この画面では「プログラムを起動」です。
  - 4 「プログラムを起動」を選択した場合は[Browse]をクリックして、プログラムの場所を指定します。
  - 5 [Apply]をクリックするとホットキーが設定されて、一覧に表示されます。

削除するには

- 1 [すべて削除]ボタンをクリック、または削除するホットキーを選択してから[削除]ボタンをクリックします。
- 2 確認の画面が表示されます。[OK]をクリックします。一覧から削除されます。



# FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

本機の左側面には、FDDが内蔵されています。

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用可能です。

3.5型2HD : 1.44MBまたは1.25MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。



参考

1.25MBのFD

1.25MBフォーマットのFDを読み書きするためには、「3モードFDDドライバ」が必要です。☞ p.61 「1.25MBのFDを使用する」

## FDのセットと取り出し

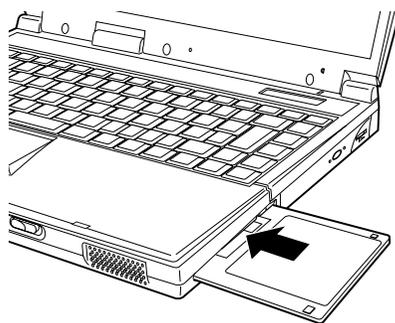


制限

アクセスLED点灯中にFDを取り出したり、リセットしないでください。  
データが破壊されるおそれがあります。  
電源を切る場合は、必ずFDを取り出してください。

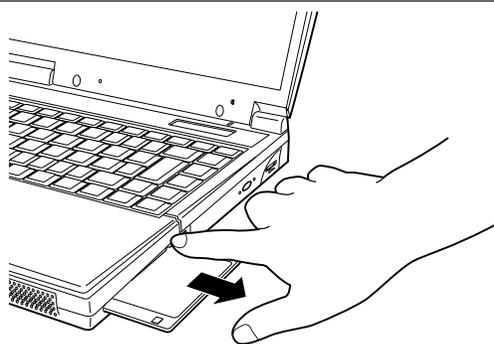
### セット方法

- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



### 取り出し方法

- 1 アクセスLED( )が点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



## コンピュータ持ち運び時の注意

本製品を持ち運ぶときはFDを取り出してください。  
FDがFDDにセットされているとイジェクトボタンが本体よりも突き出ています。この状態のまま、本体をバッグなどに入れて持ち運ぶとイジェクトボタンに無理な力がかかりこわれる恐れがあります。

## FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合は、フォーマットが必要です。また登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。

フォーマットの方法は、Windowsのヘルプなどをご覧ください。

メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

本機には1.25MBフォーマット用のユーティリティは添付されていません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら「OK」をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。



制限

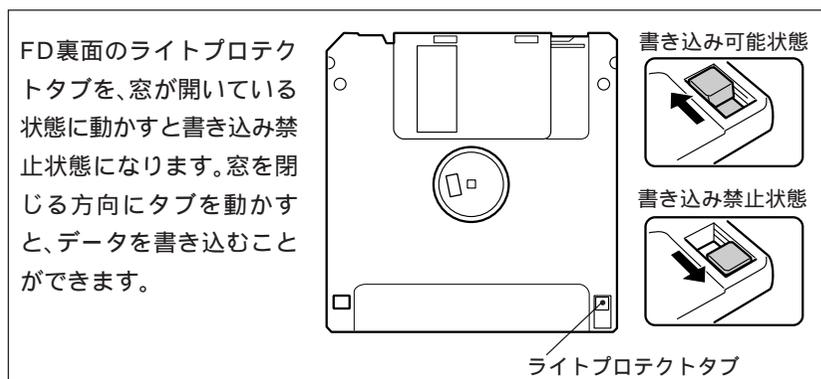
Windows2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを連続して2枚以上フォーマットする場合は、上記手順2～5を繰り返してください。

## データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

## ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データを書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく安心です。



## 1.25MBのFDを使用する

本機のWindowsには、あらかじめ専用の3モードFDDドライバがインストールされており、1.25MBフォーマットのFDを使用することができます。1.25MBフォーマットは、EPSON PCシリーズや日本電気(株)製PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

### 3モードFDD ドライバ

1.25MBフォーマットのFDは、1.44MBフォーマットのFD同様に、Aドライブで使用することができます。

3モードFDDドライバは1.25MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.25MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。

512バイト/セクタでフォーマットされた1.25MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは、日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。1.25MBのフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

# HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、電源をオフにしたり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

## データのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

## HDDのフォーマット

HDDを最初に使用する場合にはフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されている内蔵HDDにはソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。



すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

## 購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98 Windows2000	すべての領域 (Cドライブ)	FAT 32
WindowsNT4.0	最初の2GB (Cドライブ) 残りの領域	FAT 16 未設定

### WindowsNT4.0 インストールモデル のHDD構成

WindowsNT4.0インストールモデルでは、HDDの先頭の2GB(Cドライブ)に基本MS-DOS領域を作成して、Windowsをインストールしてあります。残りの領域は未設定です。このままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して領域作成とフォーマットをしてください。

Cドライブがデータでいっぱいになり、容量不足になったときは、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)をDドライブ、または以降のドライブに移動すると、空き領域を確保できます。

# CD-ROMドライブを使う

本機の右側面にはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはデータの入ったデータCDのほかに音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。



制限

本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。不具合ではありません。

メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

本機にはCD-ROMドライブの代わりに、CD-R/RWドライブまたはDVD-ROMドライブが装着されているモデルがあります。メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法はCD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

## CD-ROMのセットと取り出し



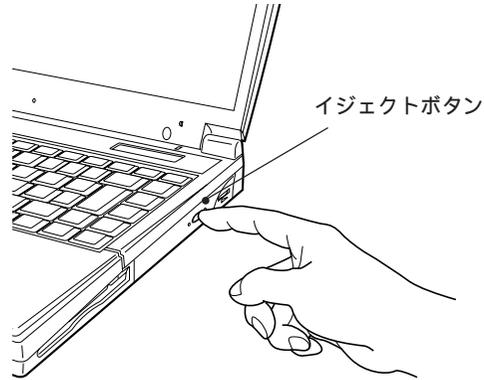
制限

CD-ROMアクセスランプおよびアクセスLED点灯中にメディアを取り出した後、リセットしないでください。

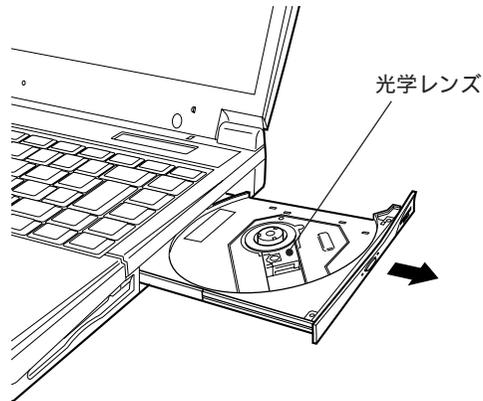
ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



- 2 ディスクトレイを静かに引き出します。



- 3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまで押し込みます。



- 4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

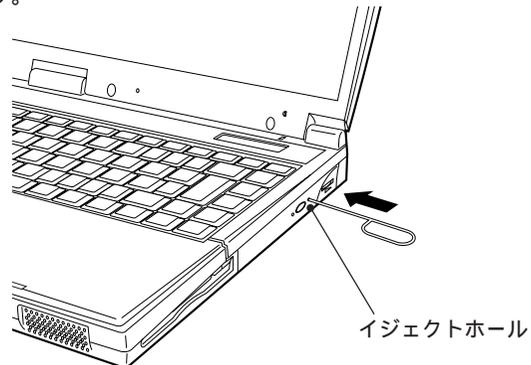
## 取り出し方法

- 1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 メディアをディスクトレイから取り出します。
- 3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

## 強制的なメディアの取り出し

CD-ROMドライブが故障して、メディアが取り出せなくなった場合や、メディアをセットしたまま電源をオフにした場合は強制的にディスクトレイを引き出すことができます。

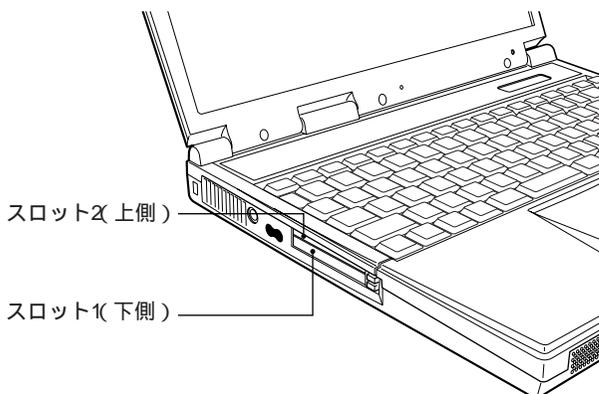
- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、コンピュータの電源を切ります。  
 p.33「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップ)を引きのばしたようなものを差し込みます。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

# PCカードを使う

本機の左側面には、PCカードスロットが、2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、Type II × 2枚またはType III × 1枚です。各スロットの仕様は次のとおりです。



スロット		装着可能なサイズ	仕様
上側	スロット2*	タイプII	CardBus対応
下側	スロット1*	タイプIIまたはタイプIII	CardBus/ZVポート対応

\*Windows NT4.0ではスロットα(下側)、スロット1(上側)と表示されます。



制限

Windows使用時に、CardBus対応のPCカードとIrDA(赤外線通信)やECP対応のデバイスを同時に使用できません。IrDAまたはECP対応のデバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。

PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

☞ p.103「省電力機能」

PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

Windows NT4.0では、Card Bus対応およびZVポート対応のPCカードは使用できません。

## PCカードのセットと取り外し



制限

PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、壊れることがあります。

Windows98/Windows2000使用時はサスペンド中にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードは次の状態で抜き差しできます。

Windows98/Windows2000

電源を切った状態

電源が入った状態

ただし、サスペンド中は、カードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

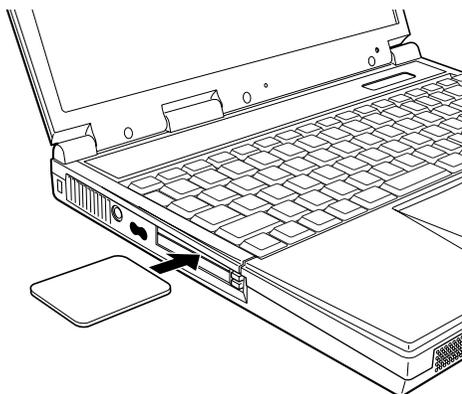
WindowsNT4.0

電源を切った状態のみ

PCカードは、次の手順でセットします。

PCカードの  
セット

- 1 使用するPCカードが、どのスロットで使用可能か確認します。
- 2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。  
PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。



3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 認識されるとPCカードが使用できます。

Windows98/Windows2000では正しくセットされると「ピポッ」という認識音が鳴り、タスクバーにPCカードアイコンが表示されます。



< Windows98 >



< Windows2000 >

PCカードによっては「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、次のフォルダを指定してください。

Windows98インストールモデル 「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」

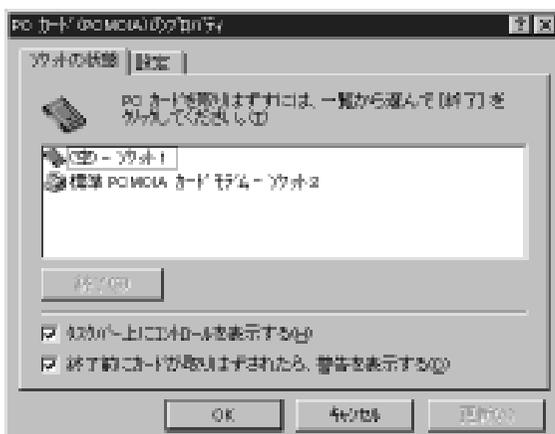
WindowsNT4.0インストールモデル 「C:¥I386 (Iはアルファベット)」

Windows2000インストールモデル 「C:¥I386 (Iはアルファベット)」

いずれも、上記フォルダがCDドライブに登録されている場合

PCカードの内容を確認するには

画面右下のタスクバーに表示される「PCカード」アイコンまたは「コントロールパネル」の「PCカード (PCMCIA)」をダブルクリックすると、PCカードのプロパティが表示されます。



< Windows98の場合 >

## PCカードの 取り外し

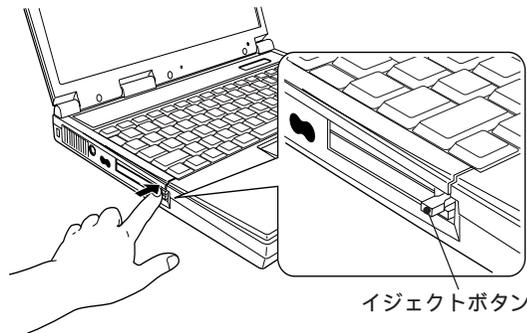
PCカードは、次の手順で取り外します。



本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。  
火傷に注意して取り外してください。

- 1 Windows98/Windows2000では、PCカードの終了処理を行います。  
WindowsNT4.0では、コンピュータの電源を切ります。  
<Windows98/Windows2000でのPCカード終了処理>
  - ① 「コントロールパネル」の「PCカード(PCMCIA)」または「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
  - ② 取り外すPCカードを選択して[ 停止 ]をクリックします。
  - ③ 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら、[ OK ]をクリックします。

- 2 取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出ます。



- 3 イジェクトボタンを押します。  
Windows98/Windows2000の動作中は、「ピポ」と認識音が鳴ります。



- 4 PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。  
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

# 赤外線通信を使う

本機の中央正面には赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと赤外線通信機能を持つ機器の間で、データのやり取りができます。赤外線通信はケーブルの接続をせずに、簡単にデータの通信を行うことができます。赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが別途必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。



WindowsNT4.0では、赤外線通信は使用できません。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様(通信モード)	特長	使用するソフトウェア例
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps IrDA1.1規格	Windows98の赤外線通信機能
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps IrDA1.0規格	Windows2000のワイヤレスリンク

## 通信モードの設定

赤外線通信を行うときは、使用する通信モードに合わせて設定を変更します。通信モードの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Advancedメニュー画面」 - 「I/O Device Configuration」 - 「IR port」 - 「Mode」で行います。

 p.126 「Advancedメニュー画面」

通信モード	IR port-Modeの設定
FIR	FIR (初期値)
SIR	SIR

SIR で使う場合 (Windows98) Windows98で赤外線通信モードを「FIR (初期値) から「SIR」へ変更するときは、SIR用のドライバをインストールする必要があります。なお、ドライバは1度インストールすれば、次回から赤外線通信モードを変更しても、再インストールの必要はありません。

- 1 BIOS Setupユーティリティの「Advancedメニュー画面」-「I/O Device Configuration」-「IR port」-「Mode」で赤外線通信モードを「SIR」に変更します。
- 2 Windows98を起動します。新しいハードウェア「赤外線PnPシリアルポート(\*PNP0501)」が検出されます。
- 3 「ディスクの挿入」画面が表示されたらCD-ROMをセットせずに「ファイルのコピー元」に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。  
(¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABSフォルダがCドライブにある場合)
- 4 「システム設定の変更」画面が表示されたら[ はい ]をクリックします。Windowsが再起動します。これでSIR用ドライバのインストールは終了です。

## 赤外線デバイスの設定(Windows2000)

Windows2000で赤外線通信を行う場合は、次の設定が必要です。この設定は、工場出荷時に設定されていません。

- 1 「コントロールパネル」-「システム」をダブルクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、続けて[ デバイスマネージャ ]をクリックします。
- 3 「赤外線デバイス」をダブルクリックし、続けて「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
- 4 「詳細設定」タブをクリックします。
- 5 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「IBM31T1100」を選択して[OK]をクリックします。

## 赤外線通信の実行

### 通信時の注意

赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。

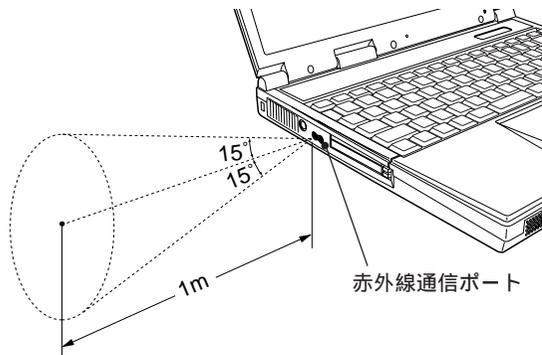
赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。

直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。

オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けしないでください。誤動作をすることがあります。

### 通信可能な距離

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



赤外線通信の実行 (Windows98) Windows98の「赤外線通信機能」を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

- 1 通信を行う2台のコンピュータの「コントロールパネル」-「赤外線モニタ」-「オプション」タブで「赤外線通信を可能にする」にチェックを付けます。
- 2 2台の赤外線通信ポートを通信可能な位置に設置すると、お互いのポートを検出します。
- 3 送信側のコンピュータの「マイコンピュータ」-「赤外線を受信側」で「赤外線転送」をクリックします。
- 4 送信するファイルを指定して送信します。  
送信されたファイルは、受信側のコンピュータの「赤外線を受信側」の「受信したファイル」に登録されます。

赤外線通信の実行  
(Windows2000)

Windows2000の「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信の方法は、次のとおりです。

- 1 2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。
- 2 赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」が表示されます。
- 3 送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。
- 4 送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。
- 5 受信側に、「このファイルを受信しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 6 「正常に受信されました。」と表示されたら[はい]をクリックします。  
受信されたファイルはデスクトップ上に保存されます。

# 表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。  
本機で表示可能な表示装置は次のとおりです。

LCDユニット(本体)

CRTディスプレイ(外付けディスプレイ)

テレビ(S端子が搭載されていないテレビでは表示できません。)

## LCDユニット

本機は、14.1型TFT XGAカラーLCD(液晶ディスプレイ)を搭載しています。



制限

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られています。画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。

色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。

Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。

### 明るさの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状態
+	明るくなる
+	暗くなる

### バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は次の方法で行います。

+ を押す : もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じる : 再びLCDユニットを開くとバックライトが点灯します。Windows98/Windows2000ではLCDユニットを閉じたときの動作を設定できます。

p.76「LCDユニットを閉じたときの動作」

LCDユニットを閉じたときの動作 (Windows98/Windows2000)

LCDパネルを閉じるとバックライトが消えるように初期値が設定されています。Windows98/Windows2000ではLCDパネルを閉じたときにサスペンドモードに移る、電源を切るなどの動作を設定できます。設定は「コントロールパネル」→「電源管理(Windows2000は「電源オプション」)」→「詳細」タブで行います。この画面で同様に電源ボタンを押したときの設定もできます。



「なし」: バックライトを消す。  
「スタンバイ」: Save to RAMモード。  
「休止状態」: Save to Diskモード。  
☞ p.103 「省電力機能を使う」

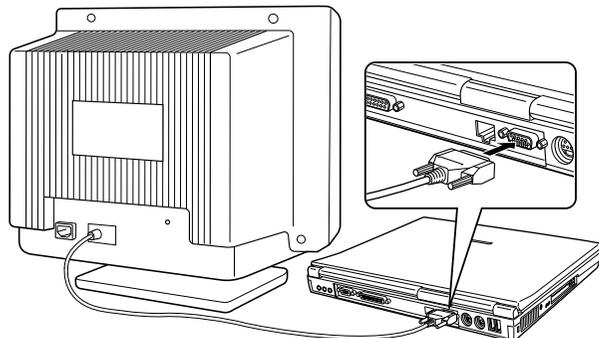
<Windows98の画面>

## CRTディスプレイ

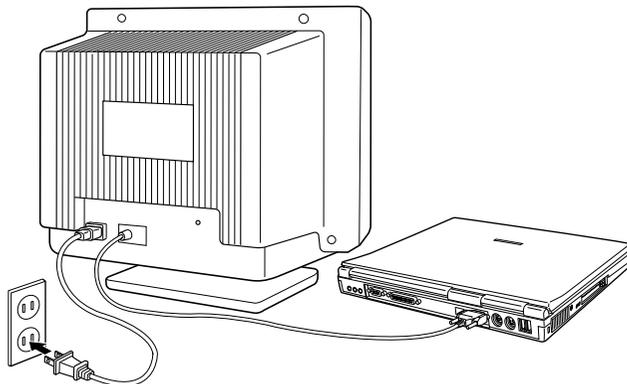
ディスプレイの接続

本機では、CRTディスプレイを接続して使用できます。ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

- 1 本機とディスプレイの電源をオフにします。
- 2 ディスプレイの接続コードを本機背面のVGAコネクタに接続します。



- 3 ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



- 4 ディスプレイと本機の電源を入れます。

表示の切り替え  
方法

**Fn** + **F8** を押すたびに下記の順番で表示装置が切り替わります。

LCD ONLY( LCDのみに表示 )   CRT ONLY( CRTのみに表示 )  
- SIMUL( LCDとCRTに表示 )



制限

表示装置を [ CRT ONLY ] に切り替えるとLCDには何も表示されません。表示装置の切り替えは、ディスプレイを接続し表示できる状態にしてから行ってください。何も表示されなくなったときには、 **Fn** + **F8** を押して表示装置を切り替えてください。



参考

ビデオプロジェクタの接続

[ SIMUL ] で表示している場合、LCD画面に表示されているイメージがそのまま表示されます。

SafeモードまたはVGAモードでの起動

接続されているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、解像度によってはWindowsの画面が正常に表示されないことがあります。このようなときにはSafeモード (Windows98使用時) またはVGAモード (WindowsNT4.0/Windows2000使用時) で起動して、正しく設定し直してください。SafeモードおよびVGAモードはWindowsを基本的な設定で起動するモードです。

☞ p.191「LCDの不具合」

## デュアル ディスプレイ機能 (Windows98)

デュアルディスプレイ機能を使用すると、2つのアプリケーションを別々の画面で同時に使用したり、CRTとLCDを上下左右に仮想的に並べた表示ができます。設定は「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブで行います。



分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。「1」がLCD、「2」がCRTです。この設定ではLCDの右側をCRTが表示します。「2」をドラッグして位置を変更します。

「ディスプレイ」で2を選択しているときにチェックマークがついているとデュアルディスプレイ機能が有効です。設定後は[適用]をクリックします。

表示をもとの状態に戻すには  
チェックマークを外して[適用]をクリック(このとき画面が乱れる場合があります)  
してからWindowsを再起動します。



使用するディスプレイの仕様によっては、デュアルディスプレイ機能は使用できません。  
CRTが接続されていないとデュアルディスプレイ機能は使用できません。

## テレビ

S端子ケーブルを使用してテレビと接続、表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。



制限

ビデオ出力ジャックから出力される信号は640×480ドットの画面を一般のテレビで表示可能に変換したNTSC信号です。NTSC信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログRGB信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

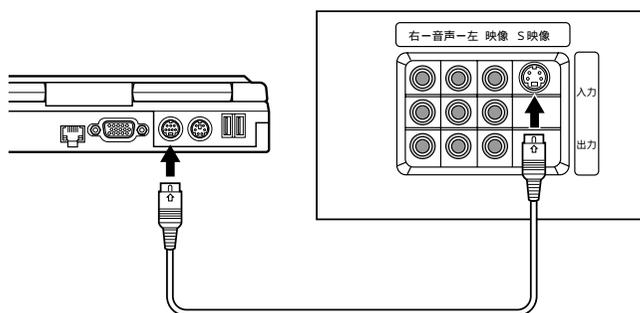
テレビ画面のサイズは640×480ドットです。全面表示をするには解像度を640×480ドットに設定してください。それ以上の解像度を設定すると仮想スクリーン表示になります。

 p.80「解像度や表示色を変更する」

使ってみましょう

### 接続

- 1 テレビと本機の電源をオフにします。
- 2 市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ(S端子)と、本機のS端子を接続します。



- 3 テレビと本機の電源を入れます。

### 表示の切り替え方法

**[Fn] + [F9]** を押すたびにテレビ表示のオン/オフが切り替わります。

テレビ表示をしていたWindowsを再起動するとテレビ表示がオフになります。

テレビ表示をする場合は、再度 **[Fn] + [F9]** を押して表示を切り替えてください。

# 解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。



参考

SafeモードまたはVGAモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(Windows98使用時)またはVGAモード(WindowsNT4.0/Windows2000使用時)で起動して再設定を行ってください。

p.191「LCDの不具合」

## Windows 98の場合

解像度や表示色  
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」の「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」の「色」の項目を設定したい内容に変更します。



- 4 項目を変更したら、[適用] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

## 解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

LCD画面とCRTの両方に表示する場合の解像度は、LCD画面に合わせて表示されます。

表示色 \ 解像度	256色	High Color (16ビット/65536色)	True Color (32ビット/約26万色)
640×480ドット			
800×600ドット			
1024×768ドット			

デュアルディスプレイ機能使用時のCRT画面表示

デュアルディスプレイ機能使用時はCRT画面の解像度を独自に設定できます。

 p.78「デュアルディスプレイ機能」

表示色 \ 解像度	256色	High Color (16ビット/65536色)	True Color (32ビット/1677万色)
640×480ドット			
800×600ドット			
1024×768ドット			
1280×1024ドット			



上記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。

## Windows NT 4.0の場合

解像度や表示色を変更するには

- 1 「コントロールパネル」の「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ディスプレイの設定」タブをクリックします。
- 3 「デスクトップ領域」や「カラーパレット」などの項目を設定したい内容に変更します。



- 4 項目を変更したら、[ テスト ] をクリックし、画面のメッセージにしたがって操作します。

解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

LCD画面とCRTの両方に表示する場合の解像度は、LCD画面の解像度に合わせて表示されます。

表示色 \ 解像度	256色	High Color (16ビット/65536色)	True Color (24ビット/約26万色)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

LCD画面では仮想スクリーン表示。



制限

上記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。

## Windows 2000の場合

解像度や表示色を変更するには

- 1 「コントロールパネル」の「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」や「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。



- 4 項目を変更したら、[ 適用 ] をクリックし、画面のメッセージにしたがって操作します。

使ってみましょう

### 解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

LCD画面とCRTの両方に表示する場合の解像度は、LCD画面の解像度に合わせて表示されます。

表示色 \ 解像度	256色	High Color (16ビット/65536色)	True Color (24ビット/約26万色)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			

LCD画面では仮想スクリーン表示。

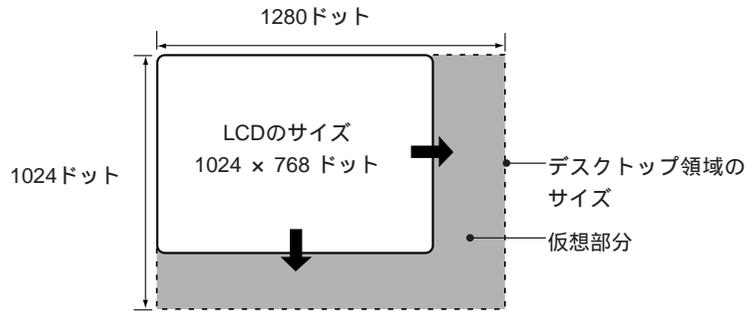


制限

上記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。

## 仮想スクリーン

WindowsNT4.0/Windows2000ではLCD画面に、実際の画面(1024×768ドット)の解像度より大きいデスクトップ領域を設定することができます。この機能を仮想スクリーンモードといいます。画面に表示されていない、デスクトップ領域は、ポインタを移動すると自動的にスクロールして表示されます。解像度で1280×1024ドットに設定すると、次の図のような関係になります。



# サウンド機能を使う

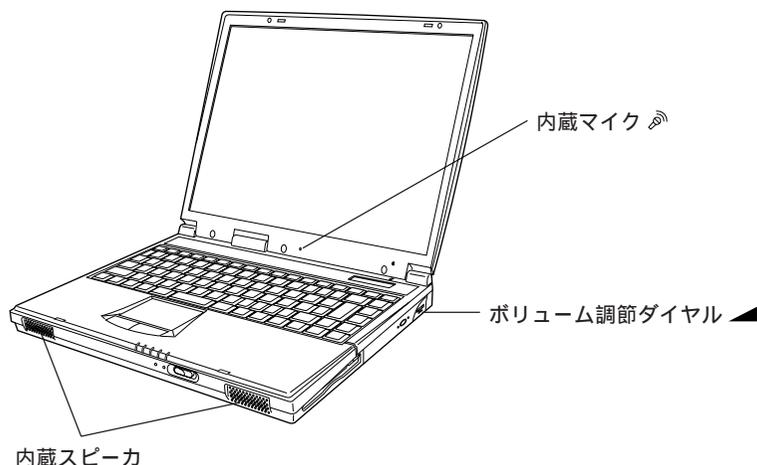
本機には、Sound Blaster互換のサウンド機能(内蔵マイク、内蔵スピーカおよび音声を入出力するためのコネクタなど)が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。  
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

## 内蔵マイク

本機のLCDユニットの画面下には、マイク(モノラル)が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。



## 内蔵スピーカ

本機の前面には、ステレオスピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。スピーカの音量の調節は次の方法で行います。

### ボリューム調節ダイヤル

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

### スピーカアイコン

画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

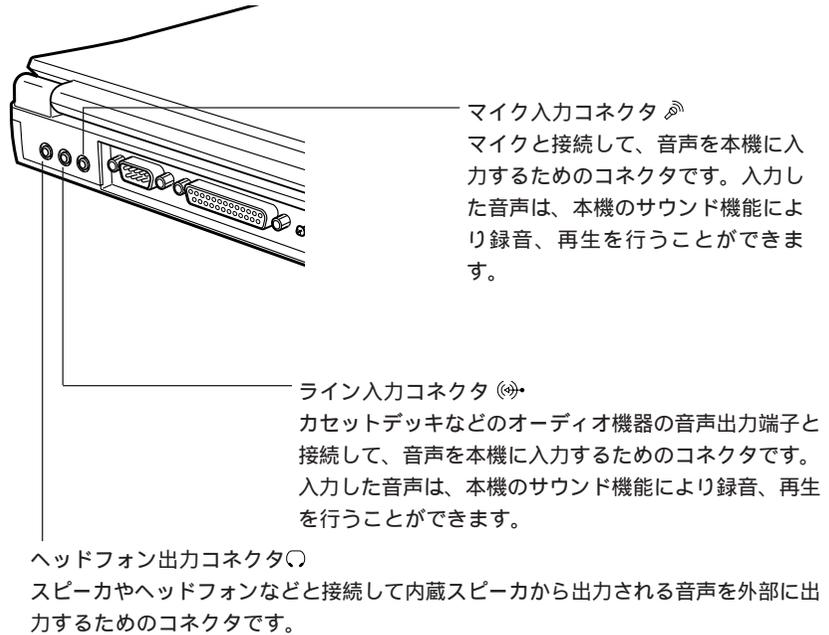


### 音量調節

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。この場合は、お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

## 外部オーディオ機器などの接続

本機の背面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。



### スピーカ、マイクの接続

スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

サウンドユーティリティは「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」(WindowsNT4.0の場合は「マルチメディア」)フォルダに登録されています。

# FAXモデムを使う(FAXモデム機能搭載モデル)

FAXモデム機能内蔵モデルには56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムカードが搭載され、高速の通信が可能です。



FAXモデムとネットワークの両機能を搭載したモデルの場合、本体背面の「モデム・LANコンボジャック」はFAXモデムジャックとネットワークジャックを共用しています。そのため、ジャックを差しかえることで、どちらの機能も使用できます。ただし、同時に2つの機能を使用することはできません。

## お使いになる前に

**使用回線について** 本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、最寄りのNTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

**ダイヤル回線** : 回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間により(パルス) ダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**プッシュ回線** : 押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ…」とトーンによる(トーン) 信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

**特殊な電話機・回線での使用**

### PBXへの接続

本機をPBX(構内交換機)に接続した場合、NTT回線とPBXの回線(内線)の電気的特性などが異なると、本機が正常に動作しないことがあります。

PBXの管理者または保守業者などに、電気的特性などがNTT仕様と一致するかどうかを確認した上で、接続を行ってください。

### 2線式でない電話装置(ホームテレホンなど)での使用

ホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない電話装置は、内線の仕様がNTTの加入電話回線と異なります。このため、内線側に(子機として)本機をそのまま接続することはできません。

このような場合、NTTの回線と電話装置の主装置(親機)の間に切換機を設けたり、内線側に特別な処置をすることによって、本機の使用が可能になります。詳しくは、電話装置の販売業者や保守業者にご相談ください。

使  
っ  
て  
み  
ま  
し  
よ  
う

### キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。

なお、この現象を回避できるサービスについては、お近くのNTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

### 通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90\*通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。

ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

\*V.90 :ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

### 通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

### ATコマンドについて

本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「EPSONドライバCD」の「MODEM」「ATコマンドリファレンス.pdf」(英文)をご覧ください。

# インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは次のとおりです。

## 電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタを電話回線を接続します。

 p.12「電話回線への接続」



## ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.91「ダイヤル情報の設定」

ダイヤルアップネットワークのインストールを行います。(WindowsNT4.0のみ)

 p.92「ダイヤルアップネットワークのインストール」



## プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。

契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

### ① オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えます。支払いについては、クレジットカード決済になります。

Windowsデスクトップ上の「インターネット接続ウィザード」や雑誌などで入手できるサインアップのためのCD-ROMが利用できます。

 p.93「オンラインでプロバイダと契約する」

② ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.94 「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」



接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書はブラウジングソフトとして「インターネットエクスプローラ」、メールソフトとして「Outlook Express」を使用することを前提に記載しています。

 p.99 「インターネットエクスプローラとOutlook Expressの使い方」

参考

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する:

FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法はTAの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する:

インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する:

詳しくはCATV会社にお問い合わせください。

**プロバイダの選択** プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びましょう。不明点はプロバイダにご確認ください。

**インターネットにかかる費用** インターネットを利用する場合に発生する費用は以下のとおりです。

初期費用: プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金: 月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加料金: 基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらかという追加料金が加算されます。

通話料金: プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

#### インターネットを使う上での注意

インターネットや、メールを利用すると、簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないこともあります。次の点に気をつけて使用してください。

メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

## ダイヤルするための準備

#### ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックし、「モデム」アイコン(Windows 2000は、「電話とモデムのオプション」アイコン)をダブルクリックします。
- 2 [ダイヤルのプロパティ] (Windows 2000は、[編集])をクリックします。
- 3 「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

ダイヤルアップ  
ネットワークの  
インストール  
(WindowsNT4.0)

WindowsNT4.0では、次の方法でダイヤルアップネットワークをインストールする必要があります。

- 1 「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」から「ダイヤルアップネットワーク」をクリックします。
- 2 「インストール」をクリックします。  
「ファイルが必要」画面が表示された場合は「コピー元」に「C:\1386」(「1386」フォルダがCドライブにある場合)と入力して「OK」をクリックします。
- 3 「RASデバイスの追加」画面で、「RAS対応デバイス」項目に「COM3」と表示されている状態で、「OK」をクリックします。
- 4 「リモートアクセスセットアップ」画面で「構成」をクリックします。
- 5 「ポート使用の構成」画面で「ダイヤルアウトのみ」をチェックし、「OK」をクリックします。
- 6 「続行」をクリックします。
- 7 「RASに対してネットワークプロトコルが選択されていません。…」と表示された場合は、「OK」をクリックして次の設定を行います。(この画面はネットワーク設定がされている場合は表示されません。)
  - ① 「ネットワークの構成」画面で、「TCP/IP」をチェックし、「OK」をクリックします。
  - ② 再び「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 8 「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されたら、「再起動しない」をクリックします。
- 9 「WindowsNT4.0 Service Pack6a」をインストールします。  
 p.163「Service Pack6aのインストール」

## オンラインでプロバイダと契約する

ここでは、「インターネット接続ウィザード」から、マイクロソフト社が用意したインターネット参照サーバーに接続して契約する方法を説明します。参照サーバーの一覧から契約したいプロバイダを選択して契約できます。電話番号や、IDなどの各種登録や設定が自動で行われ、契約完了後にインターネットがすぐ使えます。

### プロバイダと契約する

オンラインでプロバイダと契約する手順は次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要です。事前に用意しておきましょう。

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「インターネットツール (Windows 2000/Windows NT 4.0では「通信」)」-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 インターネット接続ウィザードが起動します。「新しいインターネットアカウント」オプションを選択して、「次へ」をクリックします。
- 3 インターネット参照サーバーの電話番号が表示されます。地元の電話番号または「Nationwide(120)345349」を選択し、「次へ」をクリックします。  
ダイヤルが開始され、必要な情報がダウンロードされます。
- 4 ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、「次へ」をクリックします。
- 5 情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。  
プロバイダから提示されるユーザーIDやパスワードなどの情報を忘れずに書きとめておいてください。



#### 「オンラインサービス」でプロバイダ契約

Windows 98/Windows2000 では、「オンラインサービス」というフォルダがデスクトップに表示されます。これは、国内で利用できる代表的なプロバイダ契約できるサービスです。

「オンラインサービス」フォルダを開くとプロバイダ名のアイコンがいくつか表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、契約のための画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

## 手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合はダイヤルアップ接続の設定を行います。プロバイダから提示された資料に基づき各種設定を行い、インターネットに接続できるようにします。

次の手順は設定方法の一例です。プロバイダより、設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



#### 接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイヤルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	メールサーバ、POP メールサーバ

## ダイヤルアップ 接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は次のとおりです。

- 1 「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「インターネットツール (Windows 2000/Windows NT 4.0では「通信」)」-「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザードの開始」が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、または…」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。
- 4 「ステップ1: インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。
- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は「詳細設定」をクリックします。  
IPアドレスの指定がない場合は手順10へ進みます。
- 6 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
- 7 「ISPによるDNS(ドメイン・ネーム・サービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
- 8 「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、「OK」をクリックします。
- 9 「ステップ1:...」画面に戻ったら「次へ」をクリックします。

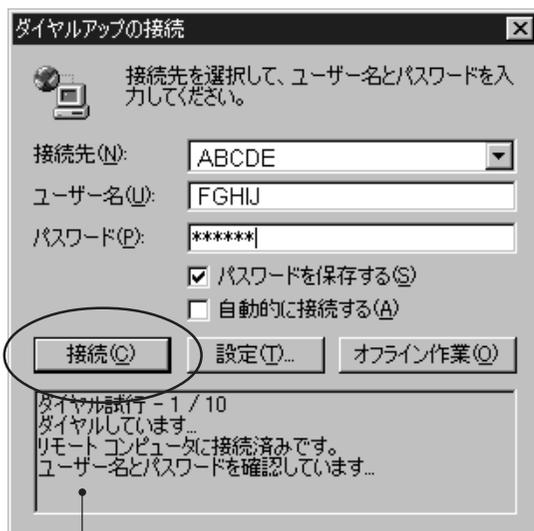
- 10 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。
- 11 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。
- 12 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 13 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
- ① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。
  - ② 「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。
  - ③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。
  - ④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。
- 14 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。
- 「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとインターネットエクスプローラが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。次のページの「インターネットへの接続と切断」に進みます。

## インターネットへの接続と切断

インターネットへの接続は、次の方法で行います。

接続

- 1 「Internet Explorer」または「Outlook Express」を起動します。
- 2 「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。  
自動的に入力されている項目もあります。
- 3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。



[接続]をクリックすると接続状態が表示されます

- 4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。  
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。  
WindowsNT4.0では表示されません。



< Windows98 >



< Windows2000 >

使  
っ  
て  
み  
ま  
し  
よ  
う



ダイヤルアップネットワークから接続する  
ダイヤルアップ接続の設定が正しく完了すると、「マイコンピュータ」-「ダイヤルアップネットワーク (Windows2000では「ネットワークとダイヤルアップ接続」)」に、接続の新しいアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックすると接続できます。  
この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。  
メールソフトウェア使用時のインターネット接続  
インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

接続を終了する  
(切断)

インターネットの切断は次の方法で行います。

タスクバーに表示されている接続アイコンを右クリックし、「切断」をクリックします。  
WindowsNT4.0で、ソフトウェアを起動してから接続した場合、アイコンは表示されません。「コントロールパネル」-「ダイヤルアップモニタ」をダブルクリックするとアイコンが表示されます。



# インターネットエクスプローラと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

インターネットエクスプローラ

インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

使  
っ  
て  
み  
ま  
し  
よ  
う

## インターネットエクスプローラの使い方

起動

- 1 デスクトップ上のインターネットエクスプローラアイコンをダブルクリックします。
- 2 「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。接続が完了するとホームページが表示されます。

終了

- 1 画面右上の×をクリックします。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[直ちに切断]をクリックします。これでインターネットが切断されます。

## 使い方



画面の内容は予告なく変更する場合があります。

見たいホームページを開くには

- ・アドレスバーにURLアドレスを入力して  を押します。
- ・キーワードを使って検索します。

[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておく、すぐにアクセスできます。

- ・登録:「お気に入り」-「お気に入りの追加」をクリックして登録します。
- ・登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが  から  に変わる場所があります。そこでクリックすると、そのページにアクセスできます。

# Outlook Expressの使い方

## 起動

- 1 [スタート] - 「プログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。
- 2 インターネットに接続する場合は「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。接続が完了すると自動的にメールの送受信ができます。

## 終了

- 1 画面右上の×をクリックしてOutlook Expressを終了します。
- 2 インターネットに接続している場合は、「自動切断」画面で、[直ちに切断]をクリックします。

## 使い方



### メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。

Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

ボタン

フォルダ

メールが保存されます。

アドレス帳に登録されたアドレスの一覧です。



接続の状態を表示します。

オンライン：インターネットに接続しています。

オフライン：インターネットに接続していません。

使ってみましょう

メールを  
送信する

- 1 [新しいメール]ボタンをクリックするとメール作成画面が表示されます。
- 2 必要事項 「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。  
インターネットに接続されていない状態で、複数のメールを作成してから1度に送る場合は、メール作成後に[送信]ボタンをクリックすると、フォルダの「送信トレイ」に保存されます。
- 3 [送受信]ボタンをクリックします。  
作成したメールや送信トレイに保存されているメールが送信されます。

メールを  
受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。  
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]ボタンをクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。  
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る アドレス帳にメールアドレスを登録しておく、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]ボタンをクリックします。
- 2 [新規作成]ボタンをクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

# 省電力機能を使う

省電力機能を使うと消費電力を抑えることができます。特にバッテリーだけで使う場合は、省電力機能を使うことで使用可能時間を延ばすことができます。



制限

WindowsNT4.0では省電力機能は使用できません。BIOS SETUPユーティリティの「POWERメニュー画面」の設定を変えないでください。Windows98/Windows2000での設定がBIOS Setupユーティリティでの設定より優先されます。

## 省電力機能の種類

本機の省電力機能には大きく分けて次の3つの機能があります。

### パワーマネジメント機能

一定時間何も操作しないと省電力モードに入り消費電力を抑えます。

### ローバッテリーサスペンド機能

バッテリーで使っている時にバッテリー残量が少なくなるとサスペンドモードに入ります。その間にACアダプタを接続するなどの処置をとります。

 p.41「バッテリー残量が少なくなったら」

### サスペンド・レジューム機能

サスペンドボタンなどでサスペンド(中断)・レジューム(復帰)をいつでも実行できます。復帰後すぐに作業を続行できるため、ちょっと席を外す時などに便利です。またSave to Diskモードは電源を切った状態と同じなので、本機を持ち運ぶときにサスペンドして、目的地でレジュームするといった使い方もできます。

## サスペンドモード

本機の省電力モードには「HDDの電源を切る」、「モニタの電源を切る」、「サスペンドモード」があります。

サスペンドモードは、ほとんどの機能を停止して、消費電力を最小限(またはゼロ)に抑えます。サスペンドモードには次の2つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

Save to RAMモード(Windowsでは「スタンバイ」と表示)

作業内容をメモリに保持した状態で中断します。LCD画面の表示が停止し、電源LEDが緑色に点滅します。レジューム時は、数秒で作業を中断したときと同じ状態になります。

Save to RAMモードでは、作業内容を保持するために電力が必要です。バッテリーのみで使用している場合は、バッテリー容量がなくなると保存していないデータは消失します。

Save to Diskモード(Windowsでは「休止状態」と表示)

作業内容を内蔵HDDにあらかじめ作成してある領域(Save to Disk領域)に保存して中断し電源を切ります。LCD画面の表示が停止し、電源LEDが消えます。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。レジューム時には、使用可能な状態になるまで多少時間がかかります。PCカードや周辺装置によっては、レジューム後に正常に使用できなくなるものがあります。

Save to Disk  
モードを有効に  
するには

休止状態を有効にするには次の設定が必要です。

STD領域の確保(Windows98のみ)

Windows98では、中断時の作業内容を保存しておく特別の領域(Save to Disk領域)をHDDに作成する必要があります。本機では購入時にあらかじめSTD領域を作成してあります。STD領域はメモリを増設した場合に、容量に合わせて作成しなおす必要があります。

☞ p.153「STD領域の作成」

休止状態の設定

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。購入時にはチェックが付いていません。

Windows98では、STD領域が確保されていないと、休止状態タブが表示されません。

休止状態の設定は次の画面で行います。

Windows98 : 「コントロールパネル」「電源の管理」「休止状態」タブ

Windows2000 : 「コントロールパネル」「電源オプション」「休止状態」タブ



< Windows98の場合 >

電源LEDの表示      サスペンドモードの状態は電源LEDの点灯によって確認できます。

動作状態	電源LEDの表示
通常モード	緑点灯
サスペンド (Save to RAM) モード	点 滅
サスペンド (Save to Disk) モード	消 灯
電源オフ	消 灯

## 省電力機能の設定と実行

3つの省電力機能の、設定、実行方法は次のとおりです。



WindowsNT4.0では、サスペンドキー( **Fn** )+( **F1** )を押さないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

サスペンドする場合は、万一正常にレジュームしない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)を保存しておくことをおすすめします。

PCカード使用時や赤外線通信の実行中は、サスペンドしないでください。サスペンドすると通信が切断されることがあります。

サウンド機能を使って録音・再生している場合は、サスペンドしないでください。誤動作する可能性があります。

サスペンド中にPCカードを抜き差しすると、正常にレジュームできない場合があります。

NetWareサーバーを利用している場合や、NetBEUIを使用しているネットワークと接続している場合に、サスペンドモードに入ると、レジューム時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ サスペンドモードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに入ると正常にレジュームできない場合があります。

## パワー マネージメント 機能

省電力モードに入る時間の設定は「コントロールパネル」-「電源管理 (Windows2000では「電源オプション」)」-「電源設定」タブで行います。バッテリー使用時とACアダプタ使用時で個別の設定ができます。



設定した時間を超えて何も操作しないと、サスペンドモード(Save to RAM)に移行します。

設定した時間を超えて何も操作しないと、LCD、またはHDDの電源が切れます。

< Windows98の場合 >

画面表示が消えていても省電力モードで動作している可能性があります。間違っても電源スイッチを押さないよう注意してください。

## ローバッテリー サスペンド機能

バッテリー残量が低下した時にサスペンドします。初期設定では、残量約10%でバッテリー残量低下を通知して、そのまま放置するとサスペンド(Save to RAM)する設定になっています。

通知方法や、通知する残量の設定は、「コントロールパネル」-「電源管理 (Windows2000では「電源オプション」)」-「アラーム」タブで行います。

☞ p.42「バッテリーアラームの設定」

サスペンド・  
レジューム機能

次の方法でサスペンドを実行します。

[スタート] - 「Windowsの終了」から実行

Windows98では「スタンバイ ( Save to RAM )」を選択実行します。

Windows2000では「スタンバイ ( Save to RAM ) または「休止状態 ( Save to Disk )」を選択実行します。

**Fn** + **F1** キーを押す。

Save to RAMでサスペンドします。

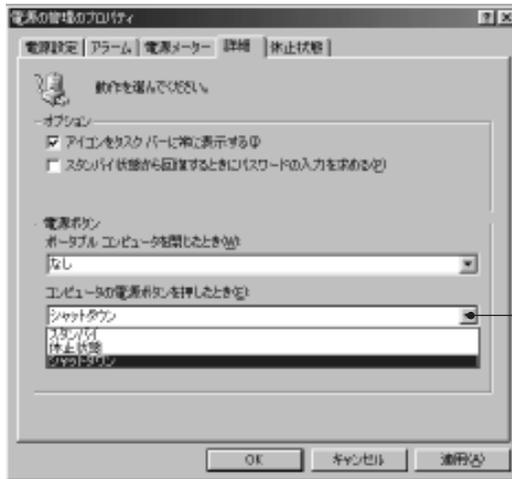
LCDを閉じる。/電源スイッチを押す。

「Save to RAM」または「Save to Disk」でサスペンドします。どちらのモードでサスペンドするかは「電源の管理 ( Windows2000では「電源オプション」) 」 - 「詳細」タブで設定します。

初期設定は次のとおりです。

LCDパネルを閉じる:バックライトを消す(なし)

電源スイッチを押す:電源オフ(シャットダウン)



「スタンバイ」はSave to RAMモード、  
「休止状態」はSave to Diskモードを意味します。

< Windows98の場合 >

## レジューム方法

省電力モードからレジューム(復帰)して、通常モードに戻る方法は次のとおりです。

省電力モード	レジューム方法
HDD、モニタの電源が切れている場合	タッチパッド、キーボードを操作する。 誤って電源スイッチを押さないでください。
Save to RAMモードからのレジューム	キーボードを操作する。 誤って電源スイッチを押さないでください。
Save to Diskモードからのレジューム	電源スイッチを押す。 Save to RAMモードからのレジュームよりも時間がかかります。
LCDを閉じてサスペンドした場合	LCDを開く。 サスペンドしたモードにかかわらずレジュームします。

# そのほかの機能

## ネットワーク機能を使う（ネットワーク機能内蔵モデルのみ）

ネットワーク機能内蔵モデルでは背面のモデム・LANコンボジャックにネットワークを接続できます。

ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するためにネットワークケーブルや、ハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



FAXモデムとネットワークの両機能を搭載したモデルの場合、本体背面の「モデム・LANコンボジャック」は、FAXモデムジャックとネットワークジャックを共用しています。そのため、ジャックを差し替えることで、どちらの機能も使用できます。ただし、同時に2つの機能を使用することはできません。

## パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、BIOS Setupユーティリティで変更してください。

(☞ p.126「Advancedメニュー画面」)

## シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA（ターミナルアダプタ）、FAXモデムなどを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。ただし、使用する周辺機器で指定がある場合には、BIOS Setupユーティリティで変更してください。

(☞ p.126「Advancedメニュー画面」)

## USBコネクタを使う

本機背面のUSBコネクタには、USB対応機器を接続します。接続するUSB対応機器によっては、使用時にデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。



USBコネクタは、WindowsNT4.0では使用できません。

## コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。

### データファイルの アップデート

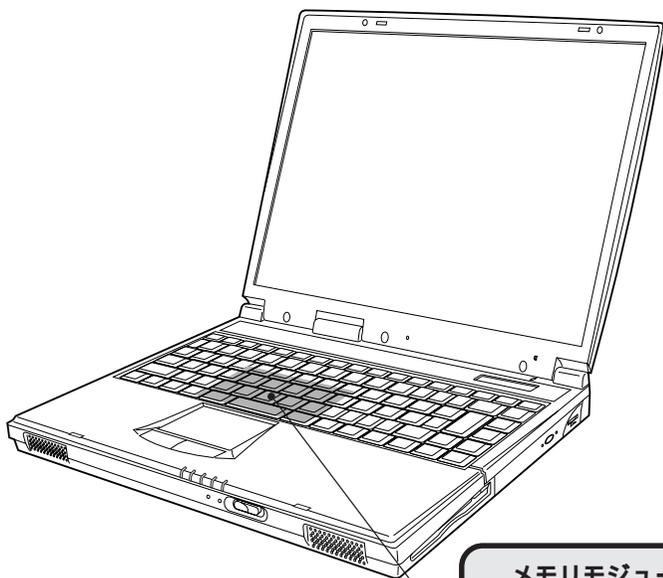
次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新(アップデート)が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付の「ユーティリティCD」に登録されています。

# システムを拡張する

メモリの増設やコンピュータに接続できる装置について説明します。

# 拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。



## メモリモジュール

本機にはメモリスロットが1本用意されており、メインボード上のメモリ64MBと合わせて最大320MBまで拡張することができます。内蔵メモリを増やせば、より快適にコンピュータを使用することができます。

 p.113「メモリモジュールの増設」

## 参考

### メモリモジュールの増設

メモリモジュールの増設作業はコンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があるため十分に注意して作業を行ってください。サービスセンターまたは修理センターでは、お客様に代わってメモリモジュールの増設作業を行います(有償)。サービスセンターまたは修理センターまでご相談ください。

# メモリモジュールの増設

本機のメインボードには64MBのメモリが搭載されています。そのほかにメモリ増設のためのメモリスロットが1本用意されています。SODIMMを追加または交換することで最大320MBまでメモリ容量を増やすことができます。本機で使用可能なSODIMMの仕様は次のとおりです。

144ピンSODIMM( Single Outline Dual Inline Memory Module )

メモリ容量 16MB / 32MB / 64MB / 128MB / 256MB

上記仕様と一致するSODIMMを当社のオプションより選択してください。



制限

Windows98でSave to Diskモードを使用する場合は増設後、メモリ容量に合わせてSTD領域を作成し直す必要があります。☞ p.153「STD領域の作成」

## 作業時の注意

SODIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリーパックをセットしたままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。  
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。  
けがや感電・火災の原因となります。



注意

SODIMMの増設・交換は本製品の内部が高温時には行わないでください。内部が高温になるためやけどの危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



制限

本機は電源をオフにしてもコンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリーを抜いてください。作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。SODIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。SODIMMを持つときは、SODIMMの端子部や素子に触れないでください。SODIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。装着する方向を間違えないでください。SODIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。SODIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。SODIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

## SODIMMの増設

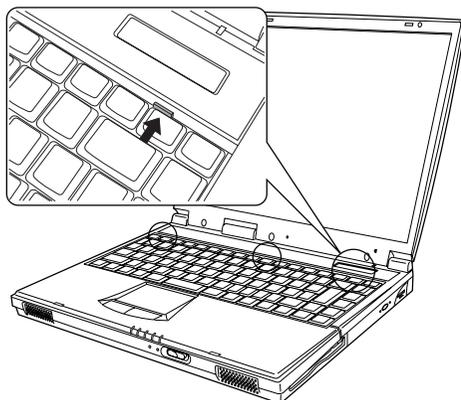
SODIMMの増設は、次の手順で行います。  
SODIMMに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

### SODIMMの 取り付け

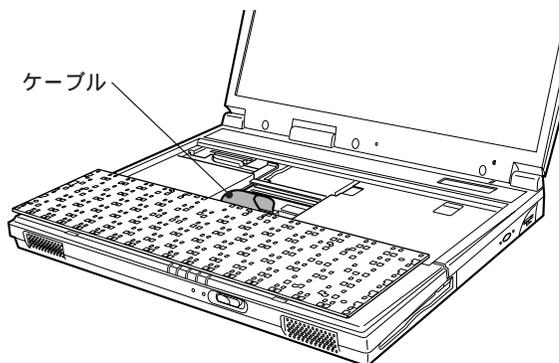
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
- 2 接続されているすべてのケーブルを外します。
- 3 本体底面を上にして置き、バッテリーを取り外します。  
 p.45「バッテリーの交換」
- 4 LCDユニットを開きます。

## 5 キーボードを取り外します。

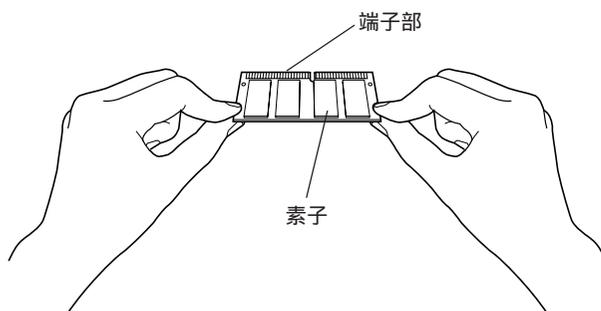
- ① キーボードを固定している3箇所のツメを押しながらキーボードを持ち上げます。



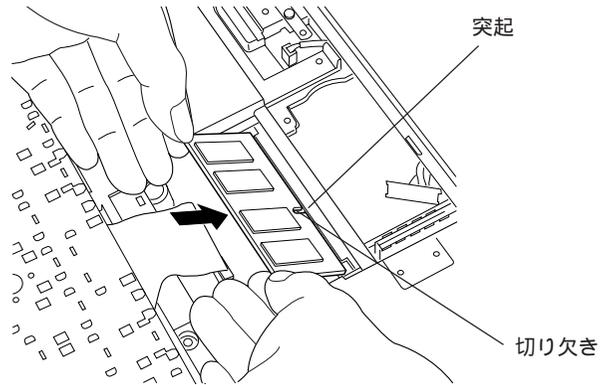
- ② キーボードをそのまま手前に倒して、タッチパッドの上に置きます。キーボードのケーブルを引っ張り過ぎないように注意します。



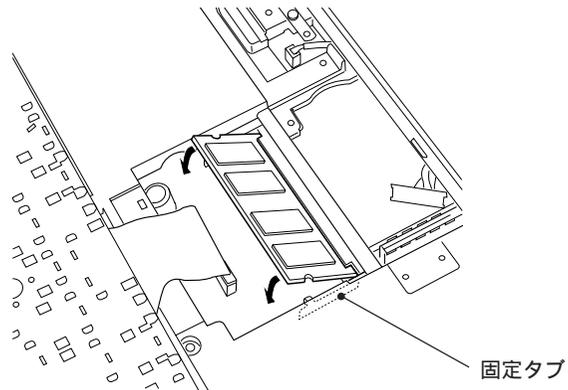
## 6 SODIMMを梱包から取り外します。 SODIMMの端子部や素子に触れないように持ちます。



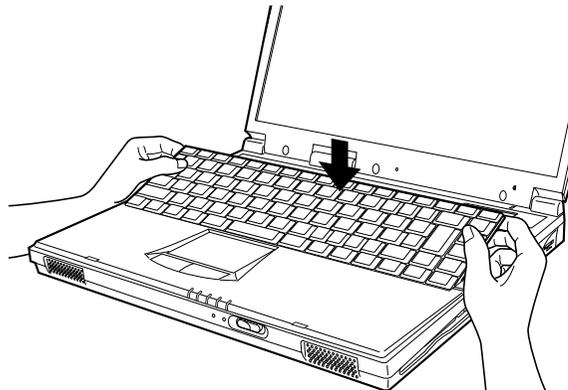
- 7 SODIMMを差し込みます。  
切り欠きを突起に合わせ、SODIMMを約45度の角度でメモリソケットに差し込みます。



- 8 固定タブがカチッと音がするまでSODIMMを静かに倒します。



- 9 キーボードの手前側のツメを合わせてから奥側を押しこみます。  
奥側のツメが3箇所とも固定されたことを確認してください。

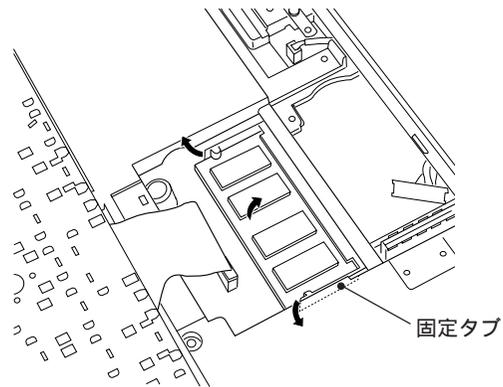


10 コンピュータを使用できるように取り外したバッテリーと、ケーブル類をもとに戻します。

11 電源を入れて、起動時に表示される総メモリ容量を確認します。  
装着した容量だけ、メモリが増えていれば作業は完了です。増えていない場合は、SODIMMが正しく装着されていないと考えられます。電源を切って、SODIMMを装着し直してください。

## SODIMMの 取り外し

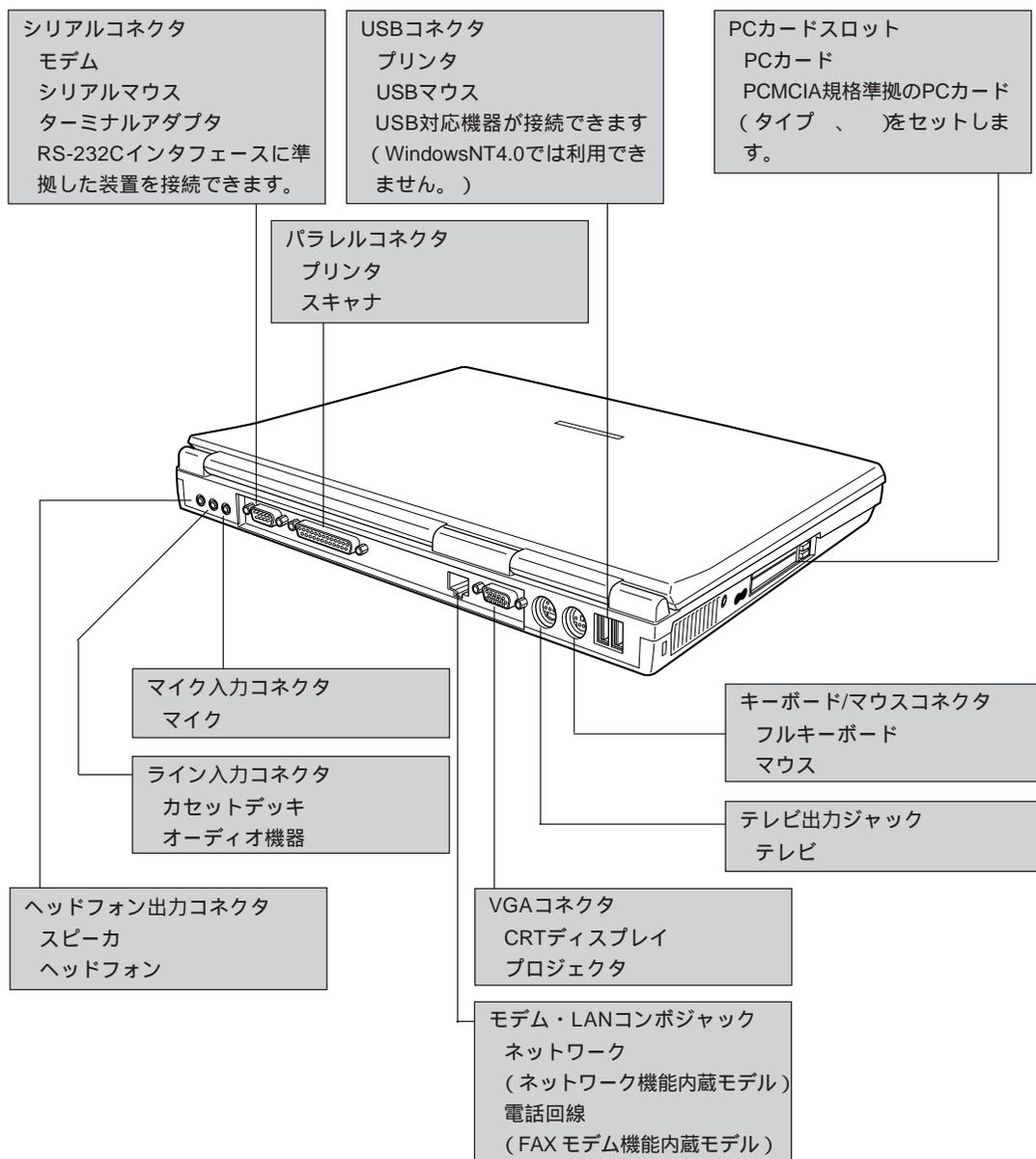
1 ソケットの固定タブを外側に広げるとSODIMMが起き上がります。



2 起き上がったSODIMMの両端を持って静かに引き抜きます。  
取り外したSODIMMは静電防止袋に入れて保管してください。

# 外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



# BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

# BIOSの設定を始める前に

BIOSはコンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定により、コンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合

マウスを使う場合

パスワードを設定する場合

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行して変更します。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源をオフにしたり、リセットしても消去されることはありません。



## 参考

### リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。

販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。



## 制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定(初期設定値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

☞ p.134「BIOS Setupユーティリティの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合にはp.123「設定値を初期値に戻すには」をご覧ください。

# BIOS Setupユーティリティの操作

## BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F2** を押します。**F2** を押さないとシステムが起動します。

Press F2 to enter SETUP

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **F2** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

 p.124「BIOS Setupユーティリティの終了」

**F1** を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

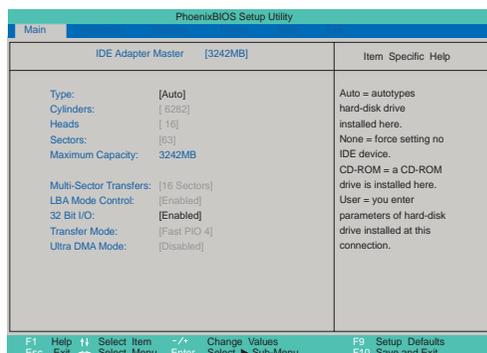
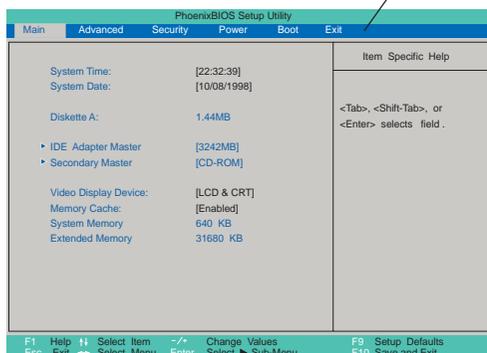
## BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの操作はキーボードで行います。BIOS Setupユーティリティが起動すると下図のようなメニュー画面が表示されます。メニュー画面から、▶マークの付いている項目にカーソルを合わせて **←** を押すとサブメニュー画面が表示されます。

メニュー画面

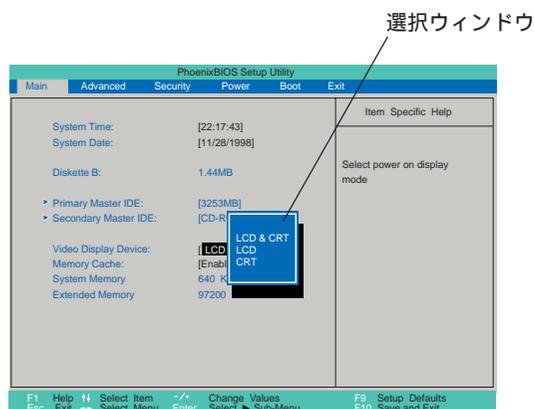
処理メニュー

サブメニュー画面



## 選択ウィンドウ

BIOS Setupユーティリティの画面上で、設定値が黒字表示されている項目は設定の変更が可能です(青字表示されている項目は設定を変更することができません)。黒字表示の項目にカーソルを合わせて $\leftarrow$ を押すと、「選択ウィンドウ」が表示されます。 $\uparrow$  $\downarrow$ キーで移動して $\leftarrow$ を押します。



## キー操作

キー	操作できる内容
$F1$ , $Alt$ + $H$	ヘルプを表示します。
$Esc$	「Exit」画面を表示します。 サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
$\uparrow$ , $\downarrow$	設定を変更する項目を選択します。
$\leftarrow$ , $\rightarrow$	処理メニューを選択します。
$-$ , $F5$ $+$ , $F6$	項目の値を変更します。
$\leftarrow$	メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。
$F9$	全項目の値を初期設定値に戻します。
$F10$	変更した設定値を保存して終了します。
$Page$ Up , $Home$	画面の中の最初の項目に移動します。
$Page$ Down , $End$	画面の中の最後の項目に移動します。

## 設定値をもとに戻すには

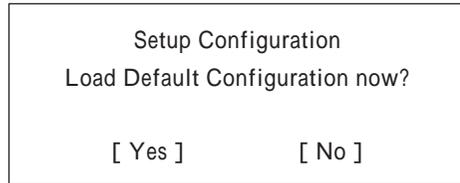
BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

初期値に戻す  
(Load Setup  
Defaults)

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

1

**F9** を押す、または「Exitメニュー画面」の「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。



2

BIOSの設定を変更する場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。  
変更しない場合は[No]を選択して **↵** を押します。

工場出荷時の  
状態に戻す

(WindowsNT4.0)

WindowsNT4.0では、一部の項目の初期値と工場出荷値が異なります。

WindowsNT4.0で「Load Setup Defaults」を実行した場合は、次の項目をWindowsNT4.0の工場出荷値に設定しなおします。そのまま使用すると正常に動作しないことがあります。

WindowsNT4.0の工場出荷値

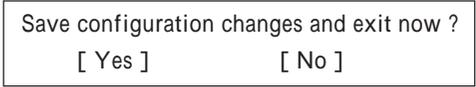
Advancedメニュー画面「Installed OS」 : Other

I/O Device Configurationサブメニュー「IR port」 : Disabled

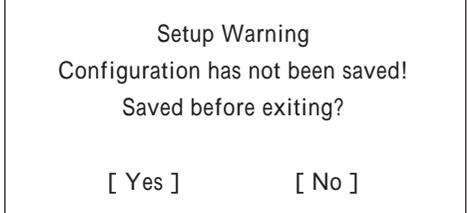
## BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次のどちらかの方法があります。

変更した内容を保  
存し、終了する。  
(Exit Saving  
Changes)

- 1  または   を押し、「Exitメニュー画面」を選択します。
- 2 「Exit Saving Changes」を選択し  を押します。次のメッセージが表示されます。  

- 3 変更した設定値を保存して終了する場合は「Yes」を選択し、 を押します。

変更した内容を  
破棄し、終了する。  
(Exit Discarding  
Changes)

- 1  または   を押し、「Exitメニュー画面」を選択します。
- 2 「Exit Discarding Changes」を選択し、 を押します。  
設定値が変更されていない場合は、そのままBIOS Setupユーティリティが終了し、システムが起動します。
- 3 設定値が変更されている場合は次のメッセージが表示されます。  
  
変更した設定値を保存せずに終了する場合は「No」を選択し、 を押します。  
変更した設定値を保存して終了する場合は「Yes」を選択し  を押します。

# BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

Mainメニュー画面	Advancedメニュー画面
Securityメニュー画面	Powerメニュー画面
Bootメニュー画面	Exitメニュー画面

## Mainメニュー画面

「Mainメニュー画面」は、次のような場合に使用します。

日付と時刻の設定 表示装置の切替

IDE装置の仕様(転送モードやパラメータ)の設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

は表示のみ

は初期設定値

System Time		日付を設定します。
System Date		時刻を設定します。
Diskette A		接続しているFDDのタイプ(1.44MB)が表示されます。
IDE Primary Master IDE Primary Slave		接続しているIDE装置の機種を表示します。表示される項目や選択できる値はIDE装置やTypeの値によって異なります。
	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は「Auto」を設定します。 Primary Slaveは「Auto」固定です。「Auto」で設定できる項目は「32 Bit I/O」のみです。 Auto: BIOSがIDEのパラメータを自動的に設定します。 CD-ROM: CD-ROMドライブなどを接続している場合に選択します。 None: IDE装置を接続しない場合に選択します。 User: 以降のHDDの各パラメータを個別に設定します。
CHS Format	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Heads	HDDのヘッド数を設定します。
	Sectors	HDDのセクタ数を設定します。
	Maximum Capacity	HDDの最大容量を表示します。
LBA Format	Total Sectors	HDDの総セクタ数を設定します。
	Maximum Capacity	HDDの最大容量を表示します。
	Multi-Sector Transfers	Multi-Sector Modeに対応している場合に設定します。 2/4/8/16Sectors/Disabled
	LBA Mode Control	記憶容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしている場合に選択します。 Enabled/Disabled
	32Bit I/O	32ビットデータ転送の有効・無効を設定します。 Enabled/Disabled
	Transfer Mode	HDDの転送モードを設定します。 Fast PIO 1/Fast PIO 2/Fast PIO 3/Fast PIO 4/FPIO 3 DMA 1/FPIO 4 DMA 2/Standard
	Ultra DMA Mode	Ultra DMA/33対応の機能を設定します。 Mode0/Mode1/Mode2:動作モードを設定します。 Disabled: 使用しません。

Video Display Device	起動時に使用する表示装置を設定します。 LCD : LCDユニットに表示します。 CRT : 外付けディスプレイに表示します。 AUTO : 起動時の接続状態に合わせて表示します。
System Memory	標準装備されているメインメモリの容量を起動時に自動的に計算して表示します。
Extended Memory	拡張メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。

## Advancedメニュー画面

「Advancedメニュー画面」は、次のような場合に使用します。

インストールされているOSの設定

周辺デバイス(シリアルポート、赤外線ポート、パラレルポート)のアドレス設定

タッチパッドの状態設定

NumLockモードの状態設定

診断プログラムの状態設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

Installed O/S	システムにインストールされているOSを選択します。WindowsNT4.0の工場出荷値は[Other]です。 Win98/2000/Me:Windows98/Windows2000/WindowsMe Other :Plug and play非対応OS(WindowsNT4.0など) 使用するOSに合わせて正しく設定しないと、OSによっては正常に動作しなくなる場合があります。
I/O Device Configuration	周辺デバイスのアドレス設定を行います。 ☞ p.127「I/O Device Configurationサブメニュー画面」
Large Disk Access Mode	UNIX,Novel Netware,Windows以外のOSでは[ Large ]を選択します。 通常は[ Normal ]で使用します。 Large :UNIX,Novel Netware,Windows以外のOSを使用する場合に選択します。 Normal:Windowsで使用する場合に選択します。
TV Mode	接続するテレビの規格を選択します。 J-NTSC :日本国内で使用している規格です。 NTSC :米国などで使用している規格です。 PAL :ヨーロッパ、南米などで使用している規格です。
Internal Pointing Device	本機のタッチパッドを使用するかを設定します。PS/2マウスを使用する場合は[Disabled]を選択します。 Disabled :タッチパッドを使用しません。 Enabled :タッチパッドを使用します。
Num Lock	起動時の[ Num Lock ]の状態を設定します。 Auto: システム終了時の[ Num Lock ]モードの状態を保持します。 On [ Num Lock ]モードに設定します。 Off [ Num Lock ]モードに設定しません。
Local Bus IDE adapter	どのIDEアダプタを使用するかを設定します。 Primary :プライマリIDEアダプタを使用します。 Both :プライマリ/セカンダリIDEアダプタを使用します。

Anti-Virus Feature	ウイルス機能を使用するかを設定します。( Virus Scan for Windowsなどのウイルス検出ソフトを使用する場合は、[Disabled]に設定します。) Disabled :ウイルス機能を使用しません。 Enabled :ウイルス機能を使用します。
QuickBoot Mode	起動時のハードウェアの状態を診断するプログラムを行わずに起動するかどうかを設定します。[ Enabled ]を選択すると、通常の起動までの時間が速くなります。 Disabled :通常どおり診断プログラムを実行し、システムを起動します。 Enabled :診断プログラムを省略し、システムを起動します。

## I/O Device Configurationサブメニュー画面

Serial port A		シリアルポート (COM1) の設定を行います。 Auto :シリアルポートの設定を自動的に設定します。 User :シリアルポートの設定項目を個別に設定できます。 Disabled :シリアルポートを使用しません。
	Base I/O address	Serial Port A項目で [ User ] に設定したときに表示されます。 シリアルポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3F8 IRQ4/3E8 IRQ4/2F8 IRQ3/2E8 IRQ3
IR port		赤外線ポートの設定を行います。WindowsNT4.0の工場出荷値は[Disabled]です。 Auto :赤外線ポートの設定を自動的に設定します。 User :赤外線ポートの設定項目を個別に設定できます。 Disabled :赤外線ポートを使用しません。
	Base I/O address	IR port 項目で [ User ] に設定したときに表示されます。 赤外線ポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3F8 IRQ4/3E8 IRQ4/2F8 IRQ3/2E8 IRQ3
	Mode	IR port 項目で [ Auto ] または [ User ] に設定したときに表示されます。 赤外線ポートの通信モードを設定します。 FIR/SIR
	DMA Channel	IR port項目で [ User ] に設定し、さらにModeで [ FIR ] に設定したときに表示されます。 赤外線ポートで使用するDMAを設定します。 DMA3/DMA1
Parallel port		パラレルポートの設定を行います。 Auto :パラレルポートの設定を自動的に設定します。 User :パラレルポートの設定項目を個別に設定できます。 Disabled :パラレルポートを使用しません。
	Mode	Parallel port 項目で [ Auto ] または [ User ] に設定したときに表示されます。 パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺デバイスで設定指示がある場合は、指示にしたがって設定します。 Output only :出力のみのモードに設定します。 Bi-directional : EPPモードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 EPP : EPPモードに設定します。

Parallel port	Base I/O address	Parallel port 項目で [ User ] に設定したときに表示されます。 パラレルポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャンネルを設定します。 378/IRQ7 278/IRQ7 378/IRQ5 278/IRQ5
	DMA Channel	Parallel port 項目で [ User ] に設定し、さらに Mode で [ ECP ] に設定したときに表示されます。 ECPモードの時に使用するDMAチャンネルを設定します。 DMA3:DMAチャンネル3を使用します。 DMA1:DMAチャンネル1を使用します。

## Securityメニュー画面

「Securityメニュー画面」は、システム起動時やBIOS Setupユーティリティ起動時などのパスワードを設定する場合に使用します。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

System Boot Entry		システム起動時などにパスワード入力を要求します。
	Set Password	<input type="button" value="↵"/> を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Password checking	パスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。下表参照。
Hard Disk Unlock		HDDの使用時にパスワード入力を要求します。
	Set Password	<input type="button" value="↵"/> を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時またはBIOS Setupユーティリティ起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

パスワードを要求するタイミングは次のとおりです。

:パスワード入力を要求します。 × :パスワード入力を要求しません。

		BIOS Setup ユーティリティ 起動時	システム起動時	サスペンドからの レジューム時
System Boot Entry	Disable		×	×
	OnBoot			×
	Always			
Hard Disk Unlock	Set Password			

「System Boot Entry」と「Hard Disk Unlock」のパスワード要求は別々に行われます。サスペンドモードからのレジュームはSave to RAM、Save to Diskのどちらのモードでもパスワード要求が行われます。

## パスワードの設定

パスワードの設定は、次の手順で行います。



制限

パスワードを設定した後は、パスワードを入力しないとシステムやBIOS Setupユーティリティを起動できなくなります。設定したパスワードは忘れないように書き写して保管しておいてください。万一パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

- 1 BIOS Setupユーティリティの「Securityメニュー画面」の「Set Password」項目で、を押します。次の画面が表示されます。

Set Password:	
Enter New Password	[                    ]
Confirm New Password	[                    ]

- 2 「Enter New Password」欄にパスワードを入力し、を押します。パスワードは8文字まで入力できます。
- 3 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順2と同じパスワードを入力し、を押します。同じパスワードを入力しないと、エラーになります。
- 4 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[ Continue ]が選択されている状態でを押します。( Hard Disk Unlockではこの作業はありません。)  
パスワードの設定が終了すると、「Securityメニュー画面」に戻ります。



参考

### パスワード入力時の注意

パスワード設定時の入力モードに注意してください。たとえば、Numlockモード状態でパスワードを設定し、起動時にNumlockモードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

## パスワードの変更

- 1 BIOS Setupユーティリティの「Securityメニュー画面」の「Set Password」項目で、を押します。次の画面が表示されます。

Set Password:	
Enter Current Password [	]
Enter New Password [	]
Confirm New Password [	]
- 2 「Enter Current Password」欄に今まで使っていたパスワードを入力しを押します。
- 3 「Enter New Password」欄に新しく設定したいパスワードを入力しを押します。
- 4 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順3と同じパスワードを入力し、を押します。
- 5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[ Continue ] が選択されている状態でを押します。( Hard Disk Unlockではこの作業はありません。)  
パスワードの変更が終了すると、「Securityメニュー画面」に戻ります。

## パスワードの解除

- 1 BIOS Setupユーティリティの「Security」メニューの「Set Password」項目で、を押します。次の画面が表示されます。
- 2 「Enter Current Password」欄に今まで使っていたパスワードを入力しを押します。

Set Password:	
Enter Current Password [	]
Enter New Password [	]
Confirm New Password [	]
- 3 「Enter New Password」欄に何も入力せずにを押します。
- 4 「Confirm New Password」欄に何も入力せずにを押します。
- 5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[ Continue ] が選択されている状態でを押します。( Hard Disk Unlockではこの作業はありません。)  
パスワードの解除が終了すると、「Securityメニュー画面」に戻ります。

## Powerメニュー画面

「Powerメニュー画面」は、パワーマネジメントモードに関する設定を行う場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。



制限

Windows98/Windows2000のパワーマネジメントに関する設定はWindowsの「電源管理 (Windows2000では「電源オプション」)」での設定が優先されます。WindowsNT4.0ではパワーマネジメント機能は使用できません。「PowerSavings」の設定を変更しないでください。

Power Savings	<p>パワーマネジメントモードの移行時間や移行方法などを設定します。</p> <p>Customized: パワーマネジメントモードの設定項目を個別に設定します。</p> <p>Maximum Power Savings: 消費電力を最大限に抑える値に自動的に設定します。</p> <p>Maximum Performance: システムが最速で動作する値に自動的に設定します。</p> <p>Disabled: パワーマネジメントモードを無効にします。</p>
Suspend Mode	<p>サスペンドモードのタイプを選択します。</p> <p>Save To RAM: コンピュータのRAMの状態を保ったまま、サスペンドモードに移行します。</p> <p>Save To Disk: あらかじめ確保しておいたハードディスク上のサスペンド領域にRAMの内容を保存して、サスペンドモードに移行します。</p>
Standby Timeout	<p>「Power Savings」項目の設定が[Customized]の場合に設定変更ができます。スタンバイモードに移行する時間を設定します。</p> <p>Off: スタンバイモードに移行しません。</p> <p>1/2/4/6/8/12/16Minutes: スタンバイモードに移行する時間を選択できます。</p>
Auto Suspend Timeout	<p>「Power Savings」項目の設定が[Customized]の場合に設定変更ができます。サスペンドモードに移行する時間を設定します。</p> <p>Off: サスペンドモードに移行しません。</p> <p>5/10/15/20/30/40/60 Minutes: サスペンドモードに移行する時間を選択できます。</p>
Hard Disk Timeout	<p>「Power Savings」項目の設定が[Customized]の場合に設定変更ができます。HDDモータが停止状態に移行する時間を設定します。</p> <p>Disabled: HDDモータが停止状態に移行しません。</p> <p>1/2/4/6/8/10/15 Minutes: HDDモータが停止状態に移行する時間を選択できます。</p>

Video Timeout	「Power Savings」項目の設定が[Customized]の場合に設定変更ができます。ビデオ信号が停止状態に移行する時間を設定します。 Disabled: ビデオ信号が停止状態に移行しません。 1/2/4/6/8/10/15 Minutes: ビデオ信号が停止状態に移行する時間を選択できます。
Resume on Modem Ring	内蔵モデムに着信した時にサスペンドモードからレジューム(復帰)するかを設定します。ACPIの場合は「ON」に設定しても機能しません。 On: レジュームします。 Off: レジュームしません。
Beep On Battery Low	バッテリーがローバッテリーモードになるときに、警告音を鳴らすかを設定します。 Enabled: 警告音を鳴らします。 Disabled: 警告音を鳴らしません。

## Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[ 1.... ]のドライブから順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[ 1.Removable Devices ][ 2. Hard Drive ][ 3.ATAPI CD-ROM Drive ]です。

順番を変更するには、ドライブを選択して **[ + ]** または **[ F6 ]** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **[ - ]** または **[ F5 ]** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Removable Devices	FDDから起動します。
Hard Drive	HDDから起動します。
ATAPI CD-ROM Drive	ATAPI CD-ROM ドライブから起動します。

## Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。前回保存した設定値に戻す場合は「Yes」設定変更をそのまま続けて行う場合は「No」を選択します。
Save Changes	変更した内容(設定値)をBIOS Setupユーティリティを終了させずに保存します。

## BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておく  
と便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

### Mainメニュー画面

項目	購入時の設定					変更内容				
IDE Primary Master										
Type	Auto	None	CD-ROM	User		Auto	None	CD-ROM	User	
Cylinders										
Heads										
Sectors										
Maximum Capacity										
Multi-Sector Transfers	2	4	8	16	Disabled	2	4	8	16	Disabled
LBA Mode Control	Enabled			Disabled		Enabled			Disabled	
32Bit I/O	Enabled			Disabled		Enabled			Disabled	
Transfer Mode	Fast PIO 1	Fast PIO 2	Fast PIO 3	Fast PIO 4		Fast PIO 1	Fast PIO 2	Fast PIO 3	Fast PIO 4	
	FPIO 3/DMA 1	FPIO 4/DMA 2	Standard			FPIO 3/DMA 1	FPIO 4/DMA 2	Standard		
Ultra DMA Mode	Mode0	Mode1	Mode2	Disabled		Mode0	Mode1	Mode2	Disabled	
Video Display Device	LCD		CRT	AUTO		LCD		CRT	AUTO	

## Advancedメニュー画面

Installed O/S	Win98/2000/Me			Other			Win98/2000/Me			Other															
I/O Device Configuration																									
Serial port A		Auto			User			Disabled			Auto			User			Disabled								
Base I/O address		3F8 IRQ4			3E8 IRQ4			2F8 IRQ3			2E8 IRQ3			3F8 IRQ4			3E8 IRQ4			2F8 IRQ3			2E8 IRQ3		
IR port		Auto			User			Disabled			Auto			User			Disabled								
Base I/O address		3F8 IRQ4			3E8 IRQ4			2F8 IRQ3			2E8 IRQ3			3F8 IRQ4			3E8 IRQ4			2F8 IRQ3			2E8 IRQ3		
Mode		FIR			SIR			FIR			SIR			FIR			SIR								
DMA Channel		DMA3			DMA1			DMA3			DMA1			DMA3			DMA1								
Parallel port		Auto			User			Disabled			Auto			User			Disabled								
Mode		Output only			Bi-directional			ECP			EPP			Output only			Bi-directional			ECP			EPP		
Base I/O address		378/IRQ7			278/IRQ7			378/IRQ5			278/IRQ5			378/IRQ7			278/IRQ7			378/IRQ5			278/IRQ5		
DMA Channel		DMA3			DMA1			DMA3			DMA1			DMA3			DMA1								
Large Disk Access Mode		Large			Normal			Large			Normal			Large			Normal								
TV Mode		J-NTSC			NTSC			PAL			J-NTSC			NTSC			PAL								
Internal Pointing Device		Disabled			Enabled			Disabled			Enabled			Disabled			Enabled								
Num Lock		Auto			On			Off			Auto			On			Off								
Local Bus IDE adapter		Primary			Both			Primary			Both			Primary			Both								
Anti-Virus Feature		Disabled			Enabled			Disabled			Enabled			Disabled			Enabled								
QuickBoot Mode		Disabled			Enabled			Disabled			Enabled			Disabled			Enabled								

## Powerメニュー画面

Power Savings	Customized			Maximum Power Savings			Customized			Maximum Power Savings								
	Maximum Performance			Disabled			Maximum Performance			Disabled								
Suspend Mode	Save To RAM			Save To Disk			Save To RAM			Save To Disk								
Standby Timeout	Off	1	2	4	6	8	12	16	Minutes	Off	1	2	4	6	8	12	16	Minutes
Auto Suspend Timeout	Off	5	10	15	20	30	40	60	Minutes	Off	5	10	15	20	30	40	60	Minutes
Hard Disk Timeout	Off	1	2	4	6	8	10	15	Minutes	Off	1	2	4	6	8	10	15	Minutes
Video Timeout	Disabled	1	2	4	6	8	10	15	Minutes	Disabled	1	2	4	6	8	10	15	Minutes
Resume On Modem Ring	Off			On			Off			On								
Beep On Battery Low	Enabled			Disabled			Enabled			Disabled								

## Bootメニュー画面

1		
2		
3		



# ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする  
手順について説明します。

# Windows 98を使う場合

Windows98 やユーティリティソフトのインストール方法を説明します。  
インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りませんので注意が必要です。

## インストールの準備

**再インストールが必要な場合** Windows98インストールモデルで、Windows98の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindows98が起動しなくなったとき

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したいとき

HDD領域の構成を変更したいとき。☞ p.209「HDD領域の変更」

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後にシステム構成を変更した場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

### 必要なメディア

ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

Windows98起動ディスク

FORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

Windows98 CD-ROMセットアップ起動ディスク

Windows98インストール時の起動に使用します。

Windows98 CD-ROM

Windows98が登録されているリカバリCD-ROMです。

EPSONドライバCD

デバイスドライバやユーティリティなどが登録されているCD-ROMです。

ユーティリティCD

VirusScan for Windows とAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

ネットワークドライバディスク(ネットワーク機能内蔵モデル)

ネットワークドライバが登録されているディスクです。

ユーティリティFD

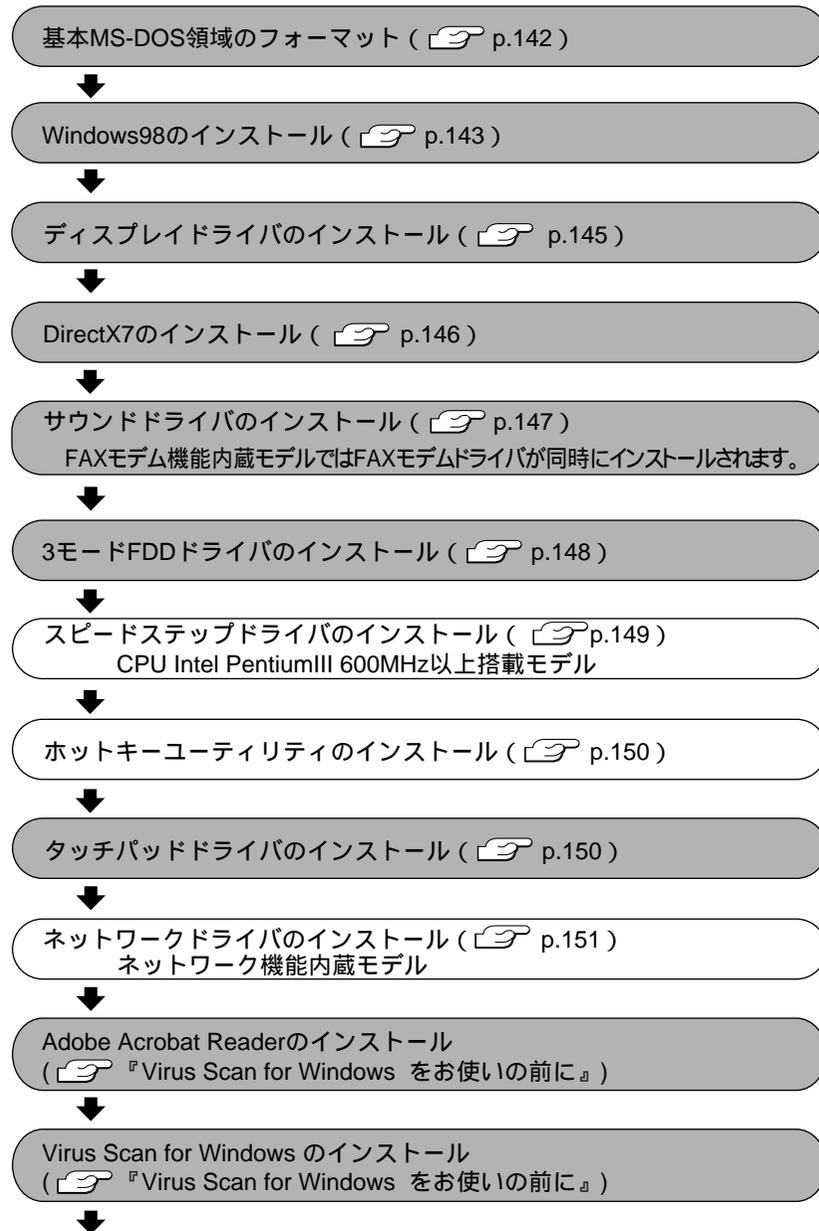
STD領域を作成するユーティリティが登録されているディスクです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

## インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。



赤外線デバイス（FIR）の設定（ p.152）



各種ドライバのインストール（ p.152）



STD領域の作成（ p.153）  
Save to Diskモードを使用する場合

## インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

- HDD領域** 購入時のHDDはFAT32ファイルシステムで領域を作成し、Windowsをフォーマットしてあります。  
Windows98のインストールは必ずFAT32ファイルシステムで行ってください。ファイルシステムを変更すると、Windows98を再インストールすることができません。
- プロダクトキー** Windows98をインストールするには、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーはコンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。
- ドライブ名** 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。  
Aドライブ:FDD  
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)  
Dドライブ:CD-ROMドライブ
- 入力文字** インストール手順でキーボードから入力する文字は、全て大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。
- CD-ROM  
セットアップ  
起動ディスク** 「Windows98 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトをはずして書き込み可能状態にしてください。  
 p.61「ライトプロテクト」

Windows 98  
CD-ROMを要求  
されたら

ドライバ類のインストール時に「Windows98 CD-ROM」が要求されることがあります。本書に何も記載がない場合は、「Windows98 CD-ROM(リカバリCD)」をセットせずに、ファイルのコピー元に「C:%WINDOWS%OPTIONS%CABS」を指定してください。

FAXモデム  
ドライバ(FAXモ  
デム機能内蔵モデル)

FAXモデムドライバはサウンドドライバをインストールすると自動的にインストールされます。FAXモデムドライバを再インストールする必要がある場合はサウンドドライバを再インストールしてください。

メーカー情報

Windows98を再インストールすると、「コントロールパネル」の「システムのプロパティ」に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。



弊社製以外のBIOSを使用すると、Windows98を再インストールすることができません。

## 基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows98をインストールする領域( MS-DOS領域 )をフォーマットします。  
Windows98は、基本MS-DOS領域をフォーマットしてからインストールすることをお薦めします。



領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。  
FORMATコマンドはWindows98起動ディスクに登録されています。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、コンピュータを起動します。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2. Start Computer Without CD-ROM Support」を選択して  を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って「Windows98起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FORMAT C: ( はスペースを意味します。)
- 6 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。  
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

## Windows 98のインストール

Windows98のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「Windows98 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、再起動またはコンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します。」と表示されたら、どれかキーを押します。  
コンピュータを購入後、「Windows98 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、「Windows98 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットしてどれかキーを押します。  
手順4の画面が表示されるまで数分かかります。
- 4 「Windowsのセットアップを開始します。フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いてください。」と表示されたら、FDを抜いてどれかキーを押します。
- 5 コンピュータが再起動し、自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。
- 6 ファイルのコピーが終了すると、再びコンピュータが再起動します。
- 7 コンピュータが再起動したら、各項目の設定をします。
  - ユーザー情報  
「名前」を必ず入力してください。
  - 使用許諾契約  
画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。
  - プロダクトキー  
『COAラベル』に記載されている「Product key」を入力します。
- 8 「ウィザードの開始」が表示されたら、[完了]をクリックします。

9

「PCカード( PCMCIA )ウィザード」が表示されます。

- ① 「いいえ」にチェックが付いている状態で、[次へ]をクリックします。
- ② 「リアルモードPCカードドライバは見つかりませんでした。...」と表示されたら、「いいえ」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
- ③ 「PCカードウィザードが完了しました。...」と表示されたら、[完了]をクリックします。

10

ハードウェアの設定が終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。

11

画面の指示に従って、「Windows98セットアップ」を行います。Windowsのセットアップが終了すると、Windowsが自動的に再起動し「Windows98へようこそ」画面が表示されます。

これでWindows98のインストールは終了です。

## ディスプレイドライバのインストール

Windows98用のディスプレイドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「画面」アイコンをダブルクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 4 [詳細] をクリックし、「アダプタ」タブの[変更] をクリックします。
- 5 「次のデバイスの更新されたドライバを検索します...」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「現在使用しているドライバより...」にチェックして、[次へ] をクリックします。
- 7 「検索場所の指定」にチェックを付けて、「D:¥VGA¥WIN98」と入力して [次へ] をクリックします。
- 8 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。S3 inc. Savage/MX w/MV」と表示されたら、[次へ] をクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 9 「ハードウェアデバイス用の更新されたドライバの...」と表示されたら、[完了] をクリックします。
- 10 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら [いいえ] をクリックします。
- 11 「モニタ」タブをクリックし、[変更] をクリックします。
- 12 次のモニタを選択して [OK] をクリックします。  
製造元: 「標準モニタの種類」  
モデル: 「ラップトップディスプレイパネル(1024 x 768)」

- 13 [閉じる]を数回クリックして、「画面のプロパティ」を閉じます。
- 14 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。...」とメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。  
Windowsが再起動するとディスプレイドライバのインストールは終了です。

## DirectX7のインストール

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥DIRECTX7¥WIN98¥DX70JPN」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Microsoft DirectX7をインストールします...」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 使用許諾約款が表示されます。内容を確認してから[はい]をクリックします。
- 6 「[OK]をクリックすると再起動します。」と表示されたら、[OK]をクリックします。Windowsが再起動するとDirectX7のインストールは終了です。

## サウンドドライバのインストール

サウンドドライバのインストールは次の手順で行います。

FAXモデム機能内蔵モデルでは、FAXモデムドライバが同時にインストールされます。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイルを指定して実行」をクリックします。
- 3 「ファイル名」に「D:¥ESSAUDIO¥WIN98¥ESSETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Welcome」画面で[Next]をクリックします。
- 5 「次のひとつを選択してください」と表示されたら「ドライバのアップグレード」にチェックをつけて[Next]をクリックします。
- 6 「Setup Complete」画面で「Yes, I want to restart...」にチェックをつけて[Finish]をクリックします。Windowsが再起動するとサウンドドライバのインストールは終了です。

## 3モードFDDドライバのインストール

Windows98用の3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します...」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「インストールするデバイスは一覧にありますか」と表示された場合は、「一覧にない」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 6 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」と表示されたら、「いいえ」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 7 「ハードウェアの種類」の表示をスクロールして「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 8 [ディスク使用]をクリックします。
- 9 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットし、「ファイルのコピー元」に「D:¥3MODE¥WIN98」と入力します。
- 10 「モデル」欄で、お使いの機種用のドライバ名をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 11 「ハードウェアのインストールを正常に続行します。」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 12 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。Windowsが再起動すると3モードFDDドライバのインストールは終了です。

## ■ スピードステップドライバのインストール

(CPU Intel Pentium III 600 MHz以上搭載モデル)

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥SPEEDSTEP¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「セットアップの完了」画面で「はい直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。  
Windowsが再起動するとインストールは終了です。

## ホットキーユーティリティのインストール

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥HOTKEY¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Welcome」画面で[Next]をクリックします。
- 5 「Choose Destination Location」画面で[Next]をクリックします。
- 6 「Select Program Folder」画面で[Next]をクリックします。
- 7 「メモ帳」画面が表示されます。画面右上の  をクリックして閉じます。
- 8 「Setup Complete」画面で[Finish]をクリックします。  
これでホットキーユーティリティのインストールは終了です。

## タッチパッドドライバのインストール

Windows 98用タッチパッドドライバのインストールは次の方法で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「ファイル名」に「D:¥TOUCHPAD¥WIN98¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 6 「ファイルコピーの開始」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「セットアップ完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」にチェックを付けて[終了]をクリックします。  
Windowsが再起動するとタッチパッドドライバのインストールは終了です。

## ■ ネットワークドライバのインストール

( ネットワーク機能内蔵モデル )

Windows98用のネットワークドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 「ネットワークドライバディスク」をFDDにセットします。
- 2 [ スタート ] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「その他のデバイス」の「PCI Ethernet Controller」をダブルクリックします。
- 5 「ドライバ」タブの[ドライバの更新]をクリックします。
- 6 「次の更新されたドライバを...」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 7 「現在使用しているドライバより...」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 8 「検索場所の指定」にチェックを付けて「A:¥WIN98」と入力して[次へ]をクリックします。
- 9 「更新されたドライバ」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
- 10 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します...」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 11 「Realtek RTL8139...を挿入してください...」と表示されたら、[OK]をクリックし、「ファイルのコピー元」に「A:¥WIN98」と入力します。
- 12 「Windows98 CD-ROM」を要求された場合は、「ファイルのコピー元」に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力して[OK]をクリックします。
- 13 「...更新されたドライバがインストールされました。」と表示されたら[完了]をクリックします。
- 14 「再起動しますか?」と表示されたら、FDを抜いて[はい]をクリックします。  
Windowsが再起動するとネットワークドライバのインストールは終了です。

## 赤外線デバイス(FIR)の設定

FIRモードで赤外線通信を行うための設定です。

- 1 「コントロールパネル」-「ネットワーク」-「ネットワークの設定」タブの「IrDA v3.0 Fast Infrared Port」をダブルクリックします。
- 2 「詳細設定」タブの「プロパティ」から「Infrared Tranceiver A」を選択し、「値」から「IBM 31T1100」を選択して[OK]をクリックします。
- 3 ネットワーク画面を閉じて、「今すぐ再起動しますか」と表示されたら[はい]をクリックします。  
Windowsが再起動するとFIRの設定は終了です。

## 各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



### インストールが必要なドライバの例

お使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

プリンタを接続する場合 : プリンタドライバなど

PCカードを使用する場合 : 使用するカードの種類によってはドライバが必要です。

## STD領域の作成

STD( Save to Disk )領域は、Save to Diskモードでサスペンドしたときに、作業中断時の状態を保存するための内蔵HDD内の領域です。STD領域が確保されていないと、Save to Diskモードでサスペンドできません。

 p.103「サスペンドモード」

本機では、STD領域を内蔵HDD内に「ファイル」として領域を確保します。ただし、このファイルは表示されません。



---

次の場合には、STD領域の作成は必要ありません。

Save to Diskモードを使用しない場合

WindowsNT4.0/Windows2000を使用する場合

---

**STD領域のサイズ** STD領域のサイズは、メインメモリの容量によって異なります。出荷時のSTD領域は、搭載しているメインメモリの容量に合わせて設定されています。メモリを増設した場合は、STD領域を1度削除し、作成し直す必要があります。

## STD領域の作成

STD領域の作成は「PHDISKユーティリティ」を使用して行います。  
「PHDISKユーティリティ」は、コンピュータに搭載されているメインメモリの容量に合わせて、自動的にSTD領域を作成します。

- 1 コンピュータをMS-DOSモードで再起動します。  
「スタート」「Windowsの終了」から「MS-DOSモードで再起動する」を選択します。
- 2 「ユーティリティFD」をFDDにセットし、MS-DOSプロンプトで次のように入力し  を押します。  
A:
- 3 MS-DOSプロンプトが「A:¥」と表示されたら、次のように入力し  を押します。  
PHDISK /CREATE /FILE ( はスペースを意味します。)
- 4 「Press any key to reset the system…」と表示されたら、FDを抜いて、何かキーを押します。  
Windowsが再起動するとSTD領域の作成は完了です。

## STD領域の削除

STD領域の削除は「PHDISKユーティリティ」を使用して行います。

- 1 コンピュータをMS-DOSモードで再起動します。  
「スタート」「Windowsの終了」から「MS-DOSモードで再起動する。」を選択します。
- 2 「ユーティリティFD」をFDDにセットし、MS-DOSプロンプトで次のように入力し  を押します。  
A:
- 3 MS-DOSプロンプトが「A:¥」と表示されたら、次のように入力し  を押します。  
PHDISK /DELETE /FILE ( はスペースを意味します。)
- 4 「Press any key to reset the system…」と表示されたら、FDを抜いて、何かキーを押します。  
Windowsが再起動するとSTD領域の削除は完了です。

# WindowsNT4.0を使う場合

WindowsNT4.0やユーティリティソフトのインストール方法について説明します。インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りませんので注意が必要です。

## インストールの準備

**再インストールが必要な場合** WindowsNT4.0インストールモデルで、WindowsNT4.0の再インストールが必要な場合は、次の場合です。

何らかの原因でWindowsNT4.0が起動しなくなったとき。

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したいとき。

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後にシステム構成を変更した場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

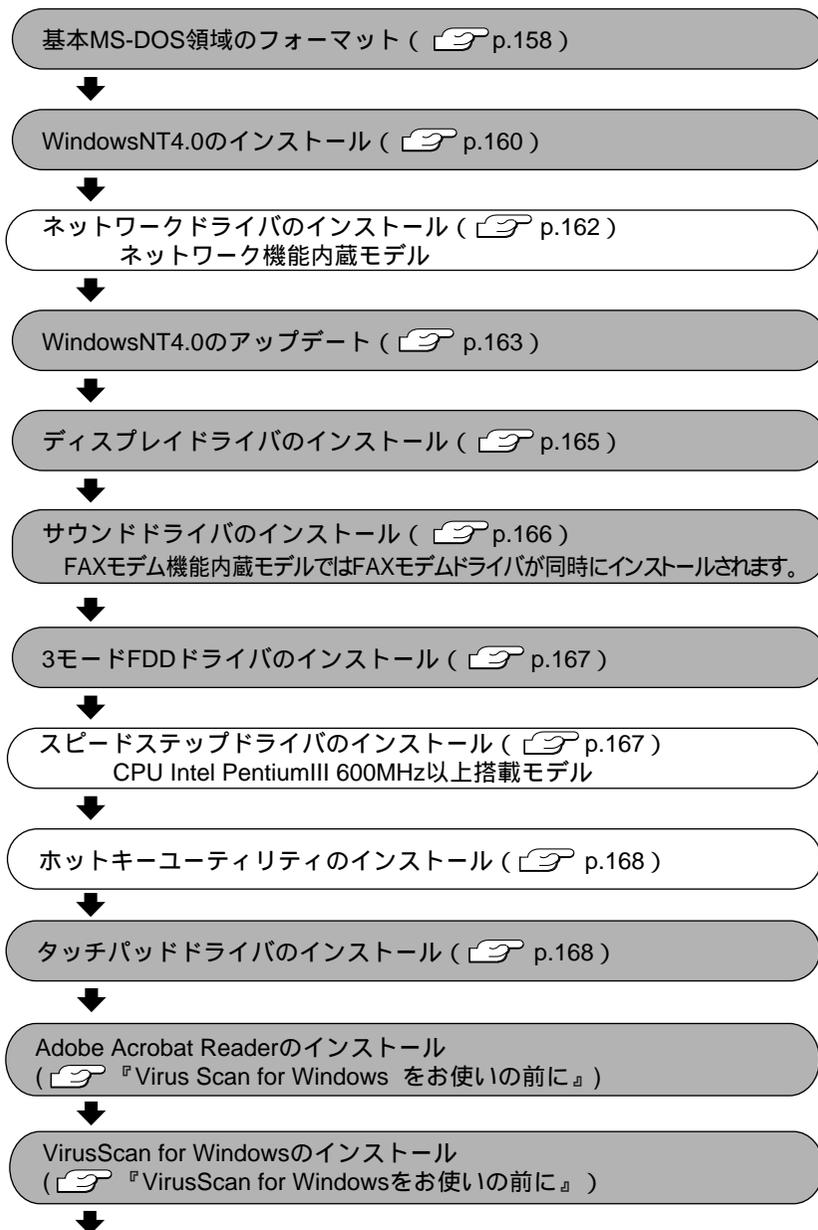
**必要なメディア** ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

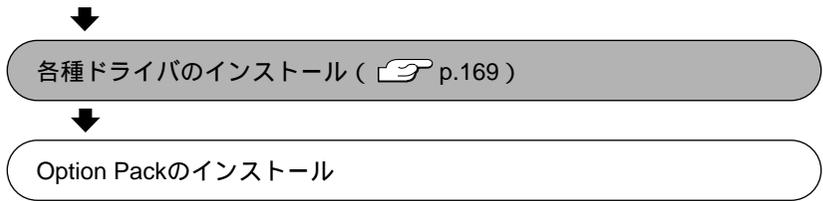
- WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク  
Windowsのインストールに使うほか、FORMATコマンドなどが登録されているディスクです。
- WindowsNT4.0 CD-ROM  
WindowsNT4.0が登録されているCD-ROMです。
- WindowsNT4.0 Service Pack6a CD-ROM  
WindowsNT4.0を最新版にアップデートするCD-ROMです。
- EPSONドライバCD  
デバイスドライバやユーティリティソフトなどが登録されているCD-ROMです。
- ネットワークドライバディスク(ネットワーク機能内蔵モデル)  
ネットワークドライバが登録されているディスクです。
- ユーティリティCD  
VirusScan for WindowsやAcrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク  
必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

## インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。





WindowsNT4.0 Option Packのインストール  
必要に応じて、「WindowsNT4.0 Option Pack」のインストールを行ってください。

## インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

### 領域のサイズ

購入時のHDDはFAT16ファイルシステムで、先頭の2GBに基本MS-DOS領域を作成してあります。Windowsはこの領域にインストールしてあります。

WindowsNT4.0のインストールは必ずFAT16ファイルシステムで行ってください。ファイルシステムを変更するとWindowsNT4.0を再インストールできません。

8GBを越える容量のHDDを装着している場合、WindowsNT4.0上ではHDDの容量が8GBと表示されます。Service Pack6aをインストールするとHDD容量を正しく表示します。

### プロダクトキー

WindowsNT4.0をインストールする際には、プロダクトIDの入力が必要です。プロダクトIDは、コンピュータ本体に添付されている『COAラベル』に記載されています。

### ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD

Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ:CD-ROMドライブ

### 入力文字

インストール手順でキーボードから入力する文字は、全て大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

CD-ROM  
セットアップ  
起動ディスク

「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトをはずして書き込み可能状態にしてください。

 p.61「ライトプロテクト」

WindowsNT4.0  
CD-ROMを要求  
されたら

ドライバ類のインストール時に「WindowsNT4.0 CD-ROM」が要求されることがあります。本機に何も記載がない場合は「WindowsNT4.0 CD-ROM(リカバリCD)」をセットせずに、「C:¥1386」を指定してください。(Cドライブに「¥1386」フォルダがある場合)

FAXモデムドライバ

FAXモデムドライバはサウンドドライバをインストールすると自動的にインストールされます。FAXモデムドライバを再インストールする必要がある場合はサウンドドライバを再インストールしてください。

FAXモデム機能なしモデルでは、サウンドドライバのインストール後にFAXモデムドライバをアンインストールする必要があります。



制限

弊社製以外のBIOSを使用すると、WindowsNT4.0を再インストールすることができません。

## 基本MS-DOS領域のフォーマット

WindowsNT4.0をインストールする領域(基本MS-DOS領域)をフォーマットします。必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindowsNT4.0をインストールしてください。



制限

領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

基本MS-DOS領域  
のフォーマット

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。FORMATコマンドは「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します...」と表示されたら、どれかキーを押します。コンピュータを購入後、「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときのみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、 +  を押します。
- 4 「バッチ処理を終了しますか ( Y / N ) ?」と表示されたら、 を押します。
- 5 コマンドプロンプト ( A : ¥ > ) が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FORMAT C: ( はスペースを意味します。)
- 6 「...フォーマットしますか ( Y / N ) ?」と表示されたら、 を押して  を押します。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。必要のない場合は、そのまま  を押します。  
コマンドプロンプト ( A : ¥ > ) に戻るとフォーマットは終了です。

## WindowsNT4.0のインストール

基本MS-DOS領域にWindowsNT4.0をインストールします。

WindowsNT4.0のインストールは次の手順で行います。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットし、コンピュータを再起動または電源を入れます。
- 2 「供給されているリカバリCD-ROMをセットして下さい。」と表示されたら、「WindowsNT4.0 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、どれかキーを押すとコピーが始まります。  
手順3の画面が表示されるまで数分かかります。
- 3 「セットアッププログラムのMS-DOS実行部は完了しました。…」と表示されたら、FDを抜いて  を押します。
- 4 コンピュータが再起動して「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 5 大容量記憶装置を追加して指定するかどうかを選択します。通常は  を押します。
- 6 「WindowsNT4.0ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを選択します。  
「同意しない」を選択するとWindowsNT4.0のインストールが中止されます。
- 7 「キーボードの種類を特定するために、以下のいずれかのキーを押してください」と表示されたら、 を押します。
- 8 コンピュータ内のハードウェアとソフトウェアの確認を行います。  
一覧の項目がすべて正しい場合は「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選び、 を押します。
- 9 「Windowsをインストールするパーティションを選択してください・・・。」と表示されます。「C:」を選択して  を押します。

- 10 ファイルシステムを選択します。「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択し  を押します。
- 11 WindowsNT4.0のインストール先を指定します。「WINNT」と表示されている状態のまま  を押します。
- 12 「セットアップはハードディスクに壊れたファイルがあるかどうか検査します。」と表示されます。  
詳細な二次検査を実行する場合は 、スキップする場合は  を押します。
- 13 「ここまでのセットアップは正常に終了しました」と表示されたら、CD-ROMを取り出して  を押し、Windowsを再起動します。
- 14 「WindowsNT Workstation セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。おもな流れは次のとおりです。
- 名前と組織名  
「名前」を必ず入力してください。
  - 登録  
『COAラベル』に記載されている「Product ID」を入力します。
  - コンピュータ名  
必ず入力してください。
  - パスワード
  - システム修復ディスク\*の作成  
「システム修復ディスク」は、使用できません。「いいえ」を選択します。  
\*現在のWindowsシステムの設定に関する情報が含まれているディスク。
  - ネットワークへの参加  
「まだネットワークに接続しない」を選択して[次へ]をクリックします。
  - 検出されたディスプレイ  
[OK]をクリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
- 15 「Windows NT 4.0 は正常にインストールされました。」と表示されたら、コンピュータを再起動します。  
これでWindowsNT4.0のインストールは終了です。

## ■ ネットワークドライバのインストール

(ネットワーク機能内蔵モデル)

WindowsNT4.0用のネットワークドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ネットワークドライバディスク」をFDDにセットします。
- 2 [ スタート ]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「WindowsNTネットワークがインストールされていません...」と表示されたら、[ はい ]をクリックします。ネットワークセットアップウィザードが起動します。
- 5 「このコンピュータをネットワークに参加させる方法を指定してください。」と表示されたら、「ネットワークに接続」にチェックマークが付いている状態で [ 次へ ] をクリックします。
- 6 [ 一覧から選択 ] をクリックして、続けて [ ディスク使用 ] をクリックします。
- 7 ファイルのコピー元に「A:¥NT40」と入力して [ OK ] をクリックします。「OEMオプションの選択」画面が表示されます。
- 8 「Realtek RTL8139 (A/B/C...)」を選択して [ OK ] をクリック、続けて [ 次へ ] をクリックします。
- 8 以降はネットワーク管理者の指示に従って操作します。  
「WindowsNTファイルをコピーする必要があります...」と表示されたら、  
「WindowsNT4.0 CD-ROM」のCD-ROMはセットせずに、「C:¥1386」を指定します。(「1386」がCドライブにある場合)
- 9 「コンピュータにネットワークがインストールされました...」と表示されたら、[ 完了 ] をクリックします。
- 10 「今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたらFDを抜き [ はい ] をクリックし、Windowsを再起動します。  
これでネットワークドライバのインストールは終了です。

## Windows NT 4.0のアップデート



ネットワークドライバをインストールする場合は必ずWindows NT 4.0のアップデートの前に行ってください。

### Service Pack 6a のインストール

Windows NT 4.0を最新版にアップデートします。

- 1 「Windows NT 4.0 Service Pack 6a CD Disc 1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 自動的に「Microsoft Windows NT 4.0 Service Pack 6-Microsoft インターネット エクスプローラ」の画面が表示されます。
- 3 画面右上の×をクリックし、「Windows NT 4.0 Service Pack 6」の画面を閉じます。
- 4 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5 「名前」に「D:¥1386¥UPDATE¥UPDATE」と入力し、[OK] をクリックします。(¥1386の「I」はアルファベット)
- 6 画面の指示に従ってセットアップを行います。  
「Windows NT Service Pack セットアップ」画面下の「後でこのService Pack をアンインストールするには・・・」には次のとおりチェックを付けます。  
Windows NT 4.0のインストール後に初めてService Pack 6aをインストールする場合:チェックを付けます。  
ドライバなどをインストール後に再度Service Pack 6aをインストールする場合:チェックを付けません。
- 7 「Windows NT 4.0 Service Pack 6のインストールが完了しました。…」と表示されたら[再起動] をクリックします。  
Windowsが起動するService Pack 6aのインストールは終了です。

Internet Explorer5.0のインストール

- 1 「WindowsNT4.0 Service Pack 6a CD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:\VALUEADD\MSIE5\I386\JA\IE5\IE5SETUP」と入力し、[OK]をクリックします。(「I」はアルファベット)
- 4 画面の指示に従ってセットアップを行います。  
「Internet Explorerとインターネットツールのセットアップへようこそ!」画面で「使用許諾契約書」の内容を確認してから「同意する」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。  
「Windows Update: Internet Explorerとインターネットツール」画面が表示されます。通常は、「標準インストール - コンポーネントの標準構成」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 5 「コンピュータの再起動」と表示されたら「完了」をクリックします。Windowsが再起動するとInternet Explorer5.0のインストールは終了です。

## ディスプレイドライバのインストール

WindowsNT4.0用のディスプレイドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「画面」アイコンをダブルクリックします。
- 4 「ディスプレイの設定」タブの[ディスプレイの種類]をクリックします。
- 5 「ディスプレイの種類」画面で[変更]をクリックします。
- 6 「ディスプレイの変更」画面で[ディスク使用]をクリックします。
- 7 「配布ファイルのコピー元」に「D:¥VGA¥NT40」と入力して[OK]をクリックします。
- 8 ディスプレイのリストから「S3 Inc. Savage /MX Display...」を選択して[OK]をクリックします。
- 9 「サードパーティドライバ」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 10 「ドライバは正常にインストールされました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
- 11 [閉じる]を数回クリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
- 12 「今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックし、Windowsを再起動します。
- 13 「無効なディスプレイ設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 14 「画面のプロパティ」で解像度と色数の設定を変更します。  
これでディスプレイドライバのインストールは終了です。

## サウンドドライバのインストール

サウンドドライバのインストールは次の手順で行います。  
FAXモデムドライバが同時にインストールされます。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイルを指定して実行」をクリックします。
- 3 「ファイル名」に「D:¥ESSAUDIO¥NT40¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Welcome」画面で[Next]をクリックします。
- 5 「Choose One Function to Process」と表示されたら「Install」にチェックをつけて[Next]をクリックします。
- 6 「Setup Complete」画面で「Yes, I want to restart...」にチェックをつけて[Finish]をクリックします。Windowsが再起動するとサウンドドライバのインストールは終了です。

FAXモデム  
ドライバの削除  
(FAXモデム  
機能なしモデル)

FAXモデム機能なしモデルでは、インストールされたFAXモデムドライバを、次の手順で削除します。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「モデム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 モデムの一覧から、「ESS ES56CVM- PI...」を選択して、[削除]をクリックします。
- 4 「システムからモデムESS ES56CV...」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 [閉じる]をクリックして、「モデムのプロパティ」を閉じます。
- 6 WindowsNT4.0 を再起動します。  
WindowsNT4.0 が再起動すると、FAX モデムドライバの削除は終了です。

## 3モード FDDドライバのインストール

WindowsNT4.0用の3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。名前に「C:¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」と入力して[OK]をクリックします。
- 2 「drivers」フォルダの中の「floppy.sys」を「floppy.org」にファイル名の変更をします。  
「floppy.sys」が表示されていない場合は「表示」メニューの「オプション」の「表示」タブをクリックして、「すべてのファイルを表示」をクリックし、表示させます。
- 3 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 4 「D:¥3MODE¥NT40」中の「floppy.sys」をHDDの「¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」にコピーします。
- 5 Windowsを再起動します。これで3モードFDDドライバが有効になります。  
3モードFDDドライバを無効にする場合は、「floppy.sys」を削除したのちに、もとのFDDドライバ「floppy.org」のファイル名を「floppy.sys」に変更してWindowsNT4.0を再起動してください。

## スピードステップドライバのインストール

(CPU Intel Pentium III 600 MHz以上搭載モデル)

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥SPEEDSTEP¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」で[はい]をクリックします。
- 6 「セットアップ完了」画面で「はい直ちにコンピュータを...」にチェックを付けて[完了]をクリックします。Windowsが再起動するとインストールは終了です。

## ホットキーユーティリティのインストール

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥HOTKEY¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Welcome」画面で[Next]をクリックします。
- 5 「Choose Destination Location」画面で[Next]をクリックします。
- 6 「Select Program Folder」画面で[Next]をクリックします。
- 7 「メモ帳」画面が表示されます。画面右上の  をクリックして閉じます。
- 8 「Setup Complete」画面で[Finish]をクリックします。  
Windowsが再起動するとホットキーユーティリティのインストールは終了です。

## タッチパッドドライバのインストール

WindowsNT4.0用のタッチパッドドライバのインストールは次の方法で行います。インストール中にシステム修復ディスクの作成を行うので新しいFD1枚が必要です。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「ファイル名」に「D:¥TOUCHPAD¥NT40¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「インストールすることができるのは...」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 6 「Synaptics Touchpadドライバをインストール...」と表示されたら、「インストールの前に緊急修復ディスクユーティリティを実行します。」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

- 7 「インストール先の選択」画面で[次へ]をクリックします。
- 8 「ファイルのコピー開始」画面で[次へ]をクリックします。
- 9 「システム修復ディスクを作成しますか?」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 10 新しいFDをFDDにセットして[OK]をクリックします。
- 11 「WindowsNT修復情報には...」と表示されたら[OK]をクリックします。
- 12 「ドライバのインストールが終わりました。」画面で「はい、直ちにコンピュータを...」にチェックを付けてFDを抜いてから[終了]をクリックします。  
Windowsが再起動するとタッチパッドドライバのインストールは終了です。

## 各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



### インストールが必要なドライバの例

お使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- プリンタを接続する場合 : プリンタドライバなど
- PCカードを使用する場合 : 使用するカードの種類によってはドライバが必要です。

Service Pack6aのインストール 新しくドライバ類をインストールしたあとには、必ず「Service Pack6a」をインストールしてください。

p.163「Service Pack6aのインストール」

# Windows 2000を使う場合

Windows2000やユーティリティソフトのインストール方法を説明します。インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りません。

## インストールの準備

再インストールが必要な場合 Windows2000の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindows2000が起動しなくなったとき。

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールしたいとき。

HDD領域の構成を変更したいとき。

 p.209「HDD領域の変更」

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後にシステム構成を変更した場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、工場出荷時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア

ソフトウェアのインストールには、次のFDとCD-ROMが必要です。

Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

Windowsのインストールに使うほか、FORMATコマンドなどが登録されているディスクです。

Windows2000 リカバリCD-ROM

Windows2000が登録されているCD-ROMです。

EPSONドライバCD

デバイスドライバや、ユーティリティなどが登録されているCD-ROMです。

ネットワークドライバディスク(ネットワーク機能内蔵モデル)

ネットワークドライバが登録されています。

ユーティリティCD

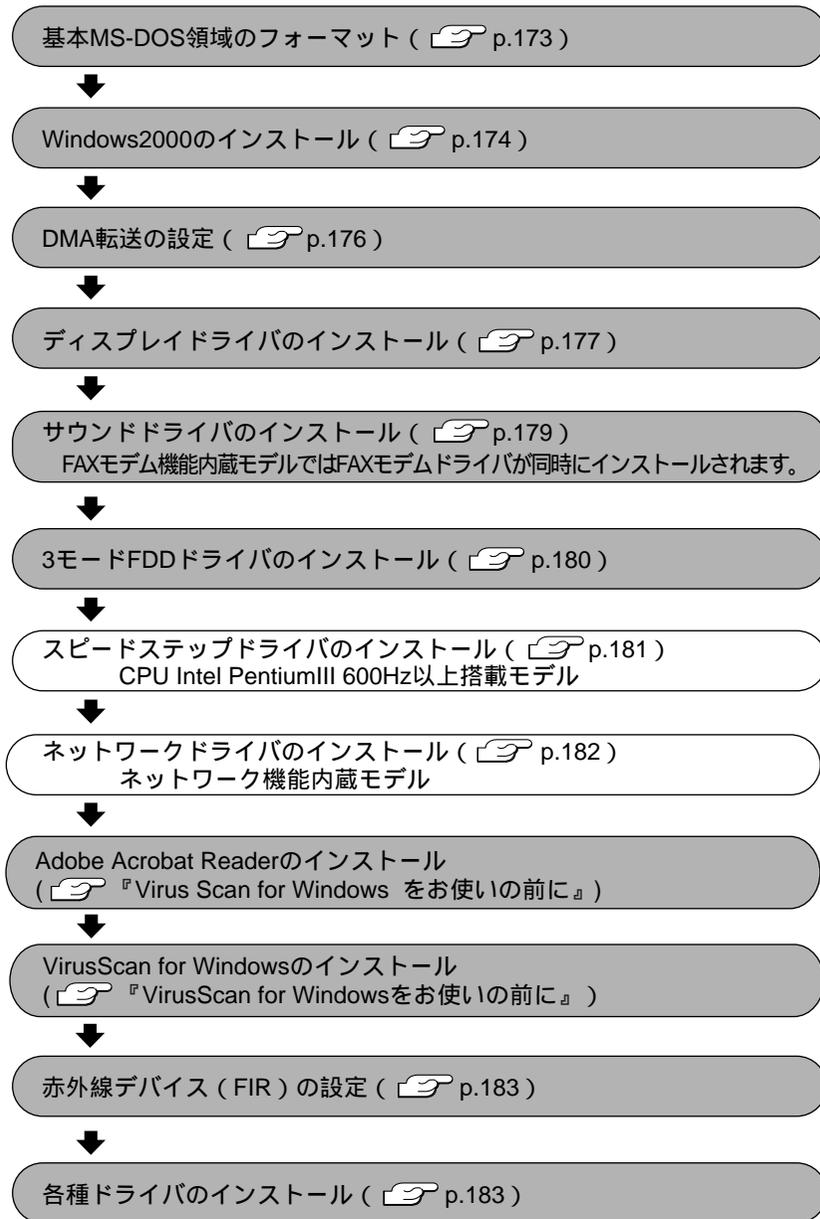
VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

## インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。



## インストール時の注意

インストールを始める前に、下記の点に注意してください。

- 購入時のHDD領域サイズ** 購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムで領域を作成し、Windowsをインストールしてあります。  
Windows2000のインストールは、必ずFAT32ファイルシステムで行ってください。ファイルシステムを変更すると、Windows2000を再インストールできません。
- プロダクトキー** Windows2000をインストールするには、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。
- ドライブ名** 本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。  
CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。  
Aドライブ:FDD  
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)  
Dドライブ:CD-ROMドライブ
- 入力文字** 本書の記載ではキーボードから入力する文字は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。
- CD-ROM セットアップ 起動ディスク** 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をはじめて使うときは、ライトプロテクトをかけた状態では使用できません。ライトプロテクトを外して書き込み可能状態にしてください。  
 p.61「ライトプロテクト」
- Windows2000 CD-ROMを要求されたら** ドライバ類のインストール時に「Windows2000 CD-ROM」を要求されることがあります。本書に何も記載がない場合は、「Windows2000リカバリCD-ROM」をセットせずに、「ファイルのコピー元」に「C:¥1386」を指定してください。
- FAXモデム ドライバ**(FAXモデム機能内蔵モデル) FAXモデムドライバはサウンドドライバをインストールすると自動的にインストールされます。FAXモデムドライバを再インストールする必要がある場合はサウンドドライバを再インストールしてください。
- メーカー情報** Windows2000を再インストールすると、「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」に表示されていたメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。



弊社製以外のBIOSを使用すると、Windows2000を再インストールすることができません。

## 基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows2000をインストールする領域( MS-DOS領域 )をフォーマットします。必ず基本MS-DOS領域をフォーマットしてからWindows2000をインストールしてください。



領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。FORMATコマンドは「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータを起動します。
- 2 「コンピュータを再起動します。どれかキーを押してください。」と表示されたら、どれかキーを押します。  
コンピュータを購入後、「WindowsリカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います...」と表示されたら、を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FORMAT C: ( はスペースを意味します。)
- 5 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。必要のない場合は、そのまま  を押します。  
コマンドプロンプト(A:¥>)に戻ると、フォーマットは終了です。

## Windows 2000のインストール

Windows2000のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「Windows2000リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットします。
- 2 コンピュータの電源を入れるか再起動します。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います...」と表示されたら、「Windows2000リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、どれかキーを押します。  
手順4の画面が表示されるまで数分かかります。
- 4 「セットアップのMS-DOS実行部は完了しました。」と表示されたら、FDを抜き  を押します。
- 5 「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 6 「Windows2000ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。  
「同意しない」を選択するとWindows2000のインストールが中止されます。
- 7 「以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。」と表示されたら、 を押します。
- 8 「...一覧からパーティションを選択してください。」と表示されます。「C:」を選択して  を押します。
- 9 「...にWindows2000をインストールします。」と表示されたら、「現在のファイルシステムをそのまま使用する」を選択し、 を押します。
- 10 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了すると、自動的にWindowsが再起動します。

- 1 1 「Windows2000セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
- 地域  
通常は「次へ」をクリックします。
- ソフトウェアの個人用設定  
ここでは「名前」を必ず入力してください。
- プロダクトキー  
『COAラベル』に記載されている「ProductKey」を入力します。
- コンピュータ名とAdministratorのパスワード  
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定  
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ネットワークの設定  
通常は「標準設定」にチェックマークを付けて「次へ」をクリックします。
- ワークグループまたはドメイン名  
管理者の指示に従って「ワークグループまたはドメイン名」を入力します。
- 1 2 「Windows2000セットアップウィザードの完了」と表示されたら、CD-ROMを取り出し「完了」をクリックすると、Windowsが再起動します。
- 1 3 「ネットワーク識別ウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 1 4 「このコンピュータのユーザー」画面で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。
- 1 5 「ネットワーク識別ウィザードの終了」と表示されたら「完了」をクリックします。これでWindows2000のインストールは終了です。

## DMA転送の設定

IDE装置の転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」-「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」の[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 5 「IDE ATA/ATAPIコントローラ」をダブルクリックします。
- 6 「プライマリIDEチャンネル」をダブルクリックします。
- 7 「詳細設定」タブをクリックします。
- 8 「デバイス0」、「デバイス1」の「転送モード」から「DMA」を選択します。  
「デバイス0 (HDD)」は自動的に「DMA」を選択しています。
- 9 [OK]をクリックします。
- 10 「今すぐコンピュータを再起動しますか?」とメッセージが表示されます。  
[はい]をクリックします。  
Windows 2000が再起動すると、DMA転送の設定は終了です。

## ディスプレイドライバのインストール

ディスプレイドライバのインストールは次の方法で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「システム」-「ハードウェア」タブをクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]をクリックします。
- 5 「その他のデバイス」の「ビデオコントローラ」をダブルクリックします。
- 6 「ドライバ」タブの[ドライバの更新]をクリックします。
- 7 「デバイスドライバのアップデートウィザード」が始まります。[次へ]をクリックします。
- 8 「デバイスに最適な...」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 9 「場所を指定」にチェックを付けて「CD-ROMドライブ」のチェックを外して[次へ]をクリックします。
- 10 製造元のファイルのコピー元に「D:¥VGA¥WIN2000」と入力して[OK]をクリックします。
- 11 「ドライバの検索」画面が表示されたら[次へ]をクリックします。
- 12 「デジタル署名が見つかりませんでした。」画面が表示されたら[はい]をクリックします。
- 13 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」で[完了]をクリックします。
- 14 「閉じる」をクリックすると「コンピュータを再起動しますか?」と表示されます。[はい]をクリックします。Windowsが再起動するとディスプレイドライバのインストールは終了です。  
続けて「ディスプレイの設定」を行います。

## ディスプレイ の設定

- 1 「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「画面のプロパティ」の「設定」タブの「詳細」をクリックします。
- 3 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックし、「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
- 4 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で「次へ」をクリックします。
- 5 「このデバイスの既知のドライバを表示して...」にチェックを付けて「次へ」をクリックします。
- 6 「このデバイスクラスの...」にチェックを付けます。
- 7 「製造元」より「標準モニタの種類」、「モデル」より「Digital Flat Panel (1024 x 768)」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 8 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックします。  
画面のプロパティを閉じると、ディスプレイの設定は終了です。

## サウンドドライバのインストール

サウンドドライバのインストールは次の手順で行います。

FAXモデム機能内蔵モデルではFAXモデムドライバが同時にインストールされます。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥ESSAUDIO¥WIN2000¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「Welcome to Allegro-1...」と表示されたら[Next]をクリックします。
- 5 「デジタル署名が見つかりません。」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 6 「Audio Driver Installed」と表示されたら[OK]をクリックします。
- 7 FAXモデム機能内蔵モデルでは、再び「デジタル署名が見つかりません。」と表示されます。[はい]をクリックします。
- 8 FAXモデム機能内蔵モデルでは「Modem Driver Installed」と表示されます。[OK]をクリックします。
- 9 「Setup Complete」と表示されたら「Yes, I want to restart...」にチェックをつけて[Finish]をクリックします。Windowsが再起動するとサウンドドライバのインストールは終了です。

## 3モードFDDドライバのインストール

3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥3MODE¥WIN2000¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 「セットアップ」画面で「3mode フロッピードライバのセットアップを開始します。よろしいですか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「セットアップ完了」画面で「今コンピュータを再起動しますか？」と表示されたら[はい]をクリックします。  
Windowsが再起動すると、3モードFDDドライバのインストールは終了です。

## ■ スピードステップドライバのインストール

(CPU Intel PentiumIII 600MHz以上搭載モデル)

スピードステップドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 「EPSONドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「D:¥SPEEDSTEP¥SETUP.EXE」と入力して[OK]をクリックします。
- 4 「ようこそ」画面で[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面で[はい]をクリックします。
- 6 「セットアップの完了」画面で「はい、直ちにコンピュータを起動します。」にチェックを付けて[完了]をクリックします。  
Windowsが再起動するとインストールは終了です。

## ネットワークドライバのインストール

(ネットワーク機能内蔵モデル)

ネットワークドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 「ネットワークドライバディスク」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックし、「ローカルエリア接続」アイコンをダブルクリックします。
- 4 [構成] をクリックします。
- 5 「ドライバ」タブをクリックして、[ドライバの更新] をクリックします。
- 6 「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が始まります。  
[次へ] をクリックします。
- 7 「このデバイスの既知のドライバを表示して...」にチェックを付けて  
[次へ] をクリックします。
- 8 [ディスク使用] をクリックします。
- 9 「ファイルのコピー元」に「A:¥WIN2000」と入力して [OK] をクリックします。
- 10 「ネットワークアダプタ:」から「Realtek RTL8139(A/B/C8130)PCI Fast Ethernet NIC」を選択して [次へ] をクリックします。
- 11 「デバイスドライバのインストールの開始」画面で [次へ] をクリックします。
- 12 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面で [完了] をクリックします。  
ネットワーク画面を閉じてFDを抜いてからWindowsを再起動します。再起動するとネットワークドライバのインストールは終了です。

## 赤外線デバイス( FIR )の設定

赤外線通信を行う場合は赤外線デバイスの設定が必要です。

 p.72「赤外線デバイスの設定」

## 各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになる仕様によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

プリンタを接続する場合：プリンタドライバなど

PCカードを使用する場合：使用するカードの種類によってはドライバが必要です。



# こんなときは

困ったときに  
警告メッセージが表示されたら

# 困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

## 起動時の不具合



電源をオフにしてからオンにする場合には、オンにするまで20秒程度の間隔を開けてください。本機には電源電圧などを管理するシステム管理機能が搭載されています。このため20秒以内に電源をオンにすると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。

### 現象

電源ランプが点灯しない。

### 確認と対処

バッテリーだけで使っている場合は、バッテリーが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。

電源コードが正しく接続されているか確認します。

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

### 現象

LCDに何も表示されない。

### 確認と対処

画面の明るさを調節してください。 $\text{Fn} + \uparrow$  /  $\text{Fn} + \downarrow$  で調節できます。

## 現象

画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

## 確認と対処

コンピュータの電源をオフにしてから20秒以内に電源をオンにすると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源をオフにして、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時に警告メッセージが表示される場合には、起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。

 p.203「警告メッセージが表示されたら」

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期設定値に戻してください。

 p.123「設定値をもとに戻すには」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## 現象

次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

## 確認と対処

BIOS Setupユーティリティでパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

 p.128「Securityメニュー画面」

パスワードを正しく入力しているか確認します。の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

 p.52「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

## 現象

次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

Operating System not found

## 確認と対処

システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.194「HDDの不具合」

## バッテリーパック使用時の不具合

**現象** 充電されない

**確認と対処**

バッテリーパックが正しく装着されているか確認します。

充電時にバッテリー充電LEDが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。他の電気製品を電源コンセントに接続してみます。

電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

バッテリー残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してみます。

 p.44「バッテリー残量が正しく表示されないときは」

**現象**

すぐにバッテリーが終わってしまう。バッテリーでの使用時間が短い。

**確認と対処**

バッテリー残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してみます。

 p.44「バッテリー残量が正しく表示されないときは」

バッテリーが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

## キーボードの不具合

**現象** どのキーを押しても応答がない。

**確認と対処** アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には **Ctrl**+**Alt**+**Delete** でリセットしてください。OSによってはメッセージを表示する場合がありますので指示に従ってください。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを切り、再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.35「リセット」

**現象** キートップにある文字や記号が入力できない。

**確認と対処** 日本語キーボードドライバの特性によりキートップに刻印されている一部の文字は入力できません。

 p.54「記号の入力」

OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」-「システム」アイコン(WindowsNT4.0/Windows2000は、「キーボード」アイコン)をダブルクリックして確認します。

Windows98 : 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)

WindowsNT4.0 : PC/AT106日本語(A01)キーボード

Windows2000 : 101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

## タッチパッドの不具合

**現象** ポインタの動きが悪い。

**確認と対処** 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。  
LCDパネルを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。  
いったん電源を切って入れ直してください。  
タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。  
 p.50「タッチパッドドライバ&ユーティリティを使う」

## LCDの不具合

**現象** LCD画面が真っ暗で何も表示されない。

**確認と対処** バックライトが消灯していないか確認します。 +  を押してみてください。  
表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない可能性があります。  
 +  を押して、表示装置の設定を変更してみてください。  
 p.77「表示の切り替え」  
コンピュータの電源をオフにしてから20秒以内に電源をオンにすると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源をオフにして、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。  
起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ピーブ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象** 画面がちらつく。

**確認と対処** LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

**現象**                   しばらく放置しておく则表示が消えてしまう。

**確認と対処**           パワーマネジメントモードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してみてください。  
 p.103「省電力機能を使う」

**現象**                   画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

**確認と対処**           使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows98の場合はSafeモードで、Windows NT4.0/Windows2000の場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Safe modeでの  
起動（Windows  
98の場合）           Windows98をSafe modeで起動する方法は、次のとおりです。Safe modeは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

- 1   コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2   電源を入れた直後に、**Ctrl**を押したまま、しばらく待ちます。
- 3   「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**←**を押します。
- 4   画面の指示にしたがって、操作します。

VGAモードでの  
起動（Windows  
NT4.0の場合）       Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1   コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2   「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT・・・[VGA mode]」を選択します。

VGAモードでの  
起動（Windows  
2000の場合）

Windows2000をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置後、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。  
「Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください」
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「VGAモードを有効にする」を選択し、**←** を押します。

## FDDの不具合

### 現象

FDに正常にアクセスできない。

### 確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥  
デバイスの準備ができていません。  
[OK]

A:¥にアクセスできません。  
デバイスの準備ができていません。  
[再試行]      [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。  
今すぐフォーマットしますか？  
[はい]      [いいえ]

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、最初のFDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期設定値となっているか確認してください。起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

**現象** FDに書き込みできない。

**確認と対処** ライトプロテクトされていないか確認します。  
(☞ p.61「ライトプロテクト」)

**現象** 1.25MBフォーマットのFDが使用できない。

**確認と対処** 1.25MBフォーマットのFDを使用する場合には3モードFDDドライバをインストールする必要があります。  
(☞ p.61「1.25MBのFDを使用する」)

**現象** FDDから異常な音がする。

**確認と対処** 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

## HDDの不具合

**現象** それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

**確認と対処** HDDに問題が発生している可能性があります。BIOS Setupユーティリティを実行してHDDの設定を確認してください。  
(☞ p.125「Mainメニュー画面」)

**現象** 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

**確認と対処** ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。  
上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

## CD-ROMドライブの不具合

### 現象

セットしたCDにアクセスできない。

### 確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

コンピュータに添付されていたCD-ROM(「EPSONドライバCD」など)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとCD-R/CD-RWメディアとの相性によりアクセスできない可能性があります。

### 現象

セットしたCDが読み込めない。

### 確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレイヤー」が標準で添付されています。

### 現象

音楽用CDの音が聞こえない。

### 確認と対処

スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してください。

## アプリケーションソフトの不具合

**現象** アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

**確認と対処** 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

**現象** アプリケーションソフトが起動しない。

**確認と対処** アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

## メモリの不具合

**現象**                   メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

**確認と対処**           メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## PCカードの不具合

**現象**                   PCカードを装着しても、使用できない。

**確認と対処**           PCカードが対応する、PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

外部装置を追加するためにPCカードを装着した場合、外部装置とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

## 省電力機能に関する不具合

**現象** 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

**確認と対処** 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

バッテリー残量が少なくなり、ローバッテリーサスペンドモードに入った場合は、ACアダプタを接続してからレジュームします。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前のデータはすべて消失します。

サスペンド中にPCカードを抜き差しすると、正しくレジュームできません。**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、本機を再起動してください。ただし、サスペンド時のデータは、すべて消失します。

## プリンタの不具合

**現象** 印刷できない。

**確認と対処** プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

## スピーカの不具合

**現象** システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

**確認と対処** スピーカの音声出力音量が小さくなっている可能性があります。ボリューム調節ダイヤルで音量を調節してください。

スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

## FAXモデムの不具合 (FAXモデム機能内蔵モデル)

**現象** 「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

**確認と対処** Windows98/Windows2000では、モデムのプロパティで「詳細情報」または「モデムの照会」を実行してみてください。モデムに問題がある場合はエラーメッセージが表示されます。

・ Windows98の場合

「モデム」[検出結果]-タブでモデム( COM3 )を選択して、[詳細情報]をクリックします。

・ Windows2000の場合

「電話とモデムのオプション」 「モデム」タブ-[プロパティ] 「診断」タブの [モデムの照会]をクリックします。

**現象** インターネットへ接続できない

**確認と対処** モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

「ダイヤルアップネットワーク」 「ダイヤルのプロパティ」で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

「モデムのプロパティ」で「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外してみます。これで接続できることがあります。

- ・ Windows98/WindowsNT4.0の場合  
「コントロールパネル」→「モデム」→「プロパティ」→「接続」タブの「接続オプション」で、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外します。
- ・ Windows2000の場合  
「コントロールパネル」→「電話とモデムのオプション」→「モデム」タブ→「プロパティ」→「ダイヤルの管理」で、「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

- ・ 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
- ・ 大文字と小文字をきちんと区別しているか。
- ・ 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
- ・ ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
- ・ パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

- ・ Windows98の場合
  - ① 「ダイヤルアップネットワーク」→「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
  - ② 「サーバーの種類」タブ→「TCP/IP設定」をクリックしてネームサーバーアドレスを確認します。
- ・ WindowsNT4.0の場合
  - ① 「ダイヤルアップネットワーク」→「その他」を右クリックして、「モデムのプロパティの編集」を選択します。
  - ② 「サーバー」タブ→「TCP/IP」でネームサーバーアドレスを確認します。
- ・ Windows2000の場合
  - ① 「ネットワークとダイヤルアップ」→「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
  - ② 「ネットワーク」タブ→「インターネットプロトコル」→「プロパティ」でDNSサーバーのアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは接続できる場合もあります。

次の理由で、接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバが停止している。

**現象**

V.90通信方式で通信できない。

**確認と対処**

回線状況によって、V.90通信方式で接続できない場合があります。V.90通信方式のほかにはx2方式がありますが、x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合のみ、V.90通信方式で接続することができます。

PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

**現象**

V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

**確認と対処**

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げている場合があります。

**現象**

V.90、V.34通信方式対応モデムと接続しているのに、遅い通信速度で接続してしまう。

**確認と対処**

V.90、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げている場合があります。

## そのほかの不具合

**現象** BIOS Setupユーティリティの情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

**確認と対処** 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

# 警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内部の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setupユーティリティを起動して値を再設定してください。
Diskette drive A error	FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。HDDが正しく装着されているかを確認し、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Keyboard controller Failed	キーボードコントローラにエラーが発生しました。外付けキーボードが正しく接続されているか確認し、電源を入れ直します。外付けキーボードを取り外しても問題が解決しない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したフロッピーディスクがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setupユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。



# 付 録

お手入れ方法、HDD領域の変更方法  
および仕様などについて説明して  
います。

# お手入れ

## 本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCDパネルの  
お手入れ

LCDパネルは乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

# リチウム電池の交換

BIOS セットアップユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

販売店、サービスセンターまたは修理センターへご連絡ください。

# ATコマンドの使用

## (FAXモデム機能搭載モデル)

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は添付の「EPSONドライバCD」の「MODEM」フォルダに登録されています。(英文)

ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

Windows98/WindowsNT4.0の場合

「モデム」[「プロパティ」]「接続」タブの「追加設定」

Windows2000の場合

「電話とモデムのオプション」[「モデム」]タブ[「プロパティ」]「詳細」タブの「追加設定」

現象	ATコマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=11」(V.34)、 「AT+MS=17」(V.90) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。

# HDD領域の変更

## MS-DOS領域の種類

MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合には必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は、必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。(WindowsNT4.0の場合、Cドライブの最大サイズは、2GBです。)これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして分けられ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

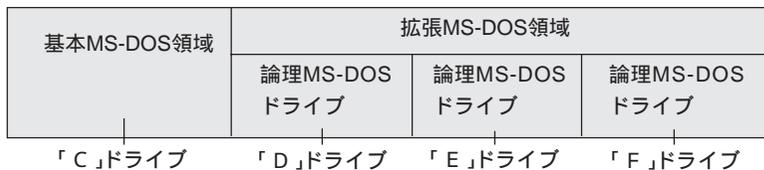
基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



## HDD領域の変更

HDD領域の変更は、次のような場合に行います。通常は、HDD領域の変更を行う必要はありません。HDD領域の変更が必要なのは、次のような場合です。

MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいとき。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を確保しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除したりフォーマットする前に、必ずプロダクトキー(プロダクトID)を確認してください。Windowsをインストールする際には、プロダクトキー(プロダクトID)の入力が必要です。プロダクトキー(プロダクトID)は、『COAラベル』に記載されています。

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

### MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

### MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

### MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

### FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは、次のディスクに登録されています。

Windows98 : Windows98起動ディスク

 p.22「Windows98起動ディスクの作成」

WindowsNT4.0 : WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク

Windows2000 : Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

## 大容量ディスク サポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。

大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32ファイルシステムでは、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。

本機の工場出荷時のHDDは、次のファイルシステムを使用してWindowsがインストールされています。ファイルシステムを変更すると、Windowsを再インストールすることができません。

Windows98 : FAT32ファイルシステム

WindowsNT4.0 : FAT16ファイルシステム

Windows2000 : FAT32ファイルシステム

## 既存領域の削除

### 起動方法

(Windows98の  
場合)

次の方法でWindows98を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「Windows98起動ディスク1」をFDDにセットして、Windowsを起動します。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2. Start Computer Without CD-ROM Support」を選択して  を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージに従って、「Windows98 起動ディスク2」に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、「Windows98起動ディスク1」に入れかえます。

起動方法  
(WindowsNT4.0  
の場合)

次の方法でWindowsNT4.0を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。  
「WindowsNT4.0 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「供給されているリカバリCD-ROMをドライブにセットして下さい。」と表示されたら、 + を押します。
- 4 「バッチ処理を終了しますが( Y/N )?」と表示されたら、を押します。
- 5 コマンドプロンプト( A:¥ )が表示されます。

起動方法  
(Windows2000  
の場合)

次の方法でWindows2000を起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータの電源を入れます。
- 2 「コンピュータを再起動します」と表示されたら、どれかキーを押します。  
「Windows2000 リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。...」と表示されたら、を押します。
- 4 コマンドプロンプト( A:¥ )が表示されます。

## 既存領域の 削除

- 1 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。 または  を押して  を押します。  
通常は、「Y」を選択します。ただし、WindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。 を押してから  を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。  
基本MS-DOS領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除することができます。  
ここでは基本MS-DOS領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)  
 を押してから  を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して  を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力し、 を押します。  
画面上部に表示されている領域の情報から「ボリュームラベル」を確認してください。「ボリュームラベル」が空白の場合は何も入力せずに  を押します。
- 7 確認メッセージが表示されたら、 を押して  を押します。  
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8  を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。  
領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成(p. 214)手順4に移ります。

- 9 FDISKを終了する場合は、 を押します。
- 10 ディスクをセットしたまま、 +  +  を押して、Windowsを再起動させます。  
これでMS-DOS領域の削除は終了です。

## MS-DOS領域の作成

### 基本MS-DOS 領域の作成

- 1 「Windows98起動ディスク」または「Windows CD-ROMセットアップ起動ディスク」を使ってWindowsを起動します。  
 p.211/212「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。  
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。  
 または  を押して  を押します。  
通常は、「Y」を選択します。ただしWindowsNT4.0をインストールする領域を作成する場合は、「N」を選択します。
- 4 処理メニューから「1. MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから  を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。  
最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は、2GBです。
- 7  を入力した場合と  を入力した場合で次のように作業が異なります。

**Y** を入力して **↵** を押した場合

基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、Windowsを再起動します。

大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。[p.217「MS-DOS領域フォーマット」

大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

**N** を入力して **↵** を押した場合

**N** を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。

8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。**Esc** を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。

9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。**2** を押してから **↵** を押します。

10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。**1** を押してから **↵** を押します。

11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。**Esc** を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。



拡張MS-DOS領域と  
論理MS-DOS  
ドライブの作成

- 1 2 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 3 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 1 4 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押してください。
- 1 5 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 1 6 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 1 7 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。
- 1 8 ディスクをセットしたまま  +  +  を押して、Windowsを再起動させます。これでMS-DOS領域の作成は終了です。

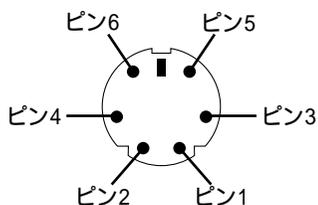
## MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

- 1 「Windows98起動ディスク」または、「Windows CD-ROMセットアップ起動ディスク」を使ってWindowsを起動します。  
 p.211/212「起動方法」
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。(Cドライブをフォーマットする場合)  
FORMAT C: ( はスペースを意味します。)
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、  
 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。  
必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

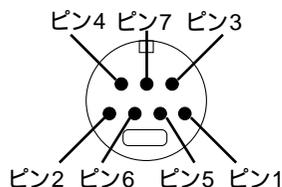
# コネクタ仕様

キーボード・マウスコネクタ



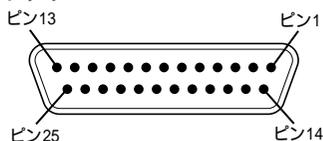
ピン番号	信号	意味
1	DATA	データ信号
2	Reserved	システム予約
3	GND	接地
4	+5V	電源
5	CLK	クロック
6	Reserved	システム予約

ビデオ出力コネクタ



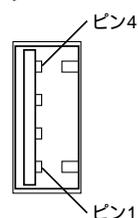
ピン番号	信号	意味
1	Ground	接地
2	Ground	接地
3	TV analog Luminance	輝度信号
4	TV analog Chromance	色信号
5	TV analog Composite	コンポジット出力
6	TV analog Composite	コンポジット出力
7	No Connection	未接続

パラレルコネクタ

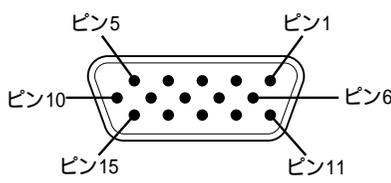


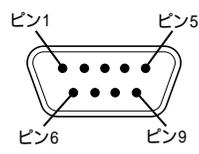
ピン番号	信号	意味
1	STROBE	D0 ~ D7有効信号
2	D0	Data Bit0( 印字データ )
3	D1	Data Bit1
4	D2	Data Bit2
5	D3	Data Bit3
6	D4	Data Bit4
7	D5	Data Bit5
8	D6	Data Bit6
9	D7	Data Bit7
10	ACK	データ受信
11	BUSY	データ受信不可
12	PE	用紙切れ
13	SLCT	プリンタセレクト
14	AUTFD	オートフィードモード
15	ERROR	エラー
16	INIT	初期化
17	SLCTIN(DIR)	プリンタセレクトイン(データ方向)
18 ~ 25	GND	接地

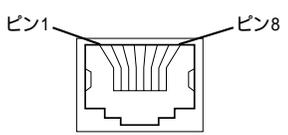
USBコネクタ



ピン番号	信号	意味
1	VCC	電源
2	- Data	信号
3	+ Data	信号
4	Ground	グラウンド

VGAコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	Red Video	赤映像信号
		2	Green Video	緑映像信号
		3	Blue Video	青映像信号
		4	NC	未使用
		5	GND	接地
		6	Red GND	接地 (赤)
		7	Green GND	接地 (緑)
		8	Blue GND	接地 (青)
		9	NC	未使用
		10	GND	接地
		11	NC	未使用
		12	DDCSTD	DDCデータ
		13	HSYNC	水平同期信号
		14	VSynch	垂直同期信号
		15	DDCSLK	DDCクロック

シリアルコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	DCD	キャリア検出
		2	RXD	受信データ
		3	TXD	送信データ
		4	DTR	データ端末レディ
		5	GND	各信号線の接地
		6	DSR	データセットレディ
		7	RTS	送信要求
		8	CTS	送信可
		9	RI	被呼表示

モデム・LANコンボジャック (FAXモデム/ネットワーク機能内蔵モデル)		ピン番号	信号	意味
		1	TD+	送信データ (LAN)
		2	TD -	送信データ (LAN)
		3	RD+	送信データ (LAN)
		4	Ring	アナログオーディオ信号(モデム)
		5	Tip	アナログオーディオ信号(モデム)
		6	RD -	送信データ (LAN)
		7	NC	未接続
		8	NC	未接続

# 機能仕様一覧

## 機能仕様一覧

CPU	キャッシュメモリ	Mobile Pentium IIIプロセッサ 32KB内蔵(命令16KB+データ16KB)	Mobile Intel Celeronプロセッサ 32KB内蔵(命令16KB+データ16KB)
	セカンドキャッシュ	256KB	128KB
メモリ	ROM	BIOSその他(256KB FLASH ROM使用)	
	メインメモリ	64MB(100MHz、SDRAM)標準搭載 最大320MBまで増設可能(SODIMMソケット×1)	
ビデオ	コントローラ	S3 Savage/MX(S3社製)	
	バス	AGPバス	
	ビデオメモリ	8MB	
画面表示	液晶タイプ	14.1 TFT XGAカラー液晶 1024×768ドット、True Color(32ビット)*	
	外部ディスプレイ接続	1280×1024ドット、True Color(32ビット)	
サウンド	コントローラ	Sound Blaster互換	
	バス	PCIバス	
キーボード	OADG準拠89キー(Windowsキー、アプリケーションキー付き)		
ポインティングデバイス	タッチパッド		
記憶装置	FDD	3.5型FDD1基内蔵	
	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵	
	CD-ROMドライブ	24倍速CD-ROMドライブ1基内蔵	
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB D-SUB 15ピン)	
	キーボード/マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンドインタフェース	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	IrDA	IrDA1.1準拠 FIR(4Mbps)、SIR(115.2Kbps)	
	USB	2	
	ビデオ出力	1(S端子)	
モデム・LANインタフェース	FAXモデム*(RJ-11、V.90対応) FAXモデム機能内蔵モデル)		
	ネットワーク(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動確認) ネットワーク機能内蔵モデル)		
PCカードスロット	2スロット内蔵 TypeII ×2または TypeIII ×1 (PC Card Standard準拠CardBus対応、下スロットはZVポート対応)		
カレンダー時計	内蔵(内蔵電池によりバックアップ)		
電源	ACアダプタ	入力AC100V±10V、50/60Hz、出力19V、2.64A 重量240g	
	バッテリーパック	容量 3300mAh Li-Ion 14.8V 動作時間 約2.5時間	
温湿度条件	温度:10~35 湿度:20~80%(ただし、結露しないこと)		
外形寸法	本体:約310(幅)×250(奥行)×30(高さ)mm(突起部除く)		
重量	本体:約3.0Kg(バッテリー装着時)		
消費電力	待機時消費電力 20W(最大50W)		

\* グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現しています。

\*\* 認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。

# 用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

## ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

## AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

## BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

**使用例** BIOSの設定を行ってください。  
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

**類義語** CMOS RAM

## BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

## CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

## DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

**使用例** DMA転送により高速なデータの出入力が可能です。

## DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

**使用例** サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

## DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

## FAT16

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報( File Allocation Table )を16ビットに拡張したファイルシステム。FAT16ファイルシステムでは、基本MS-DOS領域の最大サイズは、2GBで、その容量を超えるHDDに対しては、複数のドライブの作成が必要です。

## FAT32

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報( File Allocation Table )を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます( FAT16では2GBまで )。

## I/Oポート( Input/Outputポート )

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

## IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法( インタフェース )を定めた規格の一種です。

**使用例** IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

## IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

## IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

**使用例** サウンドカードではIRQ7を使用します。

## MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

## OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

## PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されません。

## RAM( Random Access Memory )

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

### ROM( Read Only Memory )

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

### RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことで、外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

### SCSI

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺装置間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

**使用例** SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

### SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

### SO DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

### USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格。キーボードやマウス、プリンターなど、USB対応品が増えています。

### VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

### アップロード

手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

### アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

**使用例** HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きします。

### アクセスランプ

HDDやFDにアクセスしていることを示すランプのことです。

**使用例** HDDアクセスランプ

### アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

**使用例** メモリアドレス、I/Oポートアドレス

### アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

### インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

**使用例** サウンドドライバをインストールします。

### インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

**使用例** IDEインタフェース、インタフェースネクタ、インタフェースケーブル

### オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

### オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

### 解像度

画面表示の細かさのことです。

**使用例** 1024×768ドットの解像度で表示します。

### 外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

**類義語** キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

### 拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、ISAバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードがあります。

### カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

**使用例** マウスカーソル

### 起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

**類義語** 立ち上げる。

### キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

**使用例** メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

## コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

**使用例** 次のコマンドを入力してください。

## サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

## システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

**使用例** システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

## ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのこと。ジャンプスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

## ディスプレイ

表示装置のことです。

**類義語** CRTディスプレイ、モニタ

## ダイヤルアップ接続

FAXモデムで、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。おもには、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

## ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

## ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

**使用例** 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

## 内部キャッシュ

CPU内部のキャッシュのことです。

## バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

**使用例** PCIバス、AGPバス

## パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

**使用例** パラメータを設定します。

## ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

## ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいので熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

## ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

**使用例** ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

## 物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

## ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

## プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されません。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

完全なプラグアンドプレイを実現するためには拡張カードや周辺装置、BIOSやOSなど、それぞれでサポートする必要があります。PCIバス用拡張カードではプラグアンドプレイに対応していますが、古いISAバス用拡張カードは対応していないものがあります。

## プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

**類義語** ソフトウェア、アプリケーションソフト

## プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

## ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

### メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

### メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

**使用例** メインメモリは64MBです。

### メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

### メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

### モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

### リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。

**類義語** システム資源

### 論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

# 索引

## 英数字

1.25MBフォーマットFD .....	61
2HD(FDD) .....	58
2DD(FDD) .....	58
3モードFDD .....	61
3モードFDDドライバのインストール	
Windows98インストールモデル .....	148
WindowsNT4.0インストールモデル .....	167
Windows2000インストールモデル .....	180
3.5型フロッピーディスクドライブ .....	6
<b>A</b>	
ACアダプタコネクタ .....	8
ACアダプタの接続 .....	12
ACアダプタの使用 .....	38
Adobe Acrobat Reader .....	5
ATコマンド .....	208
<b>B</b>	
BIOSセットアップユーティリティ .....	120
設定項目 .....	125
パスワードの設定 .....	128
<b>C</b>	
CapsLock .....	53
CardBus .....	67
CD-ROM .....	64
CD-ROMイジェクトホール .....	6
CD-ROMイジェクトボタン .....	6
CD-ROMドライブ .....	64
~の不具合 .....	195
~アクセスランプ .....	6
COAラベル .....	14
CRTディスプレイ .....	76

<b>D</b>	
DC-IN .....	8
DIMM (メモリ) .....	113
DirectX7のインストール .....	146
DMA転送の設定 .....	176
<b>F</b>	
FAT16 .....	211
FAT32 .....	211
FAXモデム .....	87
~ドライバのインストール	
Windows98インストールモデル .....	147
WindowsNT4.0インストールモデル .....	166
Windows2000インストールモデル .....	179
~の不具合 .....	199
インターネットに接続する .....	89
FD (フロッピーディスク) .....	58
FDD (フロッピーディスクドライブ) .....	58
~の不具合 .....	193
FDDアクセスランプ .....	6
FDDイジェクトボタン .....	6
FDISKコマンド .....	210
FIR .....	71
Fnキー .....	53
FORMATコマンド .....	210
<b>H</b>	
HDD (ハードディスクドライブ) .....	62
~領域の変更 .....	209
~の不具合 .....	194
HDDアクセスランプ .....	7
<b>I</b>	
ISDN .....	90
Internet Explorer .....	99
IrDA .....	71

## L

LAN .....	109
LCD画面 .....	75
~のお手入れ .....	206
LCDユニット .....	75
LCDの不具合 .....	191

## M

MS-DOS領域 .....	209
MS-DOS領域のフォーマット .....	217
MS-IME .....	54

## N

NumLock .....	53
---------------	----

## O

Outlook Express .....	99
-----------------------	----

## P

Passwordの設定 .....	128
PBX .....	87
PCカード .....	67
~の不具合 .....	197
PCカードスロット .....	67
PCカードイジェクトボタン .....	8
PHDISK .....	154

## S

Safeモード .....	80
ServicePack6aのインストール .....	163
SIR .....	71
SODIMM(メモリ) .....	113
~の不具合 .....	197
STD領域 .....	104
~の作成 .....	153
S端子 .....	79

## T

TVOUT .....	79
-------------	----

## U

URL .....	100
USBコネクタ .....	9,110

## V

VGAコネクタ .....	9
VGAモード .....	80
Virus Scan for Windows .....	110

## W

Windows98	
~のセットアップ .....	19
~起動ディスクの作成 .....	22
~のインストール .....	138

WindowsNT4.0	
~のアップデート .....	163
~のセットアップ .....	23
~のインストール .....	156
~ Service Pack6aのインストール .....	163
~ Internet Explorer5.0のインストール .....	164
~ OptionPackのインストール .....	157

Windows2000	
~のセットアップ .....	27
~のインストール .....	170

Windowsキー .....	55
-----------------	----

## X

XGA .....	75
-----------	----

## 50音順

### あ

アイコン .....	(11)
アウトLOOKエクスプレス .....	99
アクセスLED .....	6

### い

インストール	
Windows98のインストール .....	138
WindowsNT4.0のインストール .....	156
Windows2000のインストール .....	170
インターネットに接続 .....	89
インターネットエクスプローラ .....	99

### う

ウィルス .....	110
------------	-----

### え

液晶ディスプレイ .....	75
----------------	----

### お

オーディオ機器の接続 .....	86
お手入れ .....	206

### か

解像度の変更 .....	80
拡張MS-DOS領域 .....	209
仮想スクリーン .....	84

### き

キーボード .....	52
~の接続 .....	55
~の不具合 .....	190
キーロック表示ランプ .....	7
起動時の不具合 .....	186
起動方法 .....	211

基本MS-DOS領域のフォーマット .....	217
機能キー .....	52
機能仕様一覧 .....	220
休止状態 .....	104
強制取り出し(CD-ROM) .....	66

### く

クリック .....	49
------------	----

### け

警告メッセージ .....	203
ケンジントロック .....	8

### こ

コネクタ仕様 .....	218
コンピュータウィルス .....	110

### さ

再インストール	
Windows98のインストール .....	138
WindowsNT4.0のインストール .....	155
Windows2000のインストール .....	170
サウンド機能 .....	85
サウンドドライバのインストール	
Windows98インストールモデル .....	147
WindowsNT4.0インストールモデル .....	166
Windows2000インストールモデル .....	179
サスペンドモード .....	103
サスペンド・レジューム機能 .....	107

### し

システムスタンバイ .....	106
システムの拡張 .....	112
シリアルコネクタ .....	9,109
仕様 .....	220
省電力機能 .....	103

~に関する不具合 .....	198	つ	通信モード .....	71
<b>す</b>		<b>て</b>	ディスプレイ .....	75
数値キー .....	53	~ドライバのインストール	Windows98インストールモデル .....	145
スクロール .....	50	WindowsNT4.0インストールモデル .....	WindowsNT4.0インストールモデル .....	165
スタンバイ .....	103	Windows2000インストールモデル .....	Windows2000インストールモデル .....	177
ステレオスピーカ .....	6	~の接続 (CRT) .....	~の接続 (CRT) .....	76
_の不具合 .....	199	~の不具合(LCD) .....	~の不具合(LCD) .....	191
スピードステップ機能 .....	38	デスクトップ .....	デスクトップ .....	(11)
スピードステップドライバのインストール		デュアルディスプレイモード .....	デュアルディスプレイモード .....	78
Windows98インストールモデル .....	149	テレビへの接続 .....	テレビへの接続 .....	79
WindowsNT4.0インストールモデル .....	167	電源スイッチ .....	電源スイッチ .....	7
Windows2000インストールモデル .....	180	電源の入れ方 .....	電源の入れ方 .....	16
<b>せ</b>		電源の切り方 .....	電源の切り方 .....	33
赤外線通信 .....	71	電源LED .....	電源LED .....	7
赤外線通信ポート .....	8	添付ソフトウェア .....	添付ソフトウェア .....	4
セットアップ		電話回線への接続 .....	電話回線への接続 .....	12
Windows98インストールモデル .....	19	<b>と</b>		
WindowsNT4.0インストールモデル .....	23	ドラッグアンドドロップ .....	ドラッグアンドドロップ .....	49
Windows2000インストールモデル .....	27	<b>な</b>		
セットアップブートディスクの作成 .....	31	内蔵ステレオスピーカ .....	内蔵ステレオスピーカ .....	6
<b>た</b>		<b>に</b>		
ダイヤルアップ接続 .....	94	日本語入力プログラム .....	日本語入力プログラム .....	54
大容量ディスクサポート .....	211	入力キー .....	入力キー .....	52
タスクバー .....	(11)	<b>ね</b>		
タッチパッド .....	48	ネットワーク .....	ネットワーク .....	109
~ドライバのインストール		~ドライバのインストール	~ドライバのインストール	
Windows98インストールモデル .....	150	Windows98インストールモデル .....	Windows98インストールモデル .....	151
WindowsNT4.0インストールモデル .....	168	WindowsNT4.0インストールモデル .....	WindowsNT4.0インストールモデル .....	162
~の不具合 .....	191			
タブ .....	(11)			
ダブルクリック .....	49			

Windows2000インストールモデル .....	182
～に接続する .....	12
ネットワークコネクタ(モデムLANコンボジャック) ..	9

## は

ハードディスクドライブ (HDD) .....	62
～のフォーマット .....	217
～の領域の変更 .....	209
～の不具合 .....	194
パスワード .....	128
バックアップディスクの作成	
Windows98インストールモデル .....	21
WindowsNT4.0インストールモデル .....	26
Windows2000インストールモデル .....	30
FD .....	58
HDD .....	62
バックライト .....	75
バッテリーパック .....	38
～の装着 .....	11
～の不具合 .....	189
パラレルコネクタ .....	9,109
パワーマネージメント .....	103
ハングアップ .....	35

## ひ

ビデオ出力ジャック .....	9
表示色の変更 .....	80
表示装置 .....	75

## ふ

フォーマット (FD) .....	60
フォーマット (HDD) .....	217
プリンタの不具合 .....	198
フロッピーディスクドライブ (FDD) .....	58
～の不具合 .....	193
フロッピーディスク (FD) .....	58

プロダクトキー .....	14
プロバイダ .....	89

## へ

ヘッドフォン出力コネクタ .....	9
--------------------	---

## ほ

ボタン .....	(11)
ホットキー .....	56
～ユーティリティのインストール	
Windows98インストールモデル .....	150
WindowsNT4.0インストールモデル .....	168
ボリューム調節ダイヤル .....	6

## ま

マイク入力コネクタ .....	9
マウスコネクタ .....	9
マウスの接続 .....	51
マニュアルディスク .....	5

## め

メールの送受信 .....	101
メモリ (SODIMM) .....	113
～の不具合 .....	197

## も

モデム .....	87
～の不具合 .....	199
モデム・LANコンボジャック .....	9

## ゆ

ユーティリティCD .....	5
ユーティリティFD .....	5

## ら

ライトプロテクト (FD) ..... 61

ライン入力コネクタ ..... 9

## り

リセット ..... 35

リセットホール ..... 36

リチウム電池の交換 ..... 207

## れ

レジューム ..... 108

## ろ

ローバッテリーサスペンド ..... 41

論理MS-DOSドライブ ..... 209

## わ

ワイヤレスリンク ..... 74

# Memo

## ご注意

---

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

## 使用限定について

---

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

## 本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

---

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## 電波障害について

---

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 国際エネルギースタープログラムについて

---

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

## 漏洩電流自主規制について

---

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 高調波ガイドライン適合品

---

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

## 商標について

---

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentiumは Intel Corporation の登録商標です。Celeron は Intel Corporation の商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標（地域によっては登録商標）です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



# エプソン販売株式会社



大豆油インキを  
使用しています。



このユーザーズマニュアルは  
再生紙を使用しています。

C77115002 01.05-15.15(SO)